

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

事業報告書

令和5年3月

厚生労働省

目次

第1章	事業概要	1
第1節	背景と目的	1
第2節	事業概要	1
第3節	実行体制	2
第2章	相談窓口における取組について	7
第1節	相談窓口設置の目的	7
第2節	相談窓口における取組	7
第3節	各相談窓口の概要	9
第4節	各取組について	13
第3章	リビングラボにおける取組について	83
第1節	リビングラボ設置の目的	83
第2節	リビングラボにおける取組	83
第3節	各リビングラボの概要	84
第4節	各取組について	93
第5節	介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に係る実証支援	105
第4章	ニーズ・シーズマッチング支援事業について	109
第1節	マッチング支援事業の目的と支援内容	109
第2節	ニーズリストの公開	112
第3節	マッチング支援の実績	116
第4節	マッチング委員会	131
第5節	介護分野の歩き方	134
第5章	相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について	136
第1節	目的	136
第2節	実施内容	136
第6章	周知活動	145
第1節	ホームページの設置・運用	145
第2節	事業パンフレットの作成・配布	153
第3節	国際福祉機器展への出展	156
第4節	ニーズ・シーズマッチング支援セミナーの開催	169
第5節	セミナー・メディア等における当事業の周知実績	171
第7章	まとめ	173
第1節	事業成果	173
第2節	今後必要と考えられる取組	177

第1章 事業概要

第1節 背景と目的

日本の高齢化は、世界に例を見ない速度で進行しており、介護人材不足が大きな課題となっている。介護分野の人材を確保する一方で、高齢者の自立支援を促進し、質の高い介護を実現するためのロボット・センサー等のテクノロジーの活用が期待されている。

今後さらに、その活用を推進するためには、介護現場のニーズをふまえた技術開発、介護現場へのテクノロジーの周知・体験機会の創出、テクノロジーを活用した介護技術・業務改善方法の構築等、開発・導入・普及・活用それぞれの段階で必要な取組を実施していくことが重要である。

また新型コロナウイルス感染症が発生し、「新たな生活様式」が求められている中、見守りセンサーや ICT、非装着型の移乗支援などの非接触対応に効果的なテクノロジーの導入をより一層強力に進めていく必要がある。

本事業では、地域における開発から活用までの相談窓口（地域拠点）を設置するほか、介護ロボットの製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成するとともに、実証フィールドを整備することにより、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォームを構築し、企業による技術開発の促進を目的に、エビデンスデータを蓄積しながら、介護ロボットの開発・普及を加速化する。

第2節 事業概要

（1）事業内容

本事業の事業内容を以下に示す。

- ・ 相談窓口（地域拠点）
 - ① 相談窓口の設置
 - ② 介護ロボットの体験展示
 - ③ 介護ロボットの試用貸出
 - ④ 介護ロボットの導入支援活動
 - ⑤ 担当区域内でのネットワーク構築（協議会）
- ・ リビングラボネットワーク
 - ① 介護ロボットの製品評価・効果検証
 - ② 介護ロボットの効果検証に係る助言
 - ③ 効果測定事業に係る助言
- ・ 事務局
 - ① 相談窓口（地域拠点）、リビングラボネットワークの活動支援
 - ② ニーズ・シーズマッチング支援事業の実施

事業内容の全体像を以下に示す。

図表 1-1 事業内容の全体像



第3節 実行体制

本事業の実施体制は、全国17か所の相談窓口、全国8か所の基幹型リビングラボおよび7か所の支援型リビングラボ、厚生労働省および事務局からなる。

(1) 相談窓口

本事業にて設置した相談窓口は下記17か所である。

図表 1-2 本事業で設置した相談窓口一覧

名称	所在地
社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	〒060-0006 北海道札幌市中央区北6条西16丁目1番地5 ほくたけビル
社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30
公益財団法人 いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	〒020-0015 岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	〒950-0992 新潟県新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ 1F
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	〒320-0072 栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ1階
社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65

社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業 団横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山 町 1770
社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター	〒930-009 富山県富山市安住町 5 番 21 号
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センタ ー 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口	〒559-0034 大阪府大阪市住之江区南港 北 2 丁目 1-10 ATC ビル ITM 棟 11F
ひょうごKOBЕ介護・医療ロボット開発・導入支 援窓口	〒651-2181 兵庫県神戸市西区曙町 1070
社会福祉法人 健祥会 徳島県介護実習・普及センター	〒779-310 徳島県徳島市国府町東高輪 字天満 356 番地 1
一般社団法人 日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	〒731-0124 広島県広島市安佐南区大町 東 1-18-44
愛媛県介護実習・普及センター	〒790-8553 愛媛県松山市持田町三丁目 8 番 15 号 愛媛県総合社会福祉会館内
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬 借一丁目 7-1 総合保健福祉センター1 階
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分 県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロ ボット普及推進センター	〒870-0161 大分県大分市明野東 3 丁目 4 番 1 号
鹿児島県介護実習普及センター	〒892-0816 鹿児島市山下町 14-50 かご しま県民交流センター内

(2) リビングラボ

本事業で選定した基幹型リビングラボは以下 8 か所である。

図表 1-3 本事業で選定した基幹型リビングラボ一覧

名称	所在地
東北大学青葉山リビングラボ	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字 青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科 機械系共同棟 5 階
Care Tech ZENKOUKAI Lab (社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所)	〒144-0033 東京都大田区東糀谷六丁目 4 番 17 号
Future Care Lab in Japan	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-

(SOMPOホールディングス(株)、SOMPOケア(株))	14 グラスキューブ品川 10 階
柏リビングラボ (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・ 活動支援機器研究実証センター	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ 窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
ロボット活動支援機器実証センター (吉備高原医療リハビリテーションセンター)	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉 川 7511
スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学)	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひび きの 2-5 情報技術高度化センター

また、支援型リビングラボは以下7か所である。

図表 1-4 本事業で選定した支援型リビングラボ一覧

名称	所在地
社会福祉法人 孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司	〒800-0064 福岡県北九州市門司区松原 1 丁目 3-8
社会福祉法人 こうほうえん	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳 1400
公益社団法人 全国老人保健施設協会	〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 6 階
東北福祉大学	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見 1- 8-1
社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜	〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ケ 丘七丁目 141 番地 9
徳島文理大学	〒769-2193 香川県さぬき市志度 1314-1
北陸大学	〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘 1-1
株式会社 ベネッセスタイルケア	東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス ビル 5F

(3)厚生労働省

本事業における厚生労働省担当者は以下の通りである。

図表 1-5 厚生労働省担当者

氏名	所属
東 好宣	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 室長補佐
佐々木 憲太	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官
須賀 祐太	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 主査

(4)事務局担当者

本事業における事務局担当者は以下の通りである。

図表 1-6 事務局担当者

氏名	所属・役職
足立 圭司	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 先端技術戦略ユニット アソシエイトパートナー
大塚 恒治	同 マネージャー
金尾 翔悟	同 シニアコンサルタント
平良 未来	同 シニアコンサルタント
小松 夢希子	同 シニアコンサルタント
太刀川 遼	同 シニアコンサルタント
古川 和良	同 シニアコンサルタント
山内 勇輝	同 シニアコンサルタント
川北 篤史	同 コンサルタント
永田 拓磨	同 コンサルタント

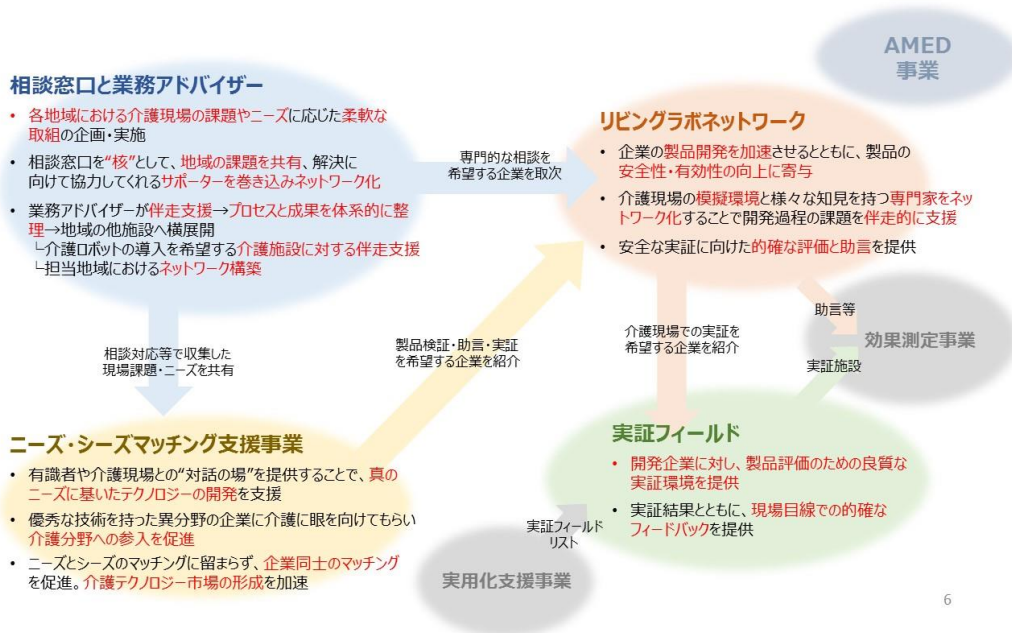
(5)事務局としての事業運営方針

本年度、事務局としての事業運営方針としては、他の関連事業と連携し、ALL JAPAN で介護ロボットの開発・実証・普及を進めていくこととした。

相談窓口においては、各地域における介護現場の課題やニーズに応じた柔軟な取組を企画・実施すること、相談窓口を核として、地域の課題の解決に向けて協力いただけるサポーターとのネットワーク化を進めていくこと、業務アドバイザーが伴走支援をして、プロセスと成果を体系的に整理し、地域の他施設へ横展開することとした。

リビングラボにおいては、開発企業に対して伴走的な支援を行うこと、各リビングラボの知見を事業・関係省庁を超えて共有しネットワークを強化することとした。

図表 1-7 本事業と他関連事業との関係



第2章 相談窓口における取組について

第1節 相談窓口設置の目的

介護ロボットの開発及び普及に係る課題解決を目的として、各地域において、介護現場及び開発企業双方が抱える課題についての相談を受け付ける窓口を全国に17か所設置した。

第2節 相談窓口における取組

相談窓口においては、相談業務、体験展示、試用貸出の3つの取組に加え介護ロボットの効果的な導入・活用に係る研修会、介護ロボットを導入しようとする介護施設に対する伴走支援及び地域のネットワーク構築を図る協議会について実施した。また、各地域の実情に応じ、各相談窓口において、介護ロボットの普及促進を図るための取組を実施した。

(1) 相談業務

介護現場(ニーズ)及び開発企業(シーズ)双方が抱える、介護ロボットの開発・実証・普及に関する課題が十分に解決されるよう、各種相談に応じるとともに、必要に応じてリビングラボへの取次を行うなどの相談対応を実施した。

(2) 体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボットを周知することを目的に、体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボットを展示するのみでなく、実際に触れて使用できる環境を整備した。

(3) 試用貸出

介護ロボットを導入する前に、自分たちの介護現場での使用感を確認してもらうことを目的として介護現場への試用貸出を実施した。

(4) 介護ロボットの効果的な導入・活用に係る研修会

「令和3年度介護ロボット等の効果測定事業一式」(厚生労働省委託事業)において作成された「介護ロボット導入のパッケージモデル」(以下、「パッケージモデル」という。)の普及を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定、介護ロボット導入時の留意事項、介護ロボット導入による効果等について説明した。

(5) 介護ロボットを導入しようとする介護施設に対する伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボットを導入しようとする介護施設に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット選定に関する助言、介護ロボットの導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等による導入支援(伴走支援)を行った。

(6)地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボットの導入に先進的に取り組んでいる介護事業所、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に係る情報の共有、本事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。

第3節 各相談窓口の概要

(1) 相談窓口の設置

全都道府県を網羅できるよう下表の通り全国17か所に相談窓口を設置した。

図表 2-1 各相談窓口の所在地と担当エリア

相談窓口名	所在地	担当エリア
(福)北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 (北海道相談窓口)	北海道札幌市中央区北 6条西16丁目1番地5 ほくたけビル	北海道
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及 センター (青森相談窓口)	青森県青森市中央3丁 目20-30	青森県、秋田県
(公財)いきいき岩手支援財団岩 手県高齢者総合支援センター (岩手相談窓口)	岩手県盛岡市本町通3 丁目19-1 岩手県福祉総合相談セ ンター3階	岩手県、宮城県、山形県、 福島県
新潟県福祉機器展示室 介護ロボ ット相談窓口 (新潟相談窓口)	新潟県新潟市中央区上 所2-2-2 新潟ユニゾ ンプラザ1F	新潟県、群馬県、長野県
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用 センター (栃木相談窓口)	栃木県宇都宮市若草1- 10-6 とちぎ福祉プラザ1 階	茨城県、栃木県
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 (埼玉相談窓口)	埼玉県さいたま市浦和区 針ヶ谷4-2-65	埼玉県、千葉県
(社)横浜市リハビリテーション事業 団 横浜市総合リハビリテーションセン ター 介護ロボット相談窓口 (横浜相談窓口)	神奈川県横浜市港北区 鳥山町1770	東京都、神奈川県、山梨 県
(福)富山県社会福祉協議会 富山県介護・実習普及センター (富山相談窓口)	富山県富山市安住町5 番21号	富山県、石川県、岐阜県、 福井県
(国研)国立長寿医療研究センタ ー 健康長寿支援ロボットセンター (愛知相談窓口)	愛知県大府市森岡町7- 430	静岡県、愛知県、三重県、
ATC エイジレスセンター 介護ロボ ット相談窓口 (大阪相談窓口)	大阪府大阪市住之江区 南港北2丁目1-10 ATCビル ITM 棟11F	大阪、滋賀、奈良県、和歌 山県
ひょうごKOBE介護・医療ロボット 開発・導入支援窓口 (兵庫相談窓口)	兵庫県神戸市西区曙町 1070	京都府、兵庫県、鳥取県

(社福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター (徳島相談窓口)	徳島県徳島市国府町東高輪字天満 356 番地 1	徳島県、香川県
愛媛県介護実習・普及センター (愛媛相談窓口)	愛媛県松山市持田町三丁目 8 番 15 号 愛媛県総合社会福祉会館内	愛媛県、高知県
(一社)日本福祉用具供給協会広島ブロック (広島相談窓口)	広島県広島市安佐南区大町東 1-18-44	岡山県、島根県、広島県、山口県
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター (北九州相談窓口)	福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目 7-1 総合保健福祉センター1階	福岡県、佐賀県、長崎県
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター (大分相談窓口)	大分県大分市明野東 3 丁目 4 番 1 号	大分県、宮崎県
鹿児島県介護実習普及センター (鹿児島相談窓口)	鹿児島市山下町14-50 かがしま県民交流センター内	熊本県、鹿児島県、沖縄県

(2)業務アドバイザーの選定

各相談窓口において、より専門的な相談に対応できる体制とするため、全ての相談窓口に介護ロボットに関する専門的知見を有する業務アドバイザーを配置した。

図表 2-2 各相談窓口の業務アドバイザー（敬称略）

相談窓口名	業務アドバイザー
北海道相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 株式会社マルベリー 靱山 祐歳 工藤 博
青森相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青田 俊枝 ▶ 株式会社バリオン介護環境研究所 金沢 善智
岩手相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター 玉山 公一 ▶ 株式会社 TRAPE

新潟相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ あおやまメディカル株式会社 稲毛 将人 五十嵐 行雄
栃木相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ とちぎノーマライゼーション研究会 理事長 伊藤 勝規 ➤ 安全なケア研究所 上田 喜敏
埼玉相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社シェアサポート 大内 英之
横浜相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 桑田 哲人 ➤ コニカミノルタ株式会社 掃部 幸一
富山相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 富山大学 芸術文化学部 客員准教授 富山市角川介護予防センター 中林 美奈子 ➤ 株式会社 TRAPE
愛知相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 鈴木 光久 富板 充
大阪相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 株式会社シーエフロボタス 逢坂 大輔 ➤ 株式会社介祉塾 砂 亮介
兵庫相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり研究所 福元 正伸 ➤ 株式会社 TRAPE
徳島相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会福祉法人健祥会 岸 拓司 佐山 育矢
愛媛相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 聖カタリナ大学

	<p>守谷 理佐</p> <p>➤ 株式会社 TRAPE</p>
広島相談窓口	<p>➤ 一般社団法人 日本福祉用具供給協会中国支部 広島県ブロック</p> <p>神田 久司</p> <p>➤ 株式会社 TRAPE</p>
北九州相談窓口	<p>➤ 麻生教育サービス株式会社</p> <p>澤 健次</p> <p>安部 千秋</p>
大分相談窓口	<p>➤ 大分県社会福祉介護研修センター</p> <p>小原 裕一</p> <p>高橋 昌三</p>
鹿児島相談窓口	<p>➤ 鹿児島大学医学部保健学科作業療法学専攻</p> <p>吉満 孝二</p> <p>➤ 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科</p> <p>藤田 賢太郎</p>

第4節 各取組について

第1項 相談業務

(1)介護現場（ニーズ側）への介護ロボットの導入方法や活用方法の紹介及び助言

図表 2-3 介護現場（ニーズ側）相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
介護ロボット導入方法全般の紹介		
1	介護ロボットの効果的な活用のための手引き	<ul style="list-style-type: none"> ▶厚労省による事業で作成された手引き ▶介護ロボット(6分野 13項目)の説明や、介護ロボット導入にあたっての基本的な考え方が記されている。 <p>https://pubpjt.mri.co.jp/pjt_related/roujinhoken/jql43u00000001m5-att/H30_100_3_handbook.pdf</p>
2	生産性向上に資するガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ▶厚労省による事業で作成されたガイドライン ▶業務改善の考え方、業務改善に向けた標準ステップ・ツール等が示されている。 <p>(施設サービス分/居宅サービス分/医療系サービス分の3パターン存在)</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei.html</p>
3	介護ロボットのパッケージ導入モデル	<ul style="list-style-type: none"> ▶厚労省による事業で作成された介護ロボット取組事例集 ▶各施設・事業所が抱える課題を抽出し、「改善策の取組」の手段（ツール）として介護ロボットの導入・活用を通じて得られた効果などを取組事例としてまとめている。 <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf</p>
介護ロボット具体例の紹介		
4	ロボット介護機器開発・導入促進事業 製品化機器一覧	<ul style="list-style-type: none"> ▶AMEDによるロボット介護機器の開発・導入促進事業 ▶開発企業等に対して補助を行うと共に、介護現場への導入に必要な基準作成等の環境整備を行うことが目的 ▶製品化機器一覧には、6分野 20事例が紹介されている。 <p>https://robotcare.jp/data/news/list2019_10ver1.pdf</p>
5	介護ロボット導入活用事例集 2017～2021	<ul style="list-style-type: none"> ▶厚労省による事業で作成された事例集 ▶介護ロボットの概要、導入事例、機器導入による介護業務の変化等、5年分で約60以上の事例が掲載されている。 <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000765226.pdf</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file02/jirei2020.pdf</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file30/jirei2018.pdf</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file29/jirei2017.pdf</p>

6	介護現場で活用されるテクノロジー便覧	<p>▶厚労省による事業で作成された介護ロボットをはじめとする様々な製品に関する便覧</p> <p>▶介護現場がテクノロジーの導入活用を検討する際に参考となるよう、国内で活用される介護テクノロジー102 製品を掲載している。</p> <p>https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16_02jigyohokokusho.pdf</p>
7	体験展示施設一覧	<p>▶担当エリア内の介護ロボットの体験展示が可能な施設の整理収集を行い一覧化</p> <p>※ 各相談窓口にて作成</p>
介護ロボット導入方法の紹介		
8	購入補助金/基金等の一覧	<p>▶介護ロボットの導入において利用可能な補助金、基金等の一覧</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
9	福祉貸与事業融資のご案内	<p>▶福祉貸与事業概要、融資対象、融資の流れ、等</p> <p>https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/kashitsuke/</p>
モデル事業/モデル施設の紹介		
10	介護技術開発支援モデル事業成果報告書 H27-H28	<p>▶厚労省によるモデル事業として介護ロボットを導入した施設の、介護ロボット導入における取組が紹介されている。</p> <p>▶2 カ年分で 10 施設</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/04modelwork27hosei.pdf</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file28/05modelwork28.pdf</p>
11	見学可能モデル施設情報一覧	<p>▶ 各地域のモデル施設の整理収集を行い、一覧化</p> <p>▶ 一覧を基に、見学できるよう取り次ぐ。</p> <p>※ 各相談窓口にて作成</p>
本事業の紹介		
12	事業紹介パンフレット	<p>▶本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組</p> <p>▶相談に当たっての Q&A、成果紹介 等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
13	ニーズ・シーズ連携協調協議会での成果	<p>▶各協議会からの報告内容</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000765217.pdf</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00005.html</p>
14	リビングラボの活動	<p>各リビングラボのホームページ・パンフレット等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>

(2)開発企業（シーズ側）への開発・実証・普及方法の紹介

図表 2-4 開発企業（シーズ側）相談で使用した資料

#	資料名	紹介内容
介護ロボットの開発方法に関する紹介		
1	介護ロボット 開発への補助 金・ファンドー 覧	<p>▶助成制度名、助成対象、助成額、問合せ先等</p> <p>※ テクノエイド協会にて取りまとめの上、展開</p>
介護ロボットの实証方法に関する紹介		
2	リビングラボ 対応可能事項	<p>▶リビングラボ名称、対応可能内容等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
3	試作機器への アドバイス支 援事業	<p>▶テクノエイドが実施する試作機器のアドバイス事業へ取り次ぐ。</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/robot/file02/01bosshu_kigyo.pdf</p> <p>(※URL は昨年度事業のもの、本年度事業が公開され次第通知します。)</p>
介護ロボットの普及方法に関する紹介		
4	介護ロボット 地域フォーラ ムパンフレッ ト/HP 等	<p>▶当フォーラムへの出展方法</p> <p>▶当フォーラムの実施スケジュール 等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
5	SNS 活用	<p>▶相談窓口で企画した SNS 上での介護ロボットの PR</p> <p>※ SNS での公開前に、事務局の確認を取る事</p>
本事業の紹介		
6	事業紹介パン フレット	<p>▶本事業概要、相談窓口の取組、リビングラボの取組 相談に当たっての Q&A、成果紹介 等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>
7	ニーズ・シーズ 連携協調協議 会での成果	<p>▶各協議会からの報告内容</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000765217.pdf</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00005.html</p>
8	リビングラボ の活動	<p>各リビングラボのホームページ・パンフレット等</p> <p>※ 事務局にて取りまとめの上、展開</p>

(3) 製品評価・効果検証に係る相談のリビングラボへの取次
開発企業から、リビングラボでの製品評価・効果検証の実施に関する依頼、または助言の要望を受けた場合、内容に応じ、必要な設備や知見を有するリビングラボへ取り次いだ。

(4) 実績

1) 相談窓口の相談受付件数

全相談窓口における相談受付件数は以下の通りであった。

図表 2-5 相談対応数

介護現場からの 相談対応数	754 件
開発企業からの 相談対応数	385 件

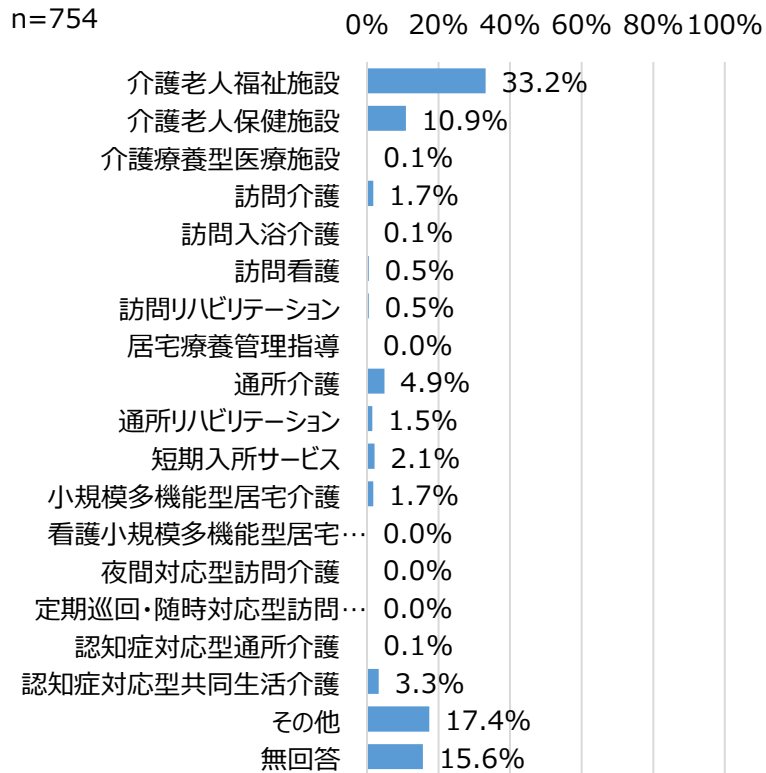
2) 相談の概要及び満足度

相談業務においては、相談後に相談者を対象としたアンケートを実施した。以下、アンケートの各項目の集計結果を示す。

a) 介護現場からの相談の概要及び満足度

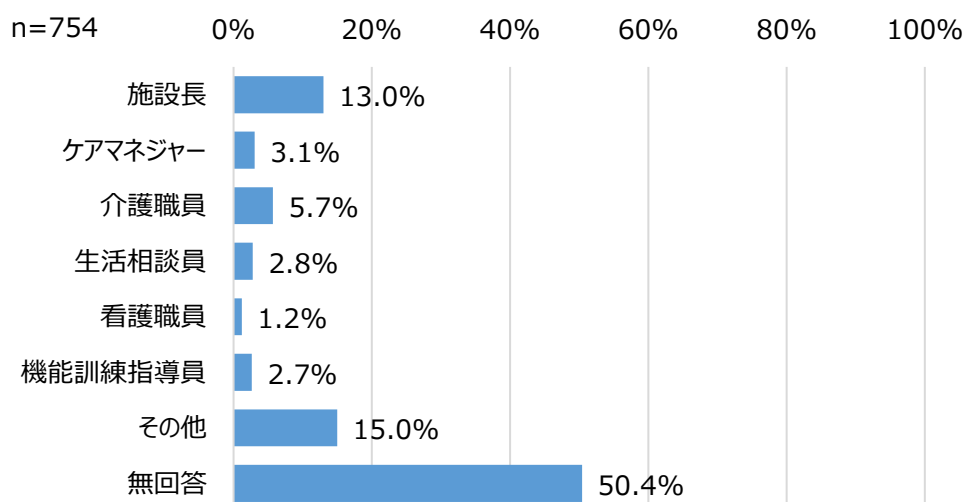
➤ 相談者が所属する介護サービス事業所の種別

図表 2-6 相談者が所属する介護サービス事業所の種別



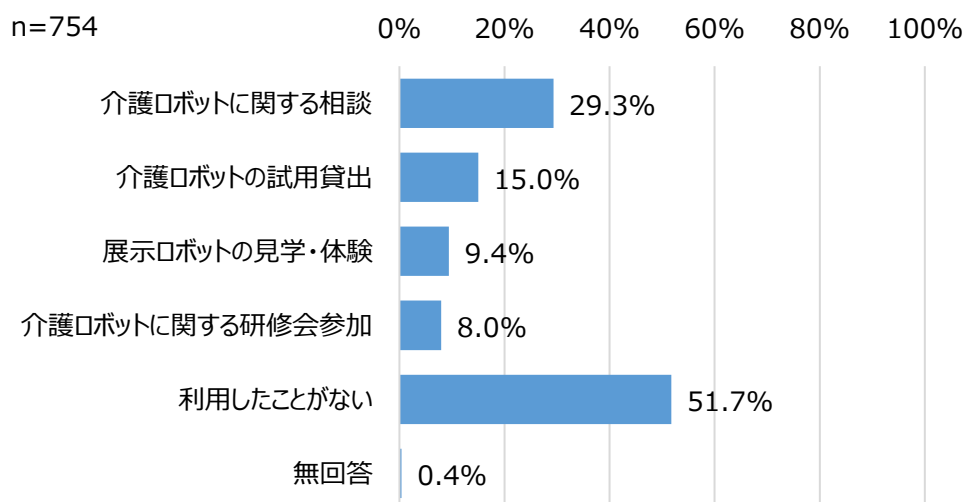
➤ 相談者の職種

図表 2-7 相談者の職種



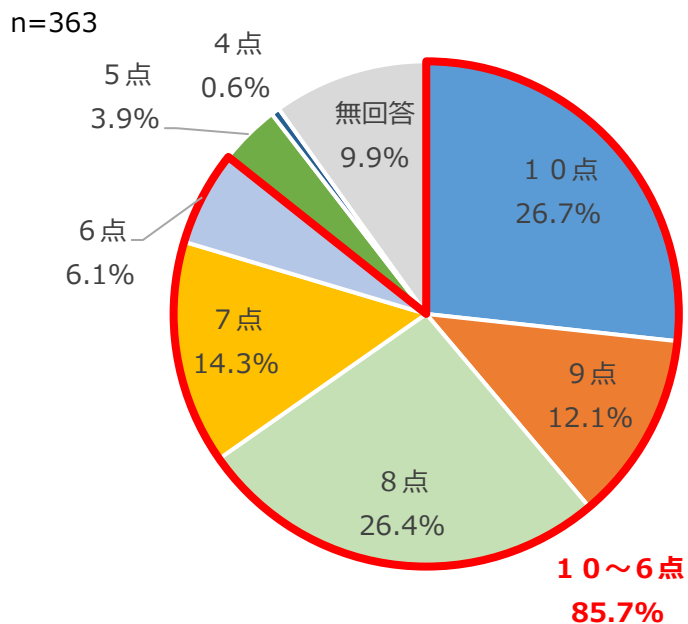
➤ 相談内容

図表 2-8 相談内容（複数回答）



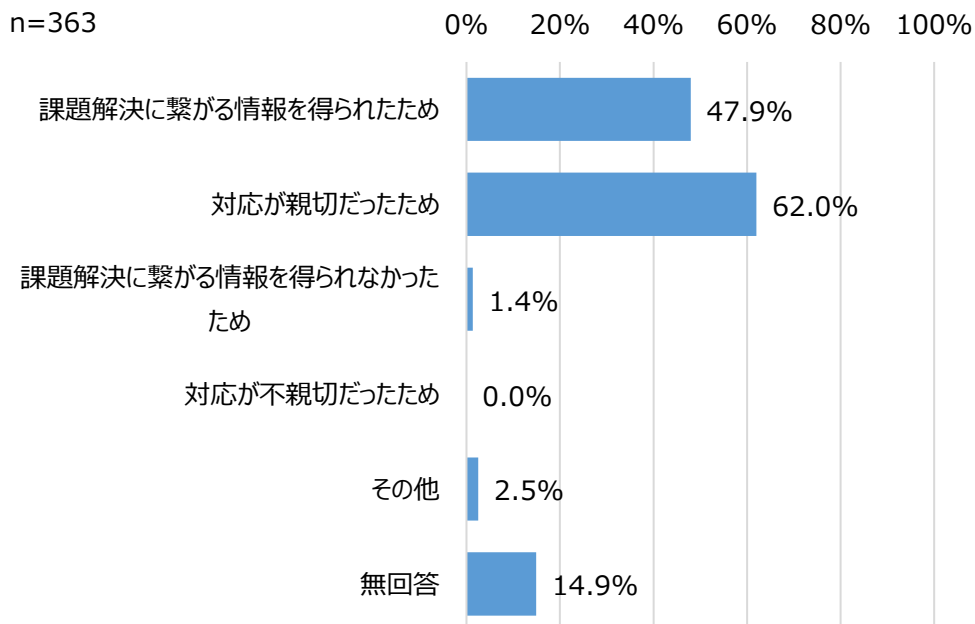
➤ 相談対応における満足度

図表 2-9 相談対応における満足度



➤ 相談対応における満足度の理由

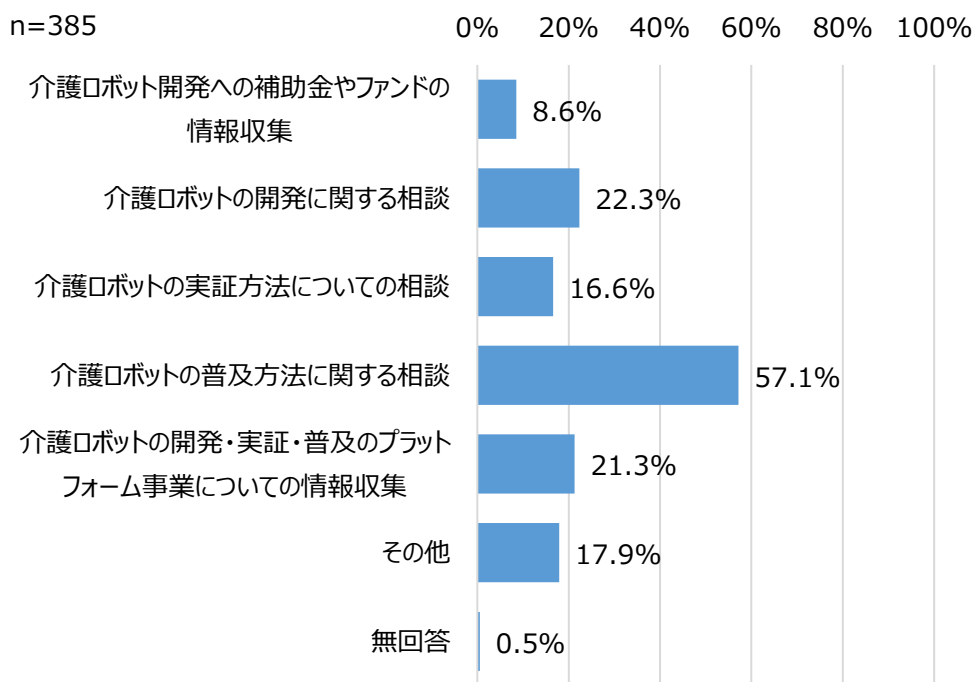
図表 2-10 相談対応における満足度の理由 (複数回答)



b)開発現場からの相談の概要及び満足度

➤ 相談内容

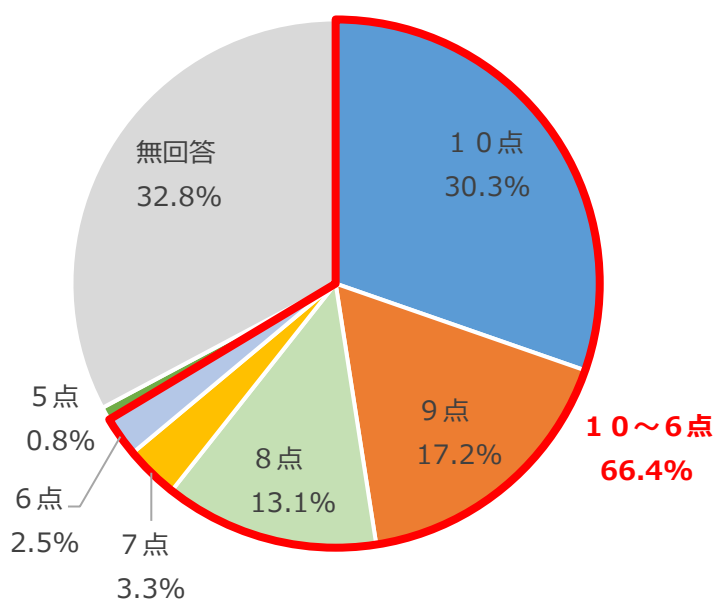
図表 2-1 1 相談内容 (複数回答)



➤ 相談対応における満足度

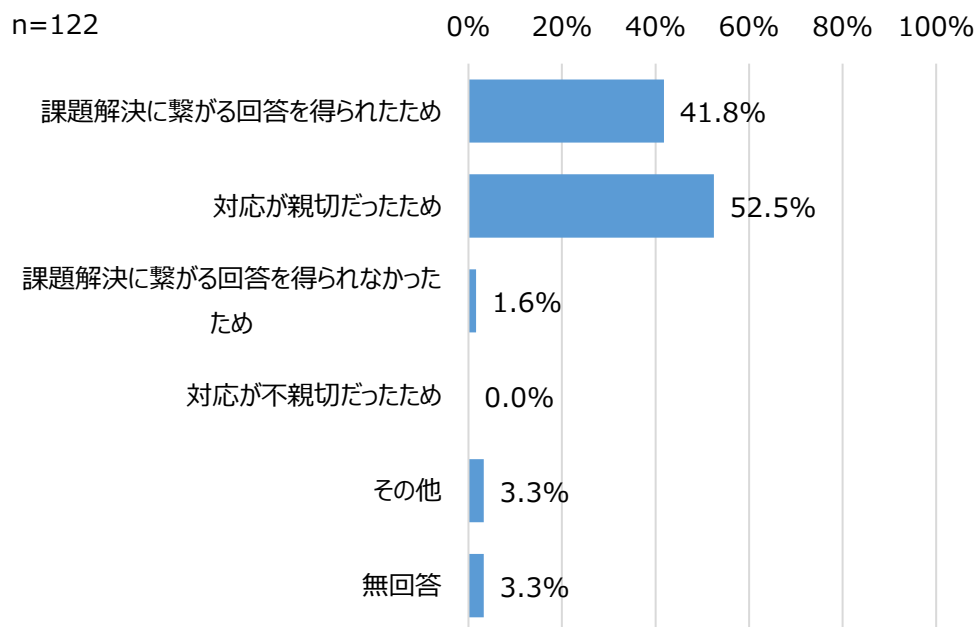
図表 2-1 2 相談対応における満足度

n=122



➤ 相談対応における満足度の理由

図表 2-13 相談対応における満足度の理由（複数回答）



3)各相談窓口における事例の紹介

①介護現場からの相談の事例

・ 青森相談窓口

相談内容種別	課題の見える化、導入計画づくり、試行的導入、マニュアル作成
ロボット分野	見守り支援機器
相談内容詳細	見守り支援機器を導入したい。導入に当たり、どのように進めていくか助言を受けたい。本格導入は令和5年度を予定している。
対応内容・結果	<p>【対応内容】</p> <p>①アンケート実施や意見交換の場を設定し課題整理を支援</p> <p>②実行計画づくりにあたり、介護ロボットの紹介やメーカーとの連絡調整、実行計画作成を支援（例や案を提示）</p> <p>1 か月程度のデモを調整し機器の機能・操作上の疑問点等に回答。改善策立案支援</p> <p>KPI:前と後で何が変わるか？指標の例示、マニュアル:こんな風に使おう！の意見集づくり</p> <p>③他施設の活用方法紹介(iPodとネックスピーカーの活用)</p> <p>【対応結果】</p> <p>眠りスキャンを試行的に導入し改善活動に取組中。マニュアル案は次ページのとおり(iPodに無料アプリをダウンロードしネックスピーカによる音声入力でメモを活用)</p>
相談者の声	<p>職員:</p> <p>介護ロボットの知識がなかったので詳しく説明を聞け、その都度進捗確認をしてもらって助かっている。特に、指標(KPI)。どのように数値化してよいか分からなかったので、具体的に例を示してもらい進めやすかった。</p> <p>管理者の声:</p> <p>窓口スタッフが訪問することが職員の前に進む力になっていて助かる。</p>
工夫点・気づき	<p>実行計画や改善策の様式を例示したり、他施設の事例紹介などでイメージが付けられた様子。ハードルが高くないよう分かりやすい表現(意見集、何が変わる?など)を心掛けた。</p> <p>また、コンタクト(訪問、Zoom等)を取ることが職員さんを後押ししていることから、特別な用事はなくとも定期的にコンタクトを取ることがポイント。</p>

・ 北九州相談窓口

相談内容種別	活用目的設定、機器情報収集
ロボット分野	見守り支援機器
相談内容詳細	令和元年に見守り支援機器(映像センサー＋バイタルセンサー)導入。故障により機器の入替を検討している。 新しく開発された機器の情報と活用事例などを参考に再導入を検討したい。
対応内容・結果	<p>【対応内容】 見守り支援機器の活用方法を確認。ヒアリングを行い、機器導入の目的を再度明確にさせていただく。機器情報の提供、展示場での実機体験を実施。機器導入における学習コスト、金銭的成本を踏まえた、現状の機器の活用、入替のプランを提示。</p> <p>【対応結果】 事故防止を主目的に据え、介護職員の使い慣れを優先し、既存の映像型センサーの故障分を追加購入することとなった。また、バイタルセンサーはサービス契約を解除することとなった。</p>
相談者の声	新機種の情報や機器性能アップなど情報収集ができ良かった。また、事業所で活用するための目的を再度明確にできた。
工夫点・気づき	様々な機器が出ているがやはり使い慣れているものを導入する事により使用時の再教育に掛ける時間が削減できる。 機器の故障や入替えにかかる費用など導入後も事業所は見据えて行かないといけない。

②開発企業からの相談の好事例

- ・ 愛知相談窓口

相談内容種別	開発コンセプト段階での相談事例
ロボット分野	移動支援機器
相談内容詳細	まだ社内企画の段階であるが、転倒リスクを低減しながら積極的な歩行・外出を促し、結果として身体機能維持向上を狙いとする歩行カートの開発を企画されており、社内コンペを通過していきたい。企画のブラッシュアップに際して、医療・介護現場の立場から助言を希望。
対応内容・結果	<p>【対応内容】</p> <p>企画グループメンバーの製品イメージをヒアリングしながら、想定される対象者がフレイル～要支援(軽度要介護)高齢者であることを確認。</p> <p>介護予防および要介護度進展予防の観点から、一定の現場ニーズがあることを伝え、コンプライアンスを高く保つための工夫(生体情報や歩行運動記録のフィードバック、デザインの洗練など)があると望ましい旨を助言。</p> <p>また、既製品と差別化するうえで、市販品の歩行補助具に関する情報を提供するとともに、当窓口の体験展示も見学いただいた。</p>
相談者の声	相談後、社内コンペを通過し、正式な開発プロジェクトとして今後継続できるようになった。
工夫点・気づき	今後プロトタイプを検証や現場での実証段階まで進んだ場合には、ラボ案件として引き続き当事業でご支援できることを具体的にご提示したことも、企画の具体化につながったのではないかと。

第2項 体験展示

介護現場や一般の方に介護ロボットを周知するため、実際に触れて使用できる体験展示場を整備した。

なお、介護現場の方が現場での活用場面をイメージできるよう、介護ロボットを展示するのみでなく、実際に触れて使用できるものとした。各相談窓口で体験展示した介護ロボットは下表の通りである。

(1)各相談窓口の展示ロボット一覧

図表 2-14 各相談窓口の展示ロボット一覧

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
北海道相談窓口	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	ライブコネクト
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	入浴支援	バスアシスト®
青森相談窓口	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	スカイリフト
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu
	移乗支援	AeroBack
	移乗支援	サラフレックス
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップボン・エール
	排泄支援	ラップボン・エール 2
	排泄支援	ヘルプパッド
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム眠りスキャン
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション	まもる～のHOME
	見守り・コミュニケーション	テントウボウシくん
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	おはなししようね 夢の子ネルル
	見守り・コミュニケーション	おはなししようね 夢の子ユメル
	見守り・コミュニケーション	もっとおりこう Dacky
	見守り・コミュニケーション	Aibo
	見守り・コミュニケーション	Qoobo Petit Qoobo
岩手相談窓口	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シヨン	
	見守り・コミュニケーション	いやし型赤ちゃんロボットスマイビ S
	見守り・コミュニケーション	TANO
	排泄支援	ラップポン・エール2
	排泄支援	トイレでふんばる君
	排泄支援	トイレでふんばる君 Z
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルIII
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	移乗です
	排泄支援	リリアムスポット2
新潟相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移動支援	リトルターン 電動アシスト付
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップポン・プリオ
	排泄支援	スカットクリーン
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	家族コール 3A・スマート
	見守り・コミュニケーション	—みまもり CUBE—
見守り・コミュニケーション	オスカー	
栃木相談窓口	移乗支援	DARWING Hakobelude
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
		アリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	サラフレックス
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	DFree Professional(※モックアップ)
	排泄支援	リリアムスポット2
	排泄支援	自動ラップトイレ ラップボン
	排泄支援	ベッドサイド水栓トイレ(旧型)
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife(※モックアップ)
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いまイルモ」
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	埼玉相談窓口	移乗支援
移乗支援		ROBOHELPER SASUKE
移乗支援		DARWING Hakobelude
移乗支援		衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
移乗支援		レイボエクソスケルトン
移乗支援		サラフレックス

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	自動ラップ式トイレ ラップポン・エール
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	排泄支援	リリアムスポット2
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いマイルモ」
	見守り・コミュニケーション	みまもりホットライン i-POT
	見守り・コミュニケーション	赤ちゃん型コミュニケーションロボット 泣き笑いたあたん
	見守り・コミュニケーション	なでなでねこちゃん DX3
	見守り・コミュニケーション	なでなでわんちゃん
	見守り・コミュニケーション	こんにちは赤ちゃん
	見守り・コミュニケーション	徘徊感知器 Me-MAMORIO(ミマモリオ)
	見守り・コミュニケーション	Ansiel
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	コミュニケーションロボット ハリくん ハチくん ミイちゃん
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シオン	
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN(スキヤン)
	見守り・コミュニケーション	握力支援 パワーアシストグローブ
	見守り・コミュニケーション	握力支援 パワーアシストハンド
	移動支援	電動車いす WHILL Model C
横浜相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug T1
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	DARWING Hakobelude
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	ラップポン・エール2
	排泄支援	家具調トイレ セレクトR 自動ラップ
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	aams/アアムス
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム「いまイルモ」
見守り・コミュニケーション	BOCCO emo LTE モデル	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シヨン	
	見守り・コミュニケーション シヨン	まもりこ
	見守り・コミュニケーション シヨン	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	入浴支援	バスアシスト®
	その他	サンライズビーチ
富山相談窓口	移乗支援	スカイリフト
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	DARWING Hakobelude
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移動支援	免荷式リフト POPO(ポポ)
	排泄支援	自動ラップ式トイレ ラップボン・ブリオ
	排泄支援	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	排泄支援	リリアムスポット2
	見守り・コミュニケーション シヨン	おむつモニター mini
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション シヨン	ペイシエントウォッチャープラス
	見守り・コミュニケーション シヨン	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	見守り・コミュニケーション シヨン	電動ベッドレストサポート付離床センサー内臓ベッド
	見守り・コミュニケーション シヨン	エンジェルアイ
見守り・コミュニケーション シヨン	見守り支援システム「いマイルモ」	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	メンタルコミットロボット パロ
	見守り・コミュニケーション	スマイビ S
	見守り・コミュニケーション	Aams
	見守り・コミュニケーション	センシングウェーブ
	見守り・コミュニケーション	Aiserv™ 排泄検知システム
	見守り・コミュニケーション	うちのあまえんぼ あみちゃん
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU助」
	入浴支援	バスリフト
愛知相談窓口	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	マッスルスーツエブリイ
	移動支援	自立推進トレーニングロボット J-Walker テクテック
	移乗支援	ロボスネイル OVER
	移動支援	免荷式リフト POPO
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	水洗ポータブルトイレ キューレット
	排泄支援	自動採尿器 Behome スマート集尿器
	見守り・コミュニケーション	離床センサーi サポート付ベッド
	見守り・コミュニケーション	リアルタイム見守りセンサーM-station
	見守り・コミュニケーション	高齢者見守りシステム 見守りライフ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams
	見守り・コミュニケーション	睡眠見守りシステムみまもりずむ
	見守り・コミュニケーション	癒やしロボットスマイビ S
	見守り・コミュニケーション	ネコリコホームプラス
	見守り・コミュニケーション	ライブコネクト
	見守り・コミュニケーション	BOCCO emo
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット 『Chapit』(チャピット)
	入浴支援	バスアシスト®
	見守り・コミュニケーション	とろみ自動調理サーバーAPEX30SV
大阪相談窓口	移乗支援	マッスルスーツ
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy (フレアリー)
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移動支援	リトルキーパス
	移動支援	リトルキーパス S
	排泄支援	ラップポン・エール 2
	排泄支援	ラップポン・ブリオ
	排泄支援	水洗ポータブルトイレ キューレット
	見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	パロ
	見守り・コミュニケーション	BOCCO emo
	見守り・コミュニケーション	Petit Qoobo (プチ クーボ)
	見守り・コミュニケーション	かまって「ひろちゃん」
兵庫相談窓口	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	見守り支援システム 眠りSCAN
	その他	LifeLens
	見守り・コミュニケーション	うららか GPS ウォーク/Z
	見守り・コミュニケーション	エンジェルアイ
	見守り・コミュニケーション	見守りライフ
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	マッスルスーツ Every タイトフィット
	移乗支援	リショーネ Plus
	移乗支援	スマートスーツ ライト
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	マルチポジションベッド
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移動支援	ACSIVE アクシブ 片脚用
移動支援	免荷式リフトPOPO(ポポ)	
排泄支援	水洗ポータブルトイレ キューレット	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	排泄支援	水洗式ポータブルトイレ「流せるポータくん」3号洗浄便座付き
	排泄支援	ラップボン・エール2
	排泄支援	自動排泄処理装置 キュラコ
	排泄支援	排泄動作支援機器「SATOILET(サットイレ)」
	見守り・コミュニケーション	パロ
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	在宅用服薬支援機「お薬のんでね！」
	見守り・コミュニケーション	服薬支援ロボ
	見守り・コミュニケーション	くすりコール
	見守り・コミュニケーション	ごっくんチェッカー
	見守り・コミュニケーション	OriHime
徳島相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗・移動ロボット Keipu
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	排泄支援	排泄予測デバイス Dfree Professional
	排泄支援	ラップボン・プリオ
	見守り・コミュニケーション	スマートナースコール eBell(イーベル)
	見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	見守り介護ロボット aams/アアムス
	見守り・コミュニケーション	介護予防プログラム「モフトレ」
愛媛相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	サラフレックス
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	見守りケアシステムM2
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
広島相談窓口	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップボン・プリオ
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN-eye
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅢ
	その他	ケアカルテ

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
北九州 相談窓口	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	移動支援	リトルターン自動アシスト付き
	移乗支援	歩行トレーニングロボット
	移動支援	J-Waiker テクテック
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®L1
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	レイボエクソスケルトン
	移乗支援	スマートスーツ Lite
	移乗支援	サポートジャケット PRO II
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルIII
	見守り・コミュニケーション	パロ
	見守り・コミュニケーション	TANO
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	その他	ライフレンズ
	見守り・コミュニケーション	—みまもり CUBE—
	見守り・コミュニケーション	A.I.Viewlife
	見守り・コミュニケーション	aams
	見守り・コミュニケーション	眠りSCAN eye
	見守り・コミュニケーション	見守りセンサ AiSleep
見守り・コミュニケーション	起上り検知センサー「ANSIEL」	
排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	排泄支援	排泄ケアシステム Helppad
	排泄支援	セレクト R 自動ラップトイレ
	排泄支援	パルース
	その他	ケアカルテ
	その他	ハナスト
	その他	誤薬チェッカー
	その他	FonLog
大分相談窓口	移乗支援	マッスルスーツ Every
	移乗支援	サポートジャケット Bb pro II
	移乗支援	サポートジャケット Bb FIT
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug@L1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 1
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップボン・エール2
	排泄支援	ベッドサイド水洗トイレ
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	排泄支援	Helppad
	排泄支援	SATOILET
	見守り・コミュニケーション	シルエット見守りセンサ
	見守り・コミュニケーション	みまもりシステム
	見守り・コミュニケーション	眠り SCAN
	見守り・コミュニケーション	Aams
	その他	ライフレンズ
	見守り・コミュニケーション	—みまもり CUBE—
見守り・コミュニケーション	うららかGPSウォーク	

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	見守り・コミュニケーション	PARO
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)
	見守り・コミュニケーション	スマイビ
	見守り・コミュニケーション	Comuoon(コミュニケーション)
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	入浴支援	バスリフト
	その他	ケアカルテ
	その他	ハナスト
	見守り・コミュニケーション	服薬支援ロボ
鹿児島 相談窓口	移乗支援	HAL® 腰タイプ介護・自立支援用
	移乗支援	衣服型アクティブパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	移乗支援	マッスルスーツ(スタンドアローンモデル)
	移乗支援	移乗サポートロボット Hug®T1
	移乗支援	ROBOHELPER SASUKE
	移動支援	ロボットアシストウォーカーRT. 2
	排泄支援	ラップポン・エール2
	排泄支援	排尿予測デバイス「DFree」
	見守り・コミュニケーション	見守りシステム Neos+Care(ネオスケア)
	見守り・コミュニケーション	見守りセンサ AiSleep
	見守り・コミュニケーション	レガメ介護センサー ベッドタイプ通信機能付
	見守り・コミュニケーション	PALRO 高齢者福祉施設向けモデルIII
	見守り・コミュニケーション	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)

相談窓口名	展示介護ロボット	
	分野	ロボット名
	シヨン	

(2)実績

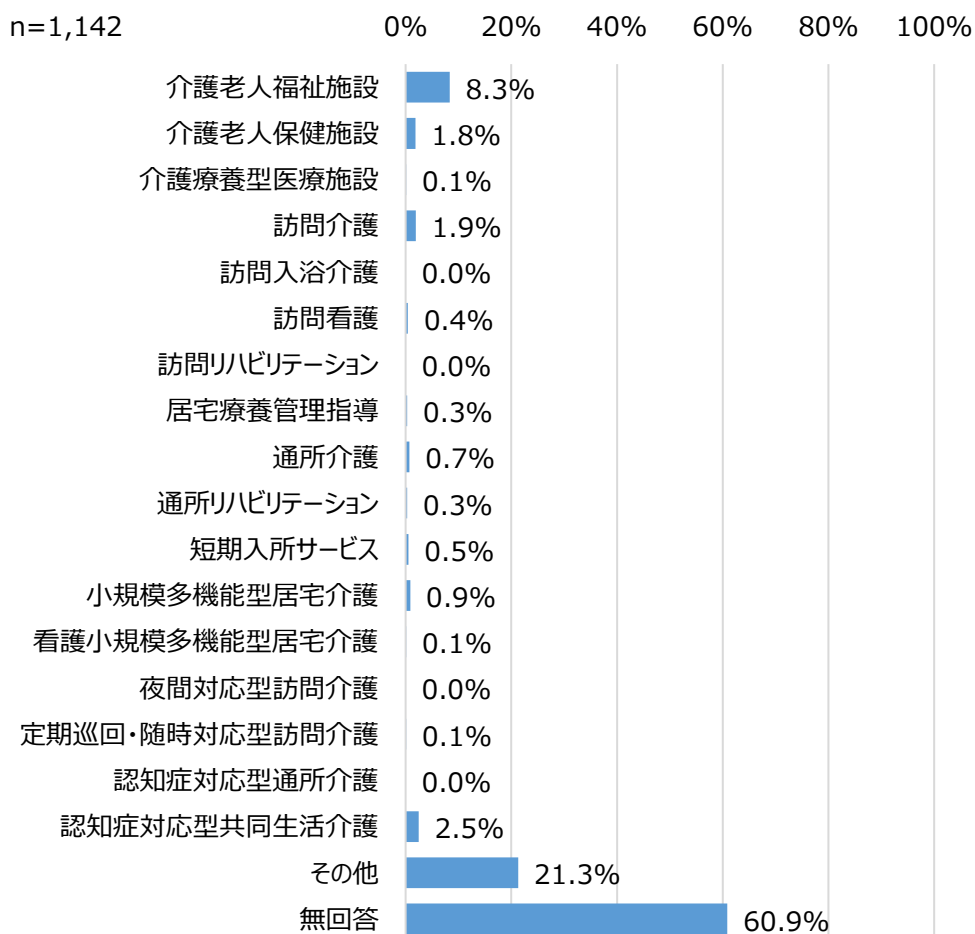
1)体験展示の来場者数 28,622 人

2)体験展示の来場者の属性及び満足度

体験展示においては、体験後に来場者を対象としたアンケートを実施した。以下、アンケートの各項目の集計結果を示す。

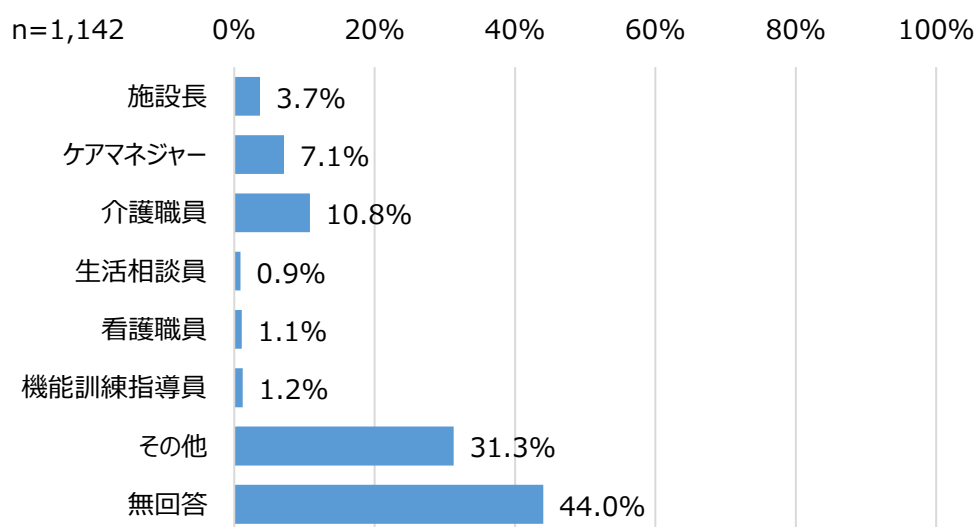
➤ 来場者が所属する介護サービス事業所・施設の種別

図表 2-15 来場者が所属する介護サービス事業所の種別



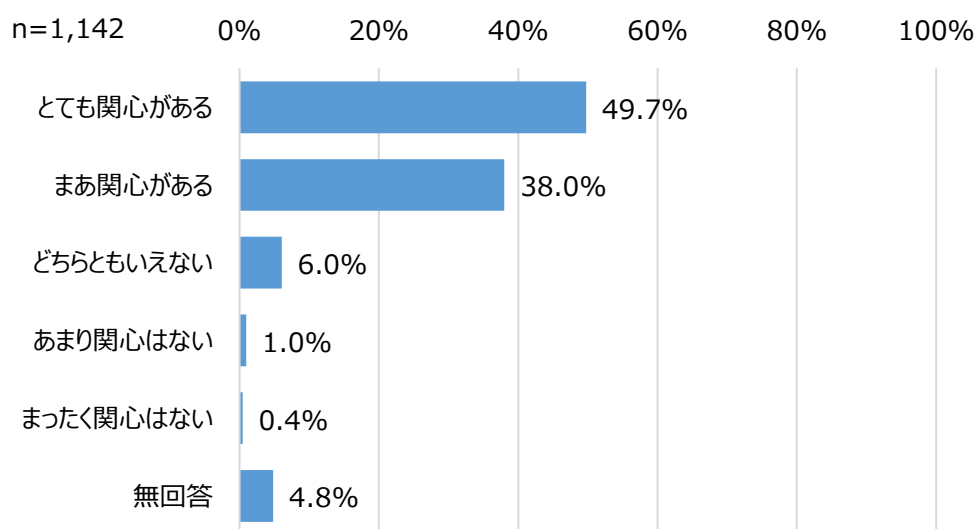
➤ 来場者の職種

図表 2-16 来場者の職種



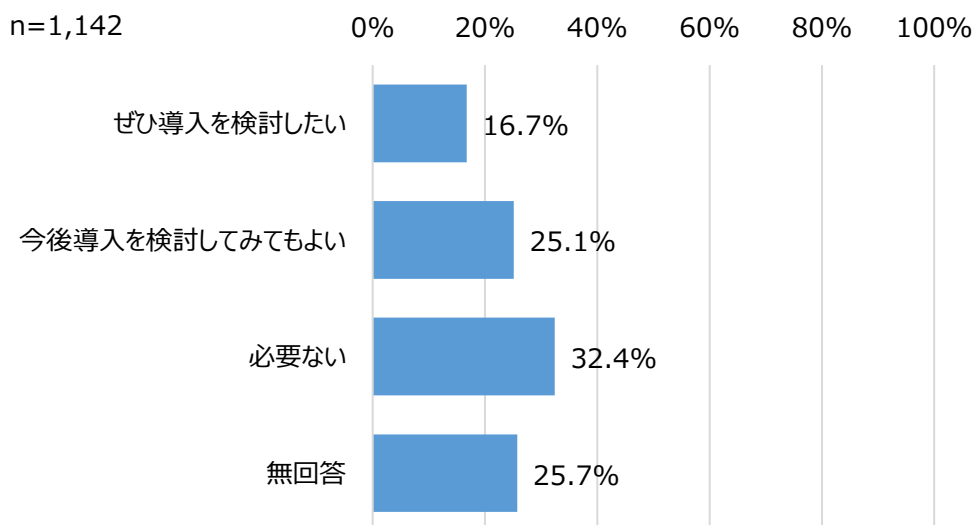
➤ 介護ロボットへの関心

図表 2-17 介護ロボットへの関心



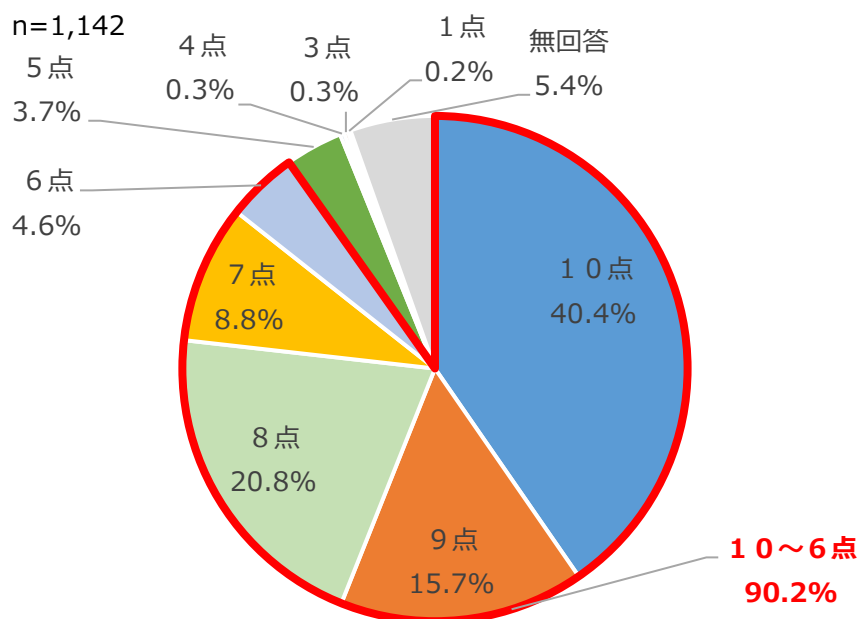
➤ 介護ロボットの今後の導入意向

図表 2-18 介護ロボットの今後の導入意向



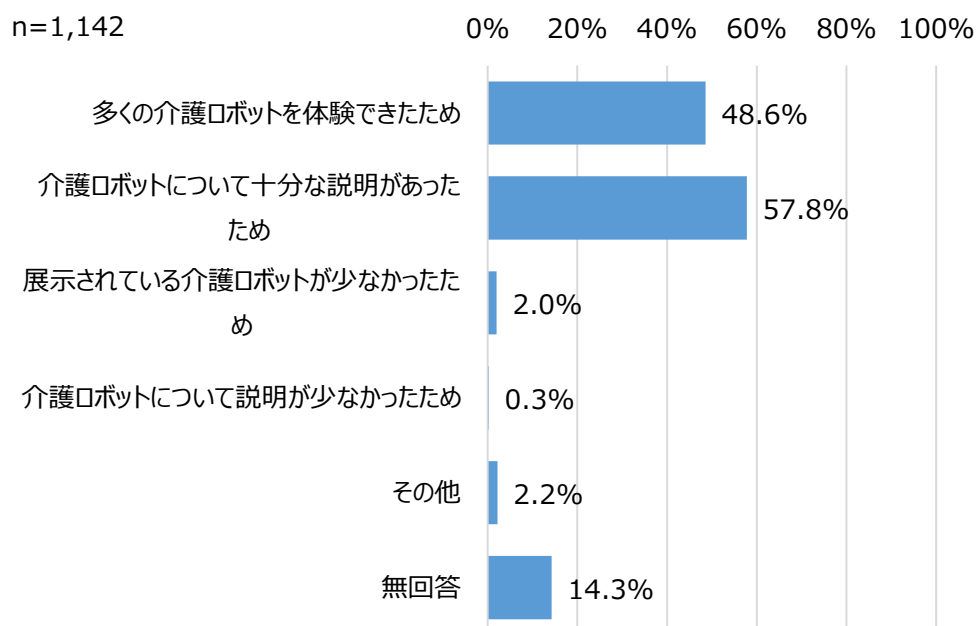
➤ 体験展示の満足度

図表 2-19 体験展示の満足度



➤ 体験展示の満足度の理由

図表 2-20 体験展示の満足度の理由（複数回答）



3) 体験展示における事例の紹介

- 徳島相談窓口

取組背景	<p>徳島県介護実習・普及センターの施設に常設展示場を設置しているが、体験展示目的での訪問は少ない現状がある。</p> <p>体験展示の利用を促すため、常設展示だけでなく、積極的に出張展示を実施した。</p>
取組内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修参加者への案内 母体である徳島県介護実習・普及センターでは、介護職員向けの研修等、様々な研修会、イベントを開催している。参加者にも介護ロボットの展示場があることを周知し、実際に体験していただいた。 出張展示 ショッピングセンターや包括支援センター、学校等、様々な研修やイベントに介護ロボットを持っていき、展示会を実施した。今年度は香川県の介護労働安定センター様より、出張展示依頼をいただき、「介護王座決定戦」の会場にロボットの展示場を設置。多くの来場者に体験していただいた。
取組結果	<p>【体験展示実績】944人(うち505人が出張展示) ※令和5年1月現在</p> <p>体験展示から試用貸出につながったものもある。</p> <p>(出張展示)</p> <p>社会福祉協議会と連携し徳島県内の中学校や高校での出展展示を実施できた。社協や学校からは好評であり、今後も連携を強化していく予定。</p>
工夫点・気づき	<p>普及センターで実施している研修参加者の多くは、実際に介護現場で働いている人が多いため、介護ロボットの普及活動には効果的であると感じた。</p> <p>学校関係へのアプローチは成功したが、今後は更に介護事業所へのアプローチを工夫し、試用貸出や伴走支援、導入につなげたい。</p>

・ 栃木相談窓口

取組背景	<p>栃木県相談窓口は体験展示スペースが広くはないため、重点分野を横断的に品ぞろえすると、個別分野の製品バリエーションが限られ、同分野で比較した説明や選定アドバイスが難しかった。具体的には、見守り機器では通知スピードや画面の見やすさ、画像の処理加減、移乗機器では操作しやすさや対象者身体状況の範囲などの、実機による比較が出来なかった。</p>
取組内容詳細	<p>期間を決めて企画展示を行なった。 これにより、一定期間限定ではあるが同分野の機器の品ぞろえが豊富となり、比較した製品説明が可能となる。</p> <p>○第1回企画展「利用者の安全とスタッフの負担軽減につながる見守り機器」 令和4年9月5日～9月30日(展示数8機種)</p> <p>○第2回企画展「ロボット技術を活用した腰痛対策機器」 令和4年10月24日～11月22日(展示数9機種)</p> <p>企画展示に合わせ、「導入支援セミナー」と題した、関連セミナー(研修会)を実施した。 研修会と企画展示を組み合わせた企画としてパンフレットを作成し、県内関連施設等にDM発送を行った。</p>
取組結果	<p>期間を決めての実施をすることで来場の動機づけになったと感じている。 「いつでも見られる」ではなく「いつまでしか見られない」という訴求効果があった。</p> <p>同じテーマの製品を比較しながら説明、体験できるので、提供できる情報に具体性が出ていたと同時に、実際の導入に対して目的を明確にすることや目的に合わせた選定ポイントを理解しやすかったと思われる。</p> <p>窓口スタッフにとっても、比較しながら学べるので、より深い製品知識の学びにつながった。</p>
工夫点・気づき	<p>ベッド上で利用するシートタイプ見守り機器は胸の下にシートを敷くが、通常の足側を頭にするポジションで設置することで、1台のベッドに2機種の体験展示を行った。</p>

・ 鹿児島相談窓口

取組背景	当窓口の運営母体である鹿児島県社会福祉協議会の福祉人材・研修センターが実施する「福祉の職場就職面談会」において介護ロボット体験コーナーを設置し、出展施設及び求職者への介護ロボットの紹介と体験を実施した。
取組内容詳細	<p>実施日時:令和5年1月28日 13:00~16:00</p> <p>実施場所:かごしま県民交流センター 大ホール</p> <p>出展状況:42ブース(46事業所)</p> <p>求職者 :40人</p> <p>展示介護ロボット 13点</p>
取組結果	今回の展示体験は、求職者への周知はもとより、出展している介護事業所への周知が大きな目的であった。ホームページや広報用チラシでの広報も行っているが、実際に見て触れて介護ロボットを理解していただく機会として体験コーナーを設置したが、37人の体験者があり、その大半は出展事業所の職員であった。
工夫点・気づき	毎年実施している就職面談会であったが、今回が初めての取り組みであった。出展事業所の職員の関心も高く、これからも主催部署との調整を行い、継続して取り組みたい。

第3項 試用貸出

介護ロボットの普及を促進するため、介護施設等への試用貸出業務を実施した。試用貸出機器については、テクノエイド協会が厚生労働省から委託を受けて実施している「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」(以下、「実用化支援事業」という。)と連携し、実用化支援事業の一環として実施されている「介護ロボット等試用貸出事業」の試用貸出機器リストを本事業においても使用した。試用貸出リストは図表 2-21 のとおり。

図表 2-21 試用貸出リスト

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
移乗支援(装着)	CYBERDYNE 株式会社	HAL®腰タイプ介護・自立支援用
	ダイヤ工業 株式会社	DARWING Hakobelude
	株式会社 ジェイテクト	衣服型アクティブパワーアシスト スーツ J-PAS fleairy(フレアリー)
	株式会社 加地	レイボエクソスケルトン
	株式会社 イノフィス	マッスルスーツ Every
移乗支援(非装着)	マッスル 株式会社	ROBOHELPER SASUKE
	株式会社 FUJI	移乗サポートロボット Hug® L1
		移乗サポートロボット Hug® T1
	株式会社 アイザック	移乗・移動ロボット Keipu-Sb
	アイ・ソネックス 株式会社	スカイリフト
	アルジョ・ジャパン 株式会社	サラフレックス
		マキシムーブ
マキシツイン		
株式会社 あかね福祉	移乗用介護ロボット「移乗です」	
移動支援(屋内)	パナソニック 株式会社	Walk training robo
	株式会社 ジェイテクト	J-Walker テクテック
移動支援(屋外)	RT. ワークス 株式会社	ロボットアシストウォーカーRT.1
		ロボットアシストウォーカーRT.2
移動支援(装着)	株式会社 INOWA	体感型歩行自立支援システム Arbre
排泄支援 (トイレ誘導)	トリプル・ダブリュー・ジャパン 株式会社	排尿予測デバイス「DFree」
	株式会社 リリアム大塚	リリアムスポット 2
	富士フィルムメディカル 株式会 社	iViz air
	株式会社 エフエージェイ	おむつモニター mini
	新東工業 株式会社	Aiserv® 排泄検知システム
排泄支援 (排泄処理)	アロン化成 株式会社	水洗ポータブルトイレ キューレット
	株式会社 アム	水洗式ポータブルトイレ 「流せるポータくん」3号洗浄便座付き

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称
	株式会社 キュラコジャパン	自動排泄処理装置 キュラコ
見守り・コミュニケーション (施設)	エコナビスタ 株式会社	ライフリズムナビ ®+Dr.
	コニカミノルタ 株式会社	HitomeQ ケアサポート(ヒトメクケアサポート)
	株式会社 ツカモトコーポレーション	AlgoSleep 介護用見守りセンター
	トーテックアメニティ 株式会社	見守りライフ
	キング通信工業 株式会社	シルエット見守りセンサ
	エイアイビューライフ 株式会社	A.I.Viewlife
	株式会社 TAOS 研究所	見守りセンサ AiSleep
	凸版印刷 株式会社	SensingWave® 介護・睡眠見守りシステム
	リコージャパン 株式会社	リコーみまもりベッドセンサーシステム
	株式会社 Z-Works	ライブコネクト
	コアフューテック 株式会社	e 伝之介くん
	フランスベッド 株式会社	見守りケアシステム M-2
	株式会社 AXIVE	CareVision(ケアビジョン)
	株式会社 エイビス	エイビスみまもりシステム
	株式会社 ソルクシーズ	見守り支援システム「いまイルモ」
	バイオシルバー	aams.介護
	ドーンコーラス 合同会社	高齢者・障害者支援施設向け 見守り支援システム「もりん2」
	三昌商事 株式会社	見守りシステム “CareBird”
	加藤電機 株式会社	見守りシステム SAN フラワーX ヘルシーライフ
	株式会社 ハピネスコーポレーション	lot 見守りシステム Happiness 絆
	シーホネンス 株式会社	ベッド内蔵型見守りセンサー「i サポート」搭載 X シリーズ
	株式会社 インフィック・コミュニケーションズ	LASHIC-care(ラシクケア)
	株式会社 シンセイコーポレーション	Care-Top
	株式会社 FEN	どこでもナースコール・見守りセンサー
	積水化学工業 株式会社	見守りセンサー「ANSIEL」
	株式会社 リンクジャパン	スマートナースコール eBell(イーベル)
株式会社 メディカルプロジェクト	シッタープロ	

介護ロボットの種類	企業名	介護ロボットの名称	
	株式会社 フューチャーインク	Vital Beats 3in1	
	株式会社 コンフォート	エンジェルアイ	
	株式会社 アルコ・イーエックス	ペイシエントウォッチャープラス	
	株式会社 ヒート	みてるもんシリーズ V2	
	竹中エンジニアリング 株式会社		サーバー内臓予測型見守りセンサー
			ベッドモニターケア
	株式会社 ラムロック	みまもり CUBE ーシステム Light ー	
	富士ソフト株式会社	PALRO® 高齢者福祉施設向けモデルⅢ	
株式会社 メディカルスイッチ	見守り機能付き服薬支援ロボット「FUKU 助」		
見守り・コミュニケーション (在宅)	ノーリツプレジジョン 株式会社	見守りシステム Neos+Care (ネオスケア)	
	株式会社 トレイル	うららか GPS ウォーク	
	株式会社 ZIPCARE	まもる～の HOME	
	株式会社 ラムロック	ーみまもり CUBE ー	
見守り・コミュニケーション (生活支援)	株式会社 レイトロン	音声認識コミュニケーションロボット『Chapit』(チャピット)	
	株式会社 チカク	テレビ電話	
入浴支援	株式会社 ハイレックスコーポレーション	バスアシスト®	
介護業務支援	ジーコム 株式会社	ココヘルパ	

(1) 試用貸出の貸出件数 (全相談窓口合計)

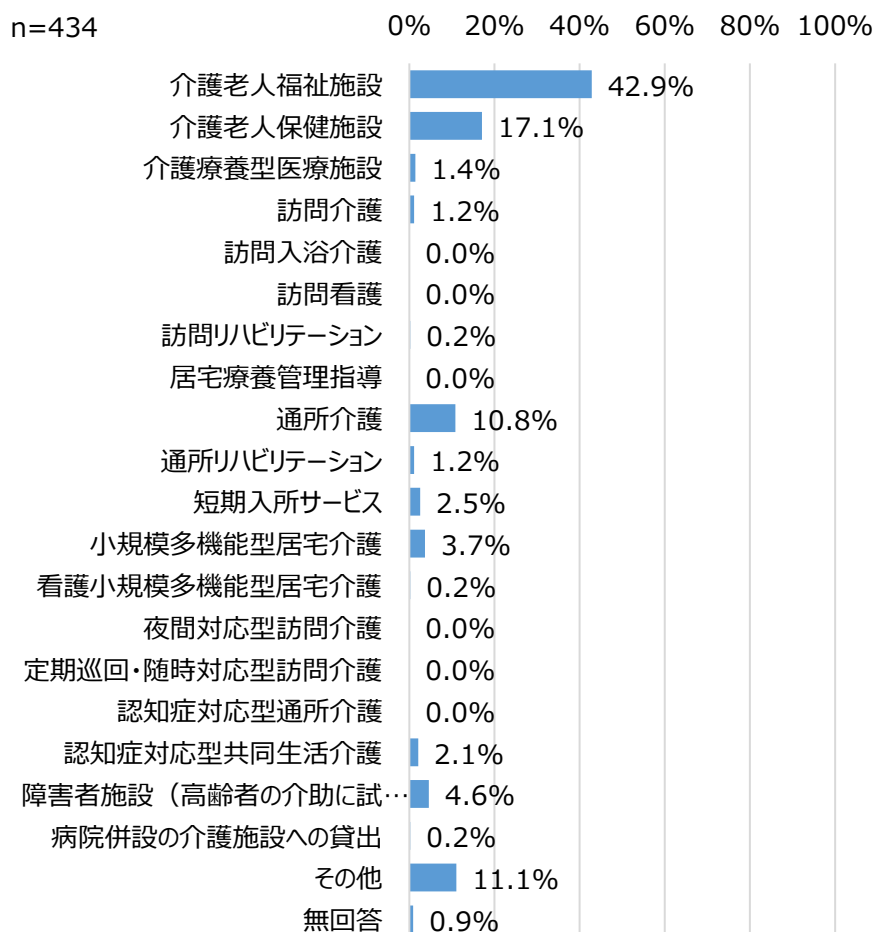
312 件

(2) 試用貸出の概要及び満足度

試用貸出においては、試用貸出終了後に貸出を受けた事業所・施設を対象としたアンケートを実施した。以下、アンケートの各項目の集計結果を示す。

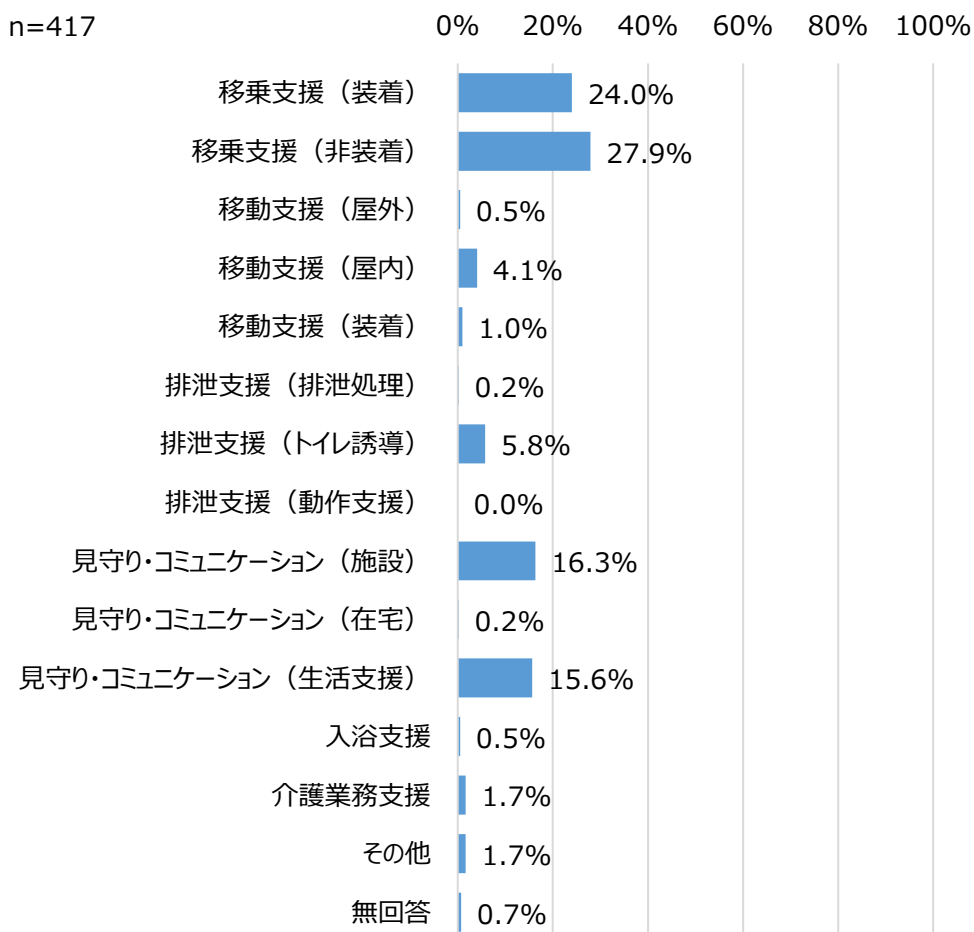
➤ 試用貸出を利用した介護サービス事業所・施設の種別

図表 2-22 試用貸出を利用した介護サービス事業所・施設の種別



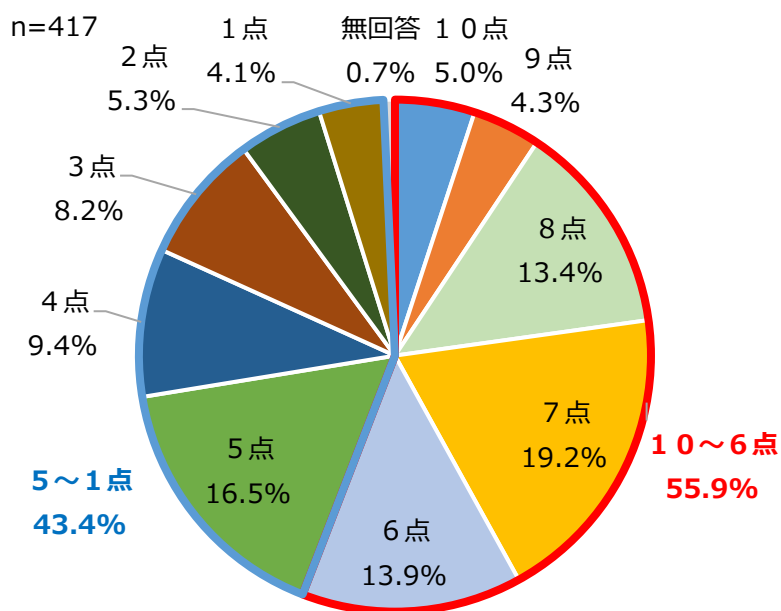
➤ 借り受けた介護ロボットの種類

図表 2-23 借り受けた介護ロボットの種類



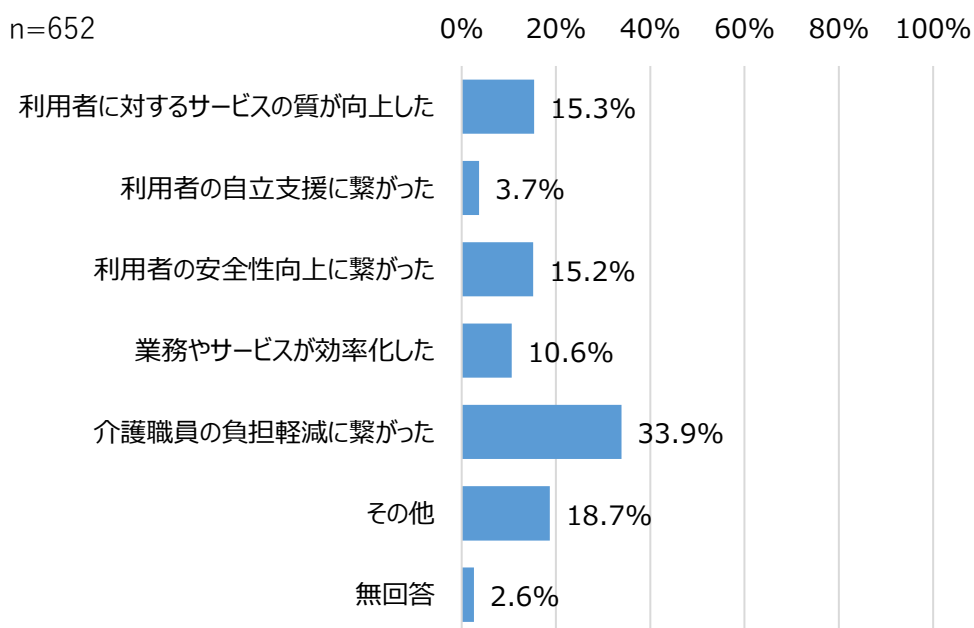
➤ 借り受けた介護ロボットについての満足度

図表 2-24 借り受けた介護ロボットについての満足度



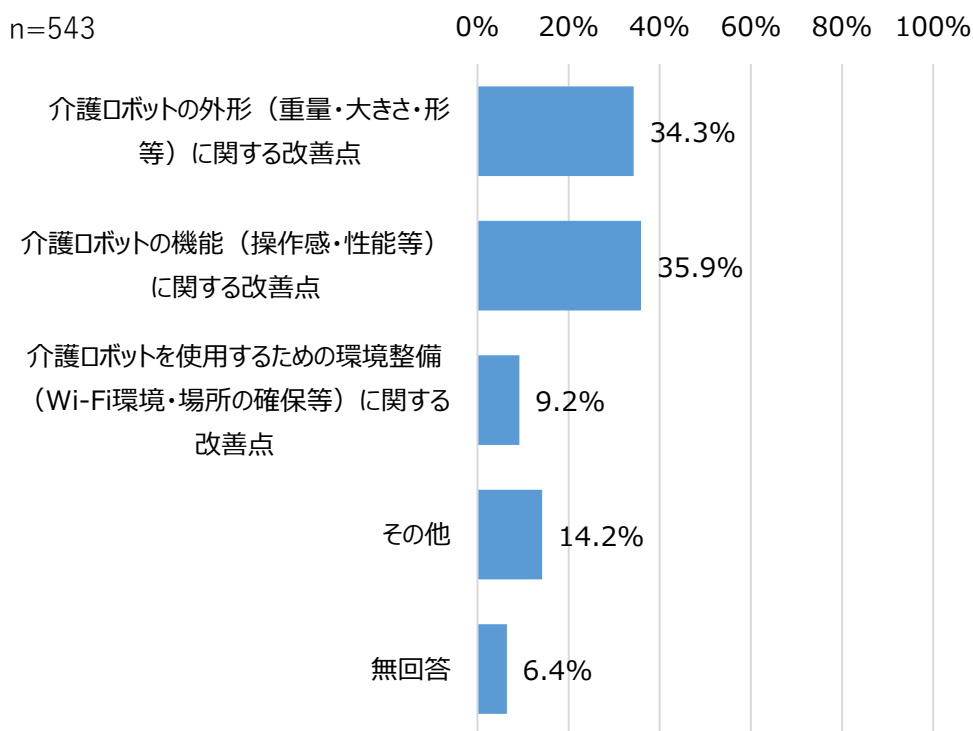
➤ 借り受けた介護ロボットを使用した効果

図表 2-25 借り受けた介護ロボットを使用した効果（複数回答）



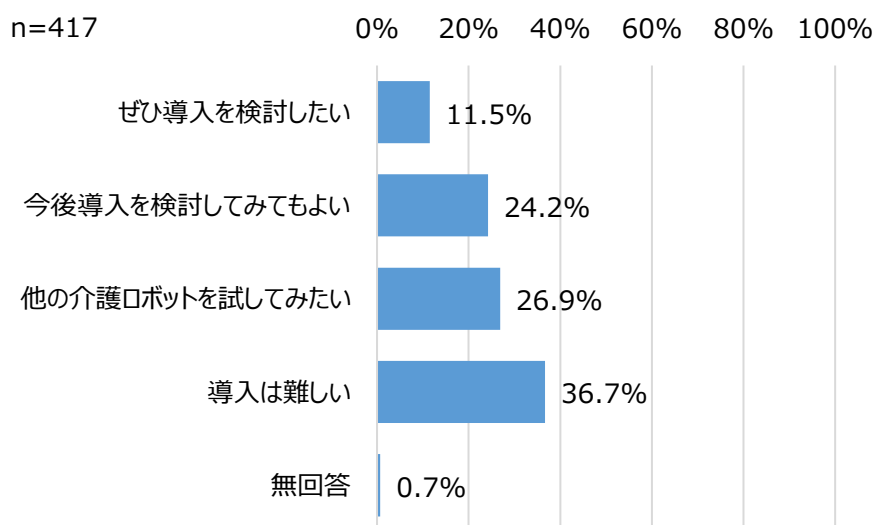
➤ 借り受けた介護ロボットの改善点

図表 2-26 借り受けた介護ロボットの改善点（複数回答）



➤ 借り受けた介護ロボットの導入意向

図表 2-27 借り受けた介護ロボットの導入意向



第4項 研修会

「介護ロボット導入のパッケージモデル」(以下、「パッケージモデル」という。)の普及を目的とした研修会を実施し、パッケージモデルでまとめられた、現場の課題とそれに応じた介護ロボットの選定、介護ロボット導入時の留意事項、介護ロボット導入による効果等について説明した。

(1)各相談窓口の研修会実施実績

相談窓口名	開催日	議事
北海道相談窓口	令和4年11月8日 12月6日 12月14日	<ul style="list-style-type: none"> 失敗しない介護ロボット導入方法～介護ロボット導入のパッケージモデルの紹介 ※研修会と併せて介護ロボット展示会を実施
青森相談窓口	令和4年9月15日	<ul style="list-style-type: none"> テクノロジーを活用した生産性向上の取組のススメ ICT・IoT・介護ロボットとどう向き合うか 介護ロボット相談窓口事業のご紹介 介護ロボット・ICT等普及に係る青森県の取組と補助金情報
	令和5年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットに係る国の最新動向 青森県介護ロボット相談窓口による介護ロボット導入支援の取組 導入施設による成果報告とパネルディスカッション これから介護業界で求められる生産性向上(DX)の流れ
岩手相談窓口	令和4年10月12日	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットプラットフォーム事業について 経営戦略としてのテクノロジー導入を踏まえた生産性向上の取組 実践ワークショップ
	令和5年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援施設の進捗状況の共有 取組のフィードバックと生産性向上の取組について
	2月28日	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボットプラットフォーム事業について 経営戦略としてのテクノロジー導入を踏まえた生産性向上の取組 実践成果報告会:伴走支援3事業の取組 横展開に向けた取組モデルの紹介

新潟相談窓口	令和4年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における生産性向上について ・介護ロボットのプラットフォーム事業のご紹介 ・新潟県福祉展示機器室介護ロボット相談窓口紹介、介護ロボット導入のパッケージモデル説明、相談事例紹介、介護ロボット紹介
	11月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における生産性向上の推進について ・介護ロボットのプラットフォーム事業のご紹介 ・新潟県福祉展示機器室介護ロボット相談窓口紹介、介護ロボット導入のパッケージモデル説明、相談事例紹介、介護ロボット紹介
	令和5年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットプラットフォーム事業の紹介と生産性向上について ・新潟県相談窓口のパッケージモデル伴走支援の取組
栃木相談窓口	令和4年9月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り支援ロボット導入支援事例の紹介 ・生産性向上を考える上で大切なこと ・目的別見守り機器選定のポイント
	10月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設の腰痛対策と機器の導入 ・腰痛対策機器の実演
	令和5年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・腰痛予防対策は利用者/患者と介護提供者の安全になる ・腰痛対策の具体的な対応方法～セーフティケア～ ・セーフティケア実技
埼玉相談窓口	令和4年10月12日 10月19日 10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・“新登録”介護ロボットの紹介と介護ロボット導入手順の開設
横浜相談窓口	令和4年8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット相談窓口のご紹介 ・介護ロボット導入の失敗しないコツ～パッケージ導入モデル、生産性向上、伴走型支援のご紹介～ ・介護ロボットのご紹介最近の見守り・介護業務支援機器のご紹介～
	9月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市総合リハビリテーションセンター介護ロボット相談窓口紹介 ・介護ロボット導入のポイント、失敗しない秘訣とは

富山相談窓口	令和4年9月2日 12月8日・9日	・介護ロボットの基礎知識
愛知相談窓口	令和5年2月7日	・本事業の概要と相談窓口の活動について ・介護経営戦略としてのテクノロジー導入と生産性向上 ・モデル施設の取組発表 ・横展開に向けた取組モデル解説・Q&A
大阪相談窓口	令和4年7月22日	・介護ロボット・ICT 導入による具体的な活用事例と補助金情報！ ・介護ロボットは何故必要？介護ロボットプラットフォーム事業が見据える今後の介護 ・介護ロボットの導入はこう進めていこう！導入の秘訣とポイントについて！ ・介護ロボットゾーンのご案内(機器の紹介)
兵庫相談窓口	令和4年7月21日	・介護現場における生産性向上及び介護テクノロジー関連政策について ・兵庫県における介護ロボットの導入支援について ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の説明および相談窓口の役割紹介 ・介護分野における生産性向上の取組み紹介(パッケージモデル研修会)
	12月9日	・介護現場のICT活用について～記録システムとICT連携～ ・記録システムとICT連携機器紹介
徳島相談窓口	令和4年9月6日 12月13日 令和5年1月28日	・介護ロボットの効果的な導入と活用について～介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業のご紹介～ ・介護ロボット導入活用の9つのステップ～各種ICT・介護ロボットの紹介、現場の課題を見える化する因果関係図づくり～
	令和5年1月13日	・介護ロボット、ICTの現状と課題 将来の展望

愛媛相談窓口	令和4年9月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入支援事業等について ・経営戦略としてのテクノロジー導入を踏まえた生産性向上の取り組み ・実践ワークショップ～事業所ありたい姿と現状把握、生産性向上で成果を出すための経営者の役割～
	12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走支援事業の振り返り ・伴走支援の取組の現状共有について ・伴走支援の今後の活動について
	令和5年2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットプラットフォーム事業等について ・介護経営戦略としてのテクノロジー導入と生産性向上 ・介護ロボット導入のステップ・ポイント等の解説・Q&A
広島相談窓口	令和4年6月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット、ICT 機器の導入に関する基礎・応用講座(メリット・デメリット) ※伴走支援事業の紹介含む ・介護ロボット・ICT 機器を導入されている施設を交えたシンポジウム
	令和5年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・「生産性向上」の再定義と振り返り ・伴走支援対象施設より取組内容の報告・共有
	3月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走支援事業の目的振り返り ・伴走支援対象施設より成果報告
北九州相談窓口	令和4年8月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入・DX 推進の進め方～「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の紹介～ ・24年同時改定を踏まえ介護事業者の生き残り戦略とDX 推進
	8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入・DX 推進の進め方～「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の紹介～ ・介護記録×音声入力によるアタラシイカイゴ
	8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入・DX 推進の進め方～「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の紹介～ ・見守り支援機器×インカムによるカッコいいカイゴ
	8月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット導入・DX 推進の進め方～「介護ロボットのパッケージ導入モデル」の紹介～ ・介護ロボット相談窓口による支援

大分相談窓口	令和4年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴走支援施設紹介 ・ 伴走支援からの導入目的の発表 ・ パッケージモデル、業務改善の手引き説明 ・ 介護ロボット導入手順1～3の計画書作成
	令和4年9月7日 10月20日 12月16日 令和5年1月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織マネジメント・ケア技術指導者養成研修
	10月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴走支援施設における、導入状況の共有 ・ パッケージモデル手順4～6について:活動方法の説明、活動計画の立案
	令和5年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業紹介:介護ロボット等の開発・実証・普及のプラットフォーム事業について ・ 経営戦略としてのテクノロジー活用と人材育成～介護現場の生産性向上に向けて～ ・ 事業報告:大分県における介護ロボット等の導入に向けた伴走支援について
鹿児島相談窓口	令和4年9月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットの円滑な導入のポイント」 ・ 行政説明「介護ロボットの導入及び活用促進に向けた本県の取組について」 ・ 排尿予測デバイス Dfree 導入の試行取組について
	11月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットの円滑な導入のポイント ・ 行政説明「介護ロボットの導入支援に向けた沖縄県の取組」 ・ 社会福祉法人千尋会介護老人福祉施設嬉の里における介護ロボット導入について
	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットの円滑な導入のポイント ・ 行政説明「介護ロボットの導入及び活用促進に向けた熊本県の取組について」 ・ 社会福祉法人寿量会・天寿園における介護ロボット/ICT 導入例のご紹介

第5項 伴走支援

各相談窓口の担当区域内の介護ロボット等を導入しようとする介護サービス事業所に対し、当該施設における課題を踏まえた適切な介護ロボット等の選定に関する助言、介護ロボット等の導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット等導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等による導入支援(伴走支援)を行った。

(1)各相談窓口の伴走支援実績

相談窓口名	伴走支援施設種別	導入機器
北海道相談窓口	介護老人保健施設	ポータブルトイレ自動ラップの運用フォロー、排泄記録システムの次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	移乗支援(装着型)ロボット
	特別養護老人ホーム	離床アシストロボットの運用フォロー、見守り機器の次年度導入を検討
青森相談窓口	介護老人保健施設	インカム
	特別養護老人ホーム	見守りセンサー
	養護老人ホーム	見守りセンサー
岩手相談窓口	通所介護事業所(デイサービス)	記録ソフト 既に導入しているが、一部稼働に留まっているものの全面展開を実施
	通所介護事業所(デイサービス)	記録ソフト 既に導入しているが、一部稼働に留まっているものの全面展開を実施
	認知症対応型共同生活介護事業所	記録ソフト 既に導入しているが、一部稼働に留まっているものの全面展開を実施
新潟相談窓口	特別養護老人ホーム	見守りセンサーの次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	見守りセンサーの次年度導入を検討
	介護老人保健施設	見守りセンサーの次年度導入を検討
栃木相談窓口	特別養護老人ホーム	腰痛対策、見守り系機器の次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	腰痛対策機器導入の次年度導入を検討
	有料老人ホーム(住宅型)	腰痛対策機器導入の次年度導入を検討
	有料老人ホーム(住宅型)	見守りセンサーの次年度導入を検討
埼玉相談窓口	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度はオムツ交換業務による負担・腰痛リスクの軽減を実施
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 新型コロナ流行の為停止
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度は腰痛発生リスクの軽減を実施

横浜相談窓口	特別養護老人ホーム	導入機器未定 業務診断結果に即してワークショップを実施
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 業務診断結果に即してワークショップを実施
	特別養護老人ホーム(地域密着型)	導入機器未定 業務診断結果に即してワークショップを実施
富山相談窓口	特別養護老人ホーム	見守りセンサー ベッドセンサーの有効活用等の業務の整理
	特別養護老人ホーム	見守りセンサー ベッドセンサーの効果的活用と展開
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度はテクノロジー導入に向けた方向性について施設内での共有を実施
愛知相談窓口	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度はトイレ誘導のルール作りを実施(今後の導入の土台作り)
	特定施設入居者生活介護	導入機器未定 今年度はセンサー・コールの対応についての整理を実施
	介護老人保健施設	導入機器未定 今年度は入浴介助の手順書の作成を実施
大阪相談窓口	介護老人保健施設	見守りセンサー
	特別養護老人ホーム	排泄予測ツール
	サービス付き高齢者向け住宅	導入機器未定 アシストスーツ・排泄予測デバイスの導入検討
兵庫相談窓口	特定施設入居者生活介護	介護記録ソフト 情報共有の在り方の整理
	特別養護老人ホーム	コミュニケーションツール
	特別養護老人ホーム	インカム
徳島相談窓口	サービス付き高齢者向け住宅	移乗支援ロボット
	特別養護老人ホーム(地域密着型)	導入機器未定 今年度はロボット導入に向けた合意形成を実施
	特定施設入所者介護	移乗支援ロボット
愛媛相談窓口	特別養護老人ホーム	見守りロボット導入の次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	排泄予測デバイスの次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度はロボット導入に向けた現場づくりを実施

広島相談窓口	介護医療院	導入機器未定 今年度は業務改善の解決の成功体験を実施
	介護老人保健施設	導入機器未定 今年度は業務マネジメントの構築準備を実施
	特別養護老人ホーム	介護記録ソフト導入の次年度導入を検討
北九州相談窓口	特別養護老人ホーム	移動支援機器
	特別養護老人ホーム	移動支援機器
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 施設内での課題の整理中
大分相談窓口	特別養護老人ホーム	見守りセンサーとインカム
	特別養護老人ホーム	見守りセンサーの次年度導入を検討
	特別養護老人ホーム	見守りセンサーの次年度導入を検討
鹿児島相談窓口	特別養護老人ホーム	排泄予測デバイス
	特別養護老人ホーム	排泄予測デバイス
	特別養護老人ホーム	導入機器未定 今年度は腰痛対策についての検討を実施

(2) 事例の紹介

- ・ 大分相談窓口における伴走支援事例(1 事業所を抜粋)

伴走支援事業所	特別養護老人ホーム
施設の選定	<p>【選定の経緯】 4月に「介護ロボット・ICT 機器導入マネジメント研修」を開催。研修内にて伴走支援について説明し、後日、伴走支援事業所を募集したところ、11施設から応募があった。初回訪問にて事業所の現状(Wi-Fi 環境、プロジェクトチームの有無等)を確認し、今年度の伴走支援事業所を選定。</p> <p>【工夫した点】 補助金締切りスケジュールを考慮して早い時期から選定を開始。非常にタイトなスケジュールであったが、後のスケジュールに余裕を持てた。</p>
手順1 改善活動の準備をしよう	<p>【事業所の取組】 既存の委員会に施設長や看護課長、多職種(事務、調理課等)も含めた新規プロジェクトチームを発足。施設長のスタート宣言も実施。</p> <p>【工夫した点】 施設全体で取組めるよう、既存の委員会に多職種を加えたチーム作りからスタートした。なお、導入の取組に対する施設長の理解があり、推進リーダーのフォローアップ(権限委譲等)も模範的であった。</p>

<p>手順 2 現場の課題を見える化しよう</p>	<p>【事業所の取組】 3M(ムリ・ムダ・ムラ)についての職員アンケートを実施。リーダー職員がファシリテーションするワークショップにて、アンケート結果の項目分類、重要度分類を実施。今年度の改善に取り組む課題として夜勤帯の負荷軽減、ケアワーカーへ業務集中の改善、コミュニケーションと連携の改善が挙げられた。</p> <p>【苦勞した点・工夫した点】 新型コロナウイルスの影響が非常に大きく、計画から大きく進捗が遅れたが、キーマンのリーダーシップと、業務アドバイザーの定期的なフォローによりポイントを押さえ、課題の見える化が何とか期限内にて達成できた。</p>
<p>手順 3 実行計画を立てよう</p>	<p>【事業所の取組】</p> <p>①導入機器の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りセンサーは「夜勤帯の負荷軽減」と「看取りケア」を重視し、数社を試用した。 ・ 職員間のコミュニケーション、情報連携の向上のためインカムを導入。 <p>②設定した KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回回数(距離)、インシデント件数、睡眠データ比較や職員アンケートを実施。 <p>【工夫した点】 試用貸出の取組を活用して、事業所の課題に則した介護ロボットの選定を促した。また、試用貸出業者とも連携し、施設訪問前に施設ニーズ、課題等を共有することで試用が円滑に進むよう配慮した。</p>
<p>手順 4 改善活動に取り組もう</p>	<p>【事業所の取組】</p> <p>①機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見守りセンサー:12/26 導入、試験運用開始→1/15 本格運用開始 ・ インカム:11 月末に導入、運用開始 <p>②機器の導入と同時に行ったその他の改善活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタンディングリフト(スマイル) 導入 ・ ケア方法の見える化の実施 ・ 朝礼等、情報共有方法の見直し ・ 消耗品管理の見直し ・ ケアワーカーの業務見直し <p>※合計 33 項目を優先順位、重要度の観点から期間を設定し、随時取り組みを進めている。</p> <p>【工夫した点】 導入機器業者と業務アドバイザーが連携し、マニュアルの作成や教育体制の構築を支援した。</p>

<p>手順 5 改善活動を振り返ろう</p> <p>手順 6 実行計画を練りなおそう</p>	<p>【事業所の取組】 見守りセンサー、インカム、その他改善活動による評価を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 客観データ:巡回回数(移動距離 or 歩数)、インシデント件数、睡眠データ、休憩時間の確保、コミュニケーション時間等で評価 ・ その他:ワークエンゲージメント調査、職場満足度 <p>※今後、実行計画見直し予定</p> <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート、評価項目を業務アドバイザーと事業所が一緒に協議した。改善目標を明確化することで、改善活動の方向性が意識でき、活動にぶれがなかった。また、職員研修にて業務アドバイザーが導入目的を改めて説明することで職員の巻き込みを強化した。 ・ ミドルリーダー、職員の主体性が高いと感じたため、導入ポイントを事前にお知らせする等、現場主導の改善活動になるように仕向けた。
<p>事業所における今後の課題や展望・方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護テクノロジーの導入について:現在、見守りセンサーの導入数はベッド数に対して約半数程度のため、追加導入の必要性を検討。他の機器の導入や有機的連携等、更なる改善も検討していく。 ・ 今回の課題の見える化で、合計33項目の課題が挙がっているため、期間を決めてPDCA サイクルの改善活動を継続していく。 ・ 大分県のモデル施設として、外部からの見学受入れや研修や HP 等で取組を周知していく。
<p>事業所からの声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆとりをもって働けるよう、介護ロボット等を導入したが、既に現場の声レベルで効果を感じている。残業が少なくなり、直接介護時間の延長、ケアプランの見直し、院内掲示物の整備等、やりたかったことができ始めている。 ・ 高齢のスタッフが多いが、見守りシステムは1か月程度で概ね使用できるようになった。 ・ 利用者が安眠できるようになっている。(訪室により覚醒し、気分を損ねる、不穏になる等のトラブルも減った) ・ インカムにより、情報伝達がスムーズになり、働きやすさや人探し等の無駄な時間が減った。

図表 2-28 (参考) パッケージモデルに示された導入の手順



(出典:厚生労働省「介護ロボットのパッケージ導入モデル～介護ロボット取組事例集～」)

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf>

(3)業務アドバイザー連絡会

地域における導入支援活動が円滑に進むよう研修会や伴走支援の進捗状況とそれらを実施して得られた知見を共有する業務アドバイザー連絡会を実施した。また、伴走支援によって得られた知見及び業務アドバイザーが有する専門的な知見を基に、パッケージモデルの改訂を行った。

1)業務アドバイザー連絡会の概要

	開催日	概要
第1回	令和4年11月21日	今後の伴走支援の参考として頂くため、各相談窓口における伴走支援の進捗状況や事例の共有を行った。 また、伴走支援によって得られた知見及び業務アドバイザーが有する専門的な知見を基に、パッケージ導入モデルについての改善意見を伺った。
第2回	令和4年2月24日	今後の伴走支援の参考として頂くため、各相談窓口における伴走支援の事例共有を行った。 また、伴走支援によって得られた知見及び業務アドバイザーが有する専門的な知見を基に、パッケージ導入モデルについての改善意見を伺った。

2)パッケージモデルの改訂

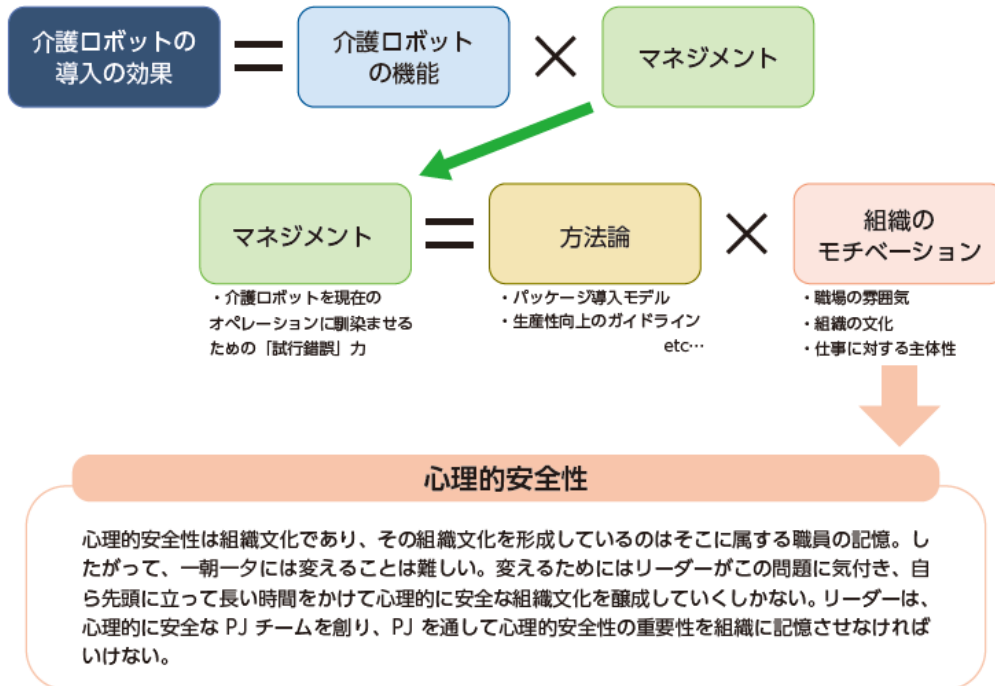
伴走支援によって得られた知見及び業務アドバイザーが有する専門的な知見を基に、パッケージモデルについて主に以下の改訂を実施した。

- ▶ 経営層から見た介護ロボットの導入の項の新設
介護ロボットの導入においては、経営層の関与が不可欠のため、経営層視点での介護ロボット導入の意義や効果を掲載した。また、経営層が介護ロボットの導入において、求められることを掲載した。
- ▶ 介護ロボット導入のためのマネジメントの項の新設
介護ロボットの導入による効果を生むためには、介護ロボットの機能に加えて組織におけるマネジメントが必要である。また、マネジメントするためには、マネジメントに関する方法論に加えて職場の雰囲気や組織の文化といった組織のモチベーションが重要になる。このため、マネジメントの重要性やポイント、組織のモチベーションを生む心理的安全性について掲載した。

図表 2-29 介護ロボット導入の効果を生むために必要となるもの

介護ロボット導入の効果を生むために必要となるもの

介護ロボットの導入で効果を生むためには、経営層のマネジメント力や組織のモチベーションが重要となります。



第6項 地域のネットワーク構築を図る協議会

各相談窓口が担当する都道府県の担当部署や当該都道府県において介護ロボット等の導入に先進的に取り組んでいる介護事業所、地域の関係業界団体を構成員とした協議会を各窓口1回以上開催し、各構成員の取組、地域の状況等に係る情報の共有、本事業への要望等に関する意見聴取等を行い、地域のネットワークの構築を図った。

(1) 各相談窓口の協議会開催実績

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
北海道相談窓口	令和4年12月16日 令和5年3月14日	北海道、先進事業所、有識者、株式会社大蔵商事、株式会社マルベリー、北海道社会福祉協議会、相談窓口、弊社	【第1回】 ・開催目的について ・事業実施報告 【第2回】 ・事業実施報告
青森相談窓口	令和5年1月31日	青森県、青森県老人福祉協会、青森県老人保健施設協会、日本認知症グループホーム協会青森県支部、青森県介護支援専門員協会、青森県介護福祉士会、青森県ホームヘルパー連絡協議会、青森県社会福祉協議会、青森県医師会、青森県保健大学	
岩手相談窓口	令和5年3月8日	岩手県、宮城県、山形県、北上市、仙台市産業振興事業団 FWBC 推進本部、岩手大学、岩手県工業技術センター、岩手県介護老人保健施設協会、岩手県社会福祉協議会、岩手県作業療法士会、岩手県介護福祉士会、先進事業所、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨説明 ・出席者紹介 ・介護ロボットや ICT 機器等のテクノロジーの普及に向けて <ul style="list-style-type: none"> ➢ 行政説明:介護現場における生産性向上 ➢ 介護ロボットプラットフォーム事業説明 ➢ 介護現場の状況とネットワーク構築に関する意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
新潟相談窓口	令和5年3月15日	新潟県老人福祉施設協議会、全国介護事業者連盟新潟県支部、新潟県老人保健施設協会、新潟県理学療法士会、新潟県作業療法士会、新潟県介護福祉士会、新潟県、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県介護ロボット推進協議会の設置について <ul style="list-style-type: none"> ➤新潟県介護ロボット推進協議会について ➤行政説明:介護現場における生産性向上 ➤介護ロボット開発・実証・普及のプラットフォーム事業説明 ・新潟県における介護ロボットの現状について ・新潟県介護ロボット相談窓口の現状報告 ・意見交換
栃木相談窓口	令和5年2月14日	栃木県、栃木県老人福祉施設協議会、栃木県老人保健施設協会、栃木県社会福祉法人経営者協議会、栃木県身体障害者施設協議会、栃木県作業療法士会、栃木県理学療法士会、栃木県介護福祉士会、栃木県介護労働安定センター栃木支部、日本福祉用具供給協会北関東支部、福祉用具総合評価センター、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・本会議の開催趣旨について ・本事業の概要について ・会議構成委員の取組、課題について ・意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
埼玉相談窓口	令和5年2月6日	埼玉県、埼玉県老人福祉施設協議会、埼玉県介護老人保健施設協会、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・行政説明:介護現場における生産性向上の推進について ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業及び埼玉県内での伴走支援の取組等紹介 ・各介護保険施設での介護ロボット導入や導入に向けた取組等紹介 ・埼玉県における介護ロボットの普及促進・補助金等について ・意見交換
横浜相談窓口	令和4年9月30日	神奈川県、介護・生活支援ロボット活用研究会委員(先進事業所、公益社団法人かながわ福祉サービス振興会)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット相談窓口のご紹介
富山相談窓口	令和4年6月23日	富山県、富山大学、富山県リハビリテーション病院こども支援センター、富山県作業療法士会、富山県理学療法士会、富山県介護福祉士会、先進事業所、有識者、相談窓口、弊社	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度介護ロボットプラットフォーム事業内容の説明 ・令和4年度 富山県介護実習・普及センターの状況について ・出張展示への協力依頼と展示会の企画 ・情報交換 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の概要と背景について ・富山相談窓口の取組について ・意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
愛知相談窓口	令和4年6月16日 令和5年2月9日	愛知県、大府市、東浦町、あいち健康の森公園管理事務所、大府商工会議所、東浦町商工会、名古屋市総合リハビリテーション事業団、ジェイメド・アソシエイツ、OKB 総研、厚生労働省、相談窓口、弊社	<p>※ウェルネスバレー推進協議会ヘルスケア産業振興WGと共同開催(本事業の関係する議事のみ抜粋)</p> <p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットのプラットフォーム事業における伴走支援対象施設の募集 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットのプラットフォーム事業について <ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設・企業サポート報告 ➤ 今後の政策の方向性について
大阪相談窓口	令和4年11月24日 令和5年3月14日	大阪府、滋賀県、奈良県、和歌山県、大阪市、大阪介護老人保健施設協会、大阪府社会福祉協議会、大阪市老人福祉施設連盟、先進事業所、厚生労働省、相談窓口、弊社	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・政策動向及びプラットフォーム事業説明 ・大阪窓口事業紹介 ・大阪府の取組について ・地域の介護現場の状況とネットワーク構築に関する意見交換 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策動向及び相談窓口の取組進捗について ・介護生産性向上総合事業の検討状況について <p>地域の生産性向上の推進に向けた討議</p>

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
兵庫相談窓口	令和5年1月25日	兵庫県、兵庫県作業療法士会、兵庫県立総合衛生学院、先進事業所、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム事業・ひょうご KOBE 窓口の紹介・報告 ・兵庫県の介護ロボット導入支援の取り組みと報告 ・構成員からの提言・意見
徳島相談窓口	令和5年2月10日	徳島県、日本認知症グループホーム協会徳島支部、徳島県老人保健施設協会、徳島県老人福祉施設協議会、全国老人福祉施設協議会、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・政策動向について ・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の紹介 ・徳島県の介護ロボット等に関する政策の動向について ・介護ロボットの普及のために課題になること ・介護ロボットを有効に活用するために必要なこと
愛媛相談窓口	令和5年3月13日	愛媛県、愛媛県看護協会、愛媛県理学療法士会、愛媛県作業療法士会、愛媛県介護福祉士会、愛媛県民生児童委員協議会、愛媛県ホームヘルパー協議会、聖カタリナ大学、愛媛県福祉サービス協会、愛媛県社会福祉協議会、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット開発・実証・普及プラットフォーム事業について ・令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について
広島相談窓口	令和4年10月11日	広島県、シルバーサービス振興会、広島県介護福祉士会、先進事業所、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・広島相談窓口の実績報告 ・先進施設事例紹介 ・意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
北九州相談窓口	令和4年8月2日	全国介護事業者連盟九州支部、テクノエイド協会、福岡県介護老人保健施設協会、福岡県老人福祉施設協議会、麻生医療福祉専門学校、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・国の施策について ・介護ロボット開発・実証・普及のプラットフォーム事業について ・九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターについて ・介護ロボットの普及に向けた取組 ・介護人材確保に向けた福岡県の取組 ・意見交換
大分相談窓口	令和4年12月7日	大分県、宮崎県、大分県社会福祉法人経営者協議会、大分県老人福祉施設協議会、大分県老人保健施設協会、大分大学、大分県社会福祉介護研修センター、宮崎県社会福祉協議会、先進事業所、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の設置について ・委員紹介 ・地域における生産性向上の推進 ・介護ロボット開発・実証・普及プラットフォーム事業説明 ・大分県の取組 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場革新事業 ➢ 相談窓口設置 ➢ 先進施設事例報告 ・宮崎県の取組 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 宮崎県事業説明 ➢ 先進施設事例報告 ・令和5年度事業計画について ・意見交換

相談窓口名	開催日	構成メンバー	議事
鹿児島相談窓口	令和5年1月12日	鹿児島県、鹿児島県老人保健施設協会、鹿児島県老人福祉施設協議会、鹿児島県介護福祉士会、鹿児島県理学療法士協会、鹿児島県作業療法士協会、先進事業所、厚生労働省、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明「介護業務の効率化と生産性向上に向けた取り組み」 ・事業説明「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業について」 ・行政説明「鹿児島県の介護ロボット普及状況等について」 ・意見交換「介護ロボットの普及・導入に関する取組や介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業について」
	令和5年2月6日	沖縄県、沖縄県老人保健施設協議会、沖縄県老人福祉施設協議会、沖縄県介護福祉士会、沖縄県理学療法士協会、沖縄県作業療法士会、先進事業所、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県介護実習・普及センター、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットプラットフォーム事業の説明 ・沖縄県における介護ロボットの普及状況説明 ・意見交換
	令和5年2月17日	熊本県、熊本県老人保健施設協会、熊本県老人福祉施設協議会、熊本県介護福祉士会、熊本県理学療法士協会、熊本県作業療法士会、先進事業所、熊本県社会福祉協議会、相談窓口、弊社	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットプラットフォーム事業の紹介 ・熊本県における介護ロボット導入状況等の説明 ・介護ロボットの導入に関する取組や介護ロボットプラットフォーム事業に関する意見交換

(2) 事例の紹介

・ 大阪相談窓口第1回協議会

開催日時・会場	日時:令和4年11月24日 14:00~15:45 会場:ATCエイジレスセンター セミナールーム
協議会のゴール設定	1) 自治体、業界団体、窓口で介護現場の課題について共通認識を持ち、現場の課題解決に向けて同じゴールがあることを合意すること 2) 介護現場の課題を解決するための支援として相談窓口を使ってもらうようにすること
委員構成	<p>【自治体】 大阪府福祉部 高齢介護室介護事業所課整備調整グループ 総括課長 補佐 滋賀県健康医療福祉部 医療福祉推進課 介護・福祉人材確保係 課長 補佐 奈良県福祉医療部 長寿・福祉人材確保対策課 人材確保・育成係 係長 和歌山県福祉保健部 福祉保健政策局長寿社会課 課長 大阪市福祉局 高齢者施策部高齢福祉課</p> <p>【業界団体】 公益社団法人 大阪介護老人保健施設協会 事務局長 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 老人施設部会 常任委員 一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 理事</p> <p>【施設】 社会福祉法人隆生福祉会 本部 経営管理統括部長 (特別養護老人ホーム)</p> <p>【相談窓口】 ATC エイジレスセンター BCC 株式会社(運営委託)</p> <p>【プラットフォーム事業関係】 厚生労働省老健局 高齢者支援課介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 弊社</p>
議事概要	1 ごあいさつ(10分) 事務局 ATCエイジレスセンター 2 参加者ご紹介(10分) 事務局 ATCエイジレスセンター 3 政策動向及びプラットフォーム事業説明(20分)

	<p>厚生労働省老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官</p> <p>NTT データ経営研究所 先端技術戦略ユニット</p> <p>4 大阪窓口事業紹介・伴走支援事業現状(15分)</p> <p>相談窓口、業務アドバイザー</p> <p>5 介護ロボット導入:大阪府の取組について(20分)</p> <p>大阪府福祉部 高齢介護室介護事業所課 整備調整グループ 総括課長補佐</p> <p>6 地域の介護現場の状況とネットワーク構築に関する意見交換(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の介護現場の状況 ・ 介護現場に対する介護ロボットや ICT 機器等のテクノロジーの伝え方と活用の仕方 ・ 地域ネットワーク構築について
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議論を通じて、下記事項を協議会参加者の共有認識として、課題解決に向け取り組むことに合意した。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一部の見守り系の介護ロボット以外が介護現場で効果的に活用されていない。 その要因として、現場で活用できる介護ロボット自体が少ないこと、ロボット導入に付随して業務のオペレーションを再構築する必要があること、介護ロボット導入にあわせて様々な打ち手を組み合わせしていく必要性等が挙げられた。 ▶ 特に、介護ロボットの導入補助金については、申請数が年々増加する一方、現場で定着していない可能性がある。 ▶ 介護ロボットの導入が目的ではなく、現場の課題を解決することが目的である。 ・ 今後、介護現場の生産性向上並びにテクノロジーの活用における課題解決にあたっては、継続的な議論の場が必要であり本協議会を活用すること、介護現場の生産性向上とテクノロジーの活用を同時に推進していくことを合意するとともに相互に協力することとした。
工夫点・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会開催前に、行政や業界団体を訪問し、介護ロボットに関する課題意識を事前に把握した上で意見交換のテーマ設定し、議論が円滑に進むよう工夫した。 ・ 大阪府内の介護現場の課題を議論するため、協議会メンバーを業界団体の内外から推薦いただいた。

第7項 その他の取組

(1) 相談窓口勉強会の実施

相談窓口において、ニーズ相談、シーズ相談双方について、より専門的な内容にも対応できるよう相談窓口の方が相互に学び合える勉強会を年度内に WEB 会議システムを通じて9回実施した。

1) 勉強会の概要

	開催日	概要
第1回	令和4年6月23日	本年度の取組方針の共有と昨年度の取組事例を紹介。特に地域課題の解決に取り組んだ窓口の事例を紹介した。
第2回	令和4年7月22日	本事業実施の背景等について理解を深めて頂くことを目的に、国の生産性向上及び介護ロボットに関連した施策に関する内容を説明した。
第3回	令和4年8月18日	パッケージモデルに基づいた伴走支援の進め方を理解頂くため、パッケージモデルについての説明及び標準的な伴走支援の進め方について紹介を行った。
第4回	令和4年9月15日	介護ロボットやその開発企業について、更に理解を深めることで、相談業務に活かせるよう介護ロボット開発企業等を招いて製品紹介を行った。
第5回	令和4年10月20日	各相談窓口の対応内容や課題を中間報告として共有することで、相談対応の能力の向上を図ることを目的に、各相談窓口の取組の事例紹介を行った。
第6回	令和4年11月17日	各相談窓口の対応内容や課題を中間報告として共有することで、相談対応の能力の向上を図ることを目的に、各相談窓口の取組の事例紹介を行った。
第7回	令和4年12月13日	生産性向上の取組について理解を深めるため、株式会社 TRAPE を講師に招き、生産性向上の取組の詳細及び伴走支援の事例を紹介した。
第8回	令和5年2月1日	相談窓口が関係者とともに、介護ロボットの普及等を進めていくために、協議会で何を目的として何をすればよいのか等を相談窓口同士で共有した。 また、次年度以降の厚生労働省の施策について紹介した。
第9回	令和5年2月16日	本年度の総括として、取組成果を共有するとともに、各相談窓口における事例の共有を行った。

第8項 導入実績

相談対応、体験展示及び試用貸出の相談窓口の取組を通じて、介護ロボットの導入に至った実績。なお、相談窓口における取組のフォローアップにより把握できたもののみを掲載する。

(1) 導入実績数 (全相談窓口合計)

76件

(2) 導入に至った経緯 (複数の取組を経て導入に至ったものについては重複してカウントした)

・相談対応から導入に至った件数

21件

・試用貸出から導入に至った件数

9件

・体験展示から導入に至った件数

55件

第9項 各相談窓口が捉えた介護ロボット普及における課題やニーズと次年度以降の注力事項

相談窓口名	地域における課題やニーズ	次年度以降の注力事項
北海道相談窓口	モデルとなる介護サービス事業所が十分にある状況ではない。伴走支援を実施できる人材が不足している。	令和4年度から開始した伴走支援や、継続的に行っている研修会を通じて地道なアプローチをしていきたい。 業務アドバイザーのような、伴走支援を実施できるような人材育成に力を入れたい。
青森相談窓口	テクノロジー導入に関心が強い施設においても、生産性向上の進め方がわからないという声が聞かれる。ましてや、小規模な事業者や民間が運営する事業者等については、情報が行き届きづらい。 訪問介護等の在宅向けの事業所から、介護ロボットの活用に関する相談が来るようになったが、ロボットが在宅環境に合わない、訪問介護職員が使いこなせない等の事例が散見される。	介護現場に対して、少しずつ本窓口に行けば相談ができることが周知されてきた。 ワンストップ窓口の設置状況を踏まえて、現場に寄り添った支援を継続することに注力したい。
岩手相談窓口	コロナの影響もあり、外部からの専門家が介入する伴走支援の取組に賛同してもらえない施設を集めることが難しかった。 通常業務に負荷が掛かると感じる施設が多く、どのように施設へアプローチすれば効果的かわからない。伴走支援の重要性や、取組意義が上手く伝わっていないと考える。	窓口・業務アドバイザーが行う伴走支援の効果、意義を上手く伝えつつ、オンラインを活用した伴走支援を強化したい コロナの影響も様子見ながら、大々的な研修会・体験会を開催したい
新潟相談窓口	担当している自治体との連携がうまく取れていないことから、県が抱える事業への取組や意向をしっかりと把握できていない。 問い合わせや試用貸出の件数が増えてきているので、介護ロボットの試用貸出のニーズは高まっていると感じる。	新潟県のみならず、他の担当エリア県に対する伴走支援に注力したい 訪問・面談しながら密に伴走支援を行うことが重要だと思うので、パッケージモデルの普及を図りたい。

相談窓口名	地域における課題やニーズ	次年度以降の注力事項
栃木相談窓口	<p>そもそも生産性向上の考え方や、介護ロボットに対する興味関心が薄いと感じる。</p> <p>各事業所が、抱えているはずの課題を課題と感じていない様子。</p> <p>施設長が外部からの支援に対して積極的に協力してもらえない。</p> <p>窓口が行う伴走支援の効果、期待が上手く伝わっていない。</p>	<p>生産性向上の考え方や、介護ロボットに対する興味関心が薄いことを前提に、普及活動を行いたい。</p> <p>伴走支援を行う際には、現場で感じている課題を、施設長へも伝えることができるように、関係者を巻き込みながら取り組みたい</p>
埼玉相談窓口	<p>都市部であるため、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。特に対面での研修会等制限が多く難しかった。</p> <p>試用貸出のニーズが強い。一方で、試用貸出をよりよいものとするためのフォロー等も積極的に実施する必要があると感じている。</p>	<p>対面での研修等、より多くの情報を提供できるようにしていきたい。</p> <p>試用貸出をより有効に実施していくために現在、電話だけでなく、試用貸出前に業務アドバイザーも含めてオンラインでも相談に対応会議をしている。</p> <p>次年度もより細やかに相談対応をしていきたい。</p>
横浜相談窓口	<p>研修会の集客が伸び悩んだこともあり、担当エリア広域に周知活動が必要だと感じた。</p>	<p>事業開始から早めに研修会の企画を行い、周知活動に注力したい。</p>
富山相談窓口	<p>地域住民において、介護ロボットに関する情報へのニーズがある。</p> <p>相談窓口にリーチできない方への支援が十分でない。</p> <p>窓口に来談に来る方(一般の方)にとって、最適な介護ロボット・ICT を選定したり、その他の背景を配慮した総合的な支援ができていない。</p>	<p>介護従事者に限らず、介護サービスの利用者やその家族等、より幅広い層に対する体験展示を、様々な地域で実施したい。</p> <p>(相談に来られる方に対する支援にとどまらず、情報にリーチしにくい、例えば中心部以外の地域にも、窓口からの積極的な支援を実施したい。)</p> <p>体験展示等を通じて、在宅における介護ロボットの活用も視野に入れた介護ロボットの普及を図る。</p> <p>本人にとって最適な介護ロボット・ICT を選定できる、プランナーのような役割の人材育成を検討したい。</p> <p>ケースによっては、多分野にまたがる支援ができるような人材の育成を検討したい。</p>

相談窓口名	地域における課題やニーズ	次年度以降の注力事項
愛知相談窓口	<p>ニーズ(介護現場)側からの相談ケースを件数として十分に拾えていないと感じている。</p> <p>今後、重点分野の定義や解釈の変更が行われていくのであれば、より多様なテクノロジー導入への動きともなるため、早期に情報提供をいただきたい。</p>	<p>今年度と同様の仕様であれば、その内容を実施していただくだけで精一杯である。</p>
大阪相談窓口	<p>新型コロナウイルスの影響や職員の入れ替わり等により、介護現場の疲弊が深刻化している。</p> <p>このため、介護ロボット活用に取り組む余裕がないという声が業界団体等から聞かれる。課題の深掘りがなされていないまま、補助金の申請や貸出が行われている事例が多く見受けられる。</p>	<p>介護現場の課題解決に焦点を当てた介護現場への周知やロボットの活用支援を行いたい。介護現場の周知にあたっては、行政や業界団体との連携を深めていきたい。</p>
兵庫相談窓口	<p>介護ロボットやテクノロジーを有効に活用し、地域のベンチマークとなり得る施設がまだ少ない状況にある。特に過疎地域と都市部では、情報量の違いや施設間の交流にも差があり、地域の特性に応じた支援が必要である。</p> <p>また、施設課題が不明確な状況での介護ロボット等のデモや、トップダウンのみの導入では、現場に浸透せずに使用されないケースが見受けられるため、課題解決に向けた取組みの一環として、機器の試用貸出しやデモを行う方が効率的である。</p>	<p>伴走支援等で得たノウハウをもとに、施設課題を明らかにする質問事項等を精査し、相談前に施設側・窓口側ともに課題を共有することで、迅速な支援につなげたい。</p> <p>見守り支援機器の導入希望施設が圧倒的に多いが、現場のニーズは移乗支援や情報共有など様々であることから、導入するテクノロジー別にベンチマークとなる施設を支援したい。</p>

相談窓口名	地域における課題やニーズ	次年度以降の注力事項
徳島相談窓口	<p>四国内でノーリフトケアが活発な高知県、愛媛県と比較すると介護ロボットを活用する機運が低い状況である。</p> <p>各地域の社会福祉協議会とともに、学生を対象にセミナーする機会が増えた。学生に新しい技術を知っていただき、働き手の裾野を増やす必要があると考えている。</p>	<p>協議会を通じて様々な業界団体とのつながりが出来てきた。業界団体を通じて伴走支援や相談を促していただけるように情報提供していきたい。</p> <p>セミナーを開催した際に、出張体験展示も実施した。これにより、体験展示や試用貸出に繋がったケースが多く見受けられたので引き続き継続したい。</p> <p>教育機関での出張体験展示は、需要があると思われた。介護施設の職員だけではなく、教育の段階から介護ロボットについて知ってもらえるようにしたい。</p>
愛媛相談窓口	<p>今年度開所のため、まだ相談が少ない状況。より積極的な広報活動が必要になる</p> <p>相談の内容は、導入する機器が決定している段階であることも多い。介護ロボットの導入は、機器の選択からフォローする必要があるため、導入前の段階から相談できるようにするべきである。</p>	<p>窓口では、課題の抽出から伴走的に支援できる事をアピールしていきたい。課題抽出から関わることでより効果的な機器導入につなげていきたい。</p> <p>県老協の施設が伴走支援のモデル事業所となったため、モデル事業所の成果を通じて周知をより強化していきたい。</p>
広島相談窓口	<p>エリアが広くまた、伴走支援をより細やかに実施するとすると窓口のリソースが足りない現状である。</p> <p>特に、山陰エリアへの対応が充分に行えていない。</p>	<p>施設等に訪問する事も多いため、プッシュ型の相談で引き続き介護ロボットの普及につとめたい。</p> <p>担当エリアで伴走支援が出来る専門家の育成等について検討したい。</p>
北九州相談窓口	<p>伴走支援の需要が喚起できていない状況である。機器導入は、施設の課題を解決する事がベースとなる。そのため、課題の抽出から解決までのモデルを多く作っていきたい。</p>	<p>協議会を通じて業界団体とのコネクションができた。業界団体から施設の紹介をいただき、モデル事業所をつくり、業界団体からも情報発信をいただける体制を作りたい。</p>

相談窓口名	地域における課題やニーズ	次年度以降の注力事項
大分相談窓口	<p>開所1年であるが、研修会の実施、伴走支援等を通じて施設は興味関心があるものの「何をしたらよいかわからない」、といった状況のところが多いことがわかった。また、地域としても介護ロボットに対する知識不足があり、導入のメリットや改善活動に対する差し迫った必要性も感じていない状況である。業界団体、職能団体等の関連団体の取組もまだ進んでいない印象がある。</p>	<p>介護ロボット等、テクノロジーの導入（生産性向上）の必要性を広報して地域の施設、関係者への啓蒙活動が必要と感じている。</p> <p>伴走支援を実施したモデル施設の事例を通じて介護ロボット導入の機運を高めていく必要があると感じている。</p> <p>業界団体や職能団体とともに研修会を実施する等、介護ロボットに関する理解を進めていく必要があると考えている。</p> <p>研修により、機器導入に取り組始めた施設もあるため、同様の研修を継続的に実施し、地域の介護ロボット活用の機運を高めていきたい。</p>
鹿児島相談窓口	<p>協議会を実施して、伴走支援の需要が高いことがわかった。そのため今後、伴走支援により力を入れていく必要がある。</p> <p>今年度、昨年度と相談の対応をしていたが、同じ施設から相談が来るが増えた。そのため、機器を導入したところへのフォローが必要であると感じている。</p> <p>機器が定着できないという相談もあったため、課題の抽出等も必要である。</p>	<p>伴走支援の需要が高い状況であるが、リソースが足りない状況である。</p> <p>今年度は、OT協会の方と検討会を実施して、導入に向けて使えるいい資料ができた。これらを補足できる人材が輩出できるといいと考えている。（業務アドバイザー2人では手が回らないところをカバーする課題整理等ができるといいと考えている。）</p>

第3章 リビングラボにおける取組について

第1節 リビングラボ設置の目的

介護ロボットの開発企業が、介護現場のニーズに合う介護ロボットを開発するためには、ロボット開発の過程で、実際の使用環境に近い模擬環境でロボットを使用して、その効果や安全性を確かめることが不可欠である。実際の使用環境での利用者の生の声を基に機器の改良や、顧客となるターゲット群の見直し価格設定の変更を行う等、開発の過程で適宜、現場からのフィードバックに基づき、方針や仕様に改良を重ねていくことが必要となる。

リビングラボは、ネットワーク化することで、それぞれの強みを活かした相談を受ける事が可能となるなど、模擬生活環境や、測定機器、専門職によるアドバイスを基に、開発企業から持ち込まれた製品の安全性や効果の検証及び、実証の支援を行い、開発企業にフィードバックをすることを目的として設置されている。

第2節 リビングラボにおける取組

(1) 開発企業からの相談対応

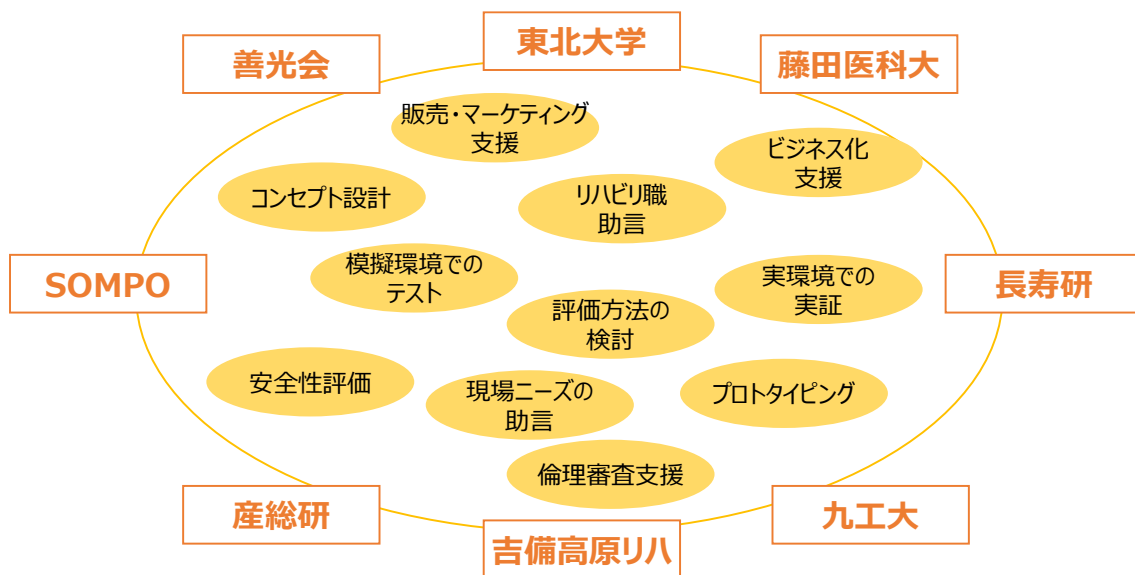
リビングラボは、開発企業からの相談に対応する。「製品評価・効果検証」「効果検証に係る助言」の2つが主な取組である。本事業では、「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を以下のように整理している。ここでは、「製品評価」というと、製品化された介護ロボットのみが対象のように誤解を招く恐れがあるため、「要素技術・製品の評価」とすることで、製品化前の介護ロボットや技術も対象としていることを示している。

図表 3-1 「相談対応」と「ラボ検証」と「実証支援」の違い

	概要	試験環境	試験実施者
相談対応	・ 打合せや電話対応等の話し合いを主な実施事項とし、ラボの機材や環境を用いないで、対応したもの	N/A (使用しない)	N/A (実施しない)
ラボ検証	・ ラボの施設や設備を利用して対応したもの ・ 仮に、製品が実際の利用者に使用された場合の効果を検証すること ・ 実際の利用者を対象とはしない(健常者を対象)	ラボなどの安全性が確保された模擬環境	評価・検証に必要な専門知識を有した者
実証	・ 製品を実際の利用者に実際の利用環境で使用してもらい、効果検証や改善点の導出を行うこと	介護施設等の当該製品が実際に使用される環境	実際のユーザー

本事業に携わるリビングラボはそれぞれ異なる強みや特徴を有しており、製品に至る前段階でのコンセプト設計に対する相談や、プロトタイピングを行うリビングラボもあれば、倫理審査支援や販売・マーケティング支援等の相談対応もある。必ずしも「ラボ検証」「実証支援」に限定されない取組も実施している。なお、開発企業からの相談には、相談窓口から取り次ぎによるものと、開発企業から直接の問合せによるものがある。

図表 3-2 8つのリビングラボが有する機能の全体イメージ



(2) 会議体への参加

また、リビングラボは開発企業からの相談対応の他に後述する年3回開催の「リビングラボネットワーク定例会議」、年2回開催の「相談窓口・リビングラボネットワーク定例会議」へ参加し、支援事例の共有等を行った。

第3節 各リビングラボの概要

リビングラボネットワークを形成する8つのリビングラボは、それぞれが異なる特徴を有している。3Dプリンタやレーザーカッター等を揃え充実したプロトタイピング環境を備える施設や、リハビリテーション科専門医やセラピストが実生活環境を模した施設で実際のロボットを活用しながらアドバイスを行う施設、安全性評価やリスクアセスメントに強みを持つ施設、実際の介護現場を複数運営し、介護現場での介護ロボットの実証支援や、介護現場目線でのアドバイスに強みを持つ施設が名を連ねている。

以下に各リビングラボの名称、所在地、WEBサイトURL、紹介動画、コンセプト・特徴、可能な支援内容を示す。

(1) 東北大学青葉山リビングラボ

所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟 5 階
URL	https://srd.mech.tohoku.ac.jp/living-lab/
コンセプト・特徴	<p>次世代介護を実現する新しい介護ロボットの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代介護ロボットの研究開発を行っている国内外の研究者との連携により、社会実装を前提とした取り組みを支援 ・ 複数の介護ロボットやセンサシステムとの連携により、1 台の介護ロボットに限定しない協調型介護支援システムの構築を支援 ・ トイレ、風呂、キッチン等を有した介護施設模擬環境や、階段、スロープ、荒れ地等の屋外模擬環境を整備予定 ・ VR やプロジェクタ等を利用した動的環境を模擬した介護ロボット評価システムを整備予定
可能な支援内容	<p>最先端技術を利用したロボット評価とニーズ・シーズ連携支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モーションキャプチャ、床反力計等を利用した介護支援動作、被介護者動作、介護ロボット動作等の 3 次元計測・解析 ・ 模擬環境を利用した開発システムの環境適合性評価 ・ 他の介護ロボットや次世代介護ロボットとの連携検証評価 ・ 3D プリンタ等を利用したプロトタイプ開発支援 ・ 県内外の介護施設と連携した実証実験のコンサルティング

(2) Care Tech ZENKOUKAI Lab ((福)善光会 サンタフェ総合研究所)

所在地	〒144-0033 東京都大田区東糀谷六丁目 4 番 17 号
URL	https://caretechlab.sfri.jp/
紹介動画	https://www.youtube.com/watch?v=P2_OoOX8NZ0
コンセプト・特徴	<p>実績豊富な『考えられる現場』が実現する次世代介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで 130 種に及ぶ介護ロボット・機器を運営する施設 ・ 企業技術を活用した機器開発のコンセプト企画から現場実証、マーケティング支援まで、現場で本当に活用されていくソリューションを生み出す
可能な支援内容	<p>企画・製品評価・実証・マーケティング等広く支援可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業技術を活用した機器開発のコンセプト企画 ・ 製品品質や性能向上のためのフィードバック ・ 機器運用下での職員負担の軽減具合や、職員の試用満足度評価等の変化検証 ・ 機器運用下でのサービス品質(利用者の状態変化)の検証 ・ 現場実証 ・ マーケティング支援

(3) Future Care Lab in Japan (SOMPO ホールディングス (株)、SOMPO ケア (株))

所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川 10 階
URL	https://futurecarelab.com/
紹介動画	https://youtu.be/XRbjv9f3if4
コンセプト・特徴	<p>介護サービス運営実績に基づく現場ニーズの収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂・風呂・介護施設の居室を再現し、人間とテクノロジーの共生をしながら新しい介護のあり方を追求する研究所 ・ 在宅介護から施設介護までフルラインナップで運営しているため、現場ニーズをダイレクトに収集可能 ・ 現場実証を通じて、介護ロボット実装の際に起きうる課題や懸念点の洗い出しが可能 <p>デンマークの ATAT を参考にした指標での評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デンマークの ATAT(※)は、障害者支援機器の導入検討時に使用される評価フレーム。 ・ この ATAT を参考に、ヒアリング、アンケート等を活用して以下を定量的・定性的に評価 ・ 製品の精度・安全性・ケアの品質・介護士の業務負担・費用対効果 <p>(※)ATAT:Assistive Technology Assessment Tool)</p>
可能な支援内容	<p>介護施設を模した施設・介護施設での評価・効果検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設を模した施設にて製品を試験的に使用し、評価・効果検証 ・ 実際の介護施設内でも評価・効果検証 ・ ヒアリング、アンケート、高齢者の状態把握等により定量的・定性的に評価

(4) 柏リビングラボ ((国研) 産業技術総合研究所)

所在地	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
URL	https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html
紹介動画	https://youtu.be/Vf9ZcAPj13Q
コンセプト・特徴	<p>模擬生活環境の活用と介護関係者からの意見収集によるロボットの効果・性能評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッチン、風呂、トイレなどを含む模擬生活環境や、温度湿度を調整できる人工気候室を保有している。 ・ これまでのロボット介護機器開発・導入プロジェクトにおける多くのメーカーへの開発支援を通じて、ロボットの安全性や効果・性能の評価に関して取り組んできた。 ・ 多様な意見を集めるため、介護ロボットの研究者に加えて、柏地域の介護関係者および住民参加型のワークショップを開催する。
可能な支援内容	<p>リスクアセスメント・環境適合性評価・ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクアセスメントシート等での機器のコンセプトや安全性の確認 ・ 模擬生活環境や人工気候室を用いた環境適合性の評価検証 ・ 介護関係者および住民参加型のワークショップにおける意見聴取

(5) 藤田医科大学 ロボティックスマートホーム・活動支援機器研究実証センター

所在地	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
URL	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/
紹介動画	https://youtu.be/oLSNRafp6ow
コンセプト・特徴	<p>実環境を模した実証研究施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者世帯が生活する実環境を模した実証研究施設で、長寿社会に適した住まいの開発を目指す。 ・ 介護・医療現場を熟知したリハビリテーション科専門医や理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学士が、随時相談可能。 ・ 複数の評価・解析機器が整備されており、紹介や実証試験も実施可能。
可能な支援内容	<p>倫理審査等の幅広い支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護現場のニーズの反映方法に関する助言 ・ 利用効果の科学的な実証に関する助言 ・ 実証時に取得が必要なデータとその分析方法に関する助言 ・ 倫理審査に関する助言 ・ 実証環境、計測解析機器の紹介

(6) (国研) 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター

所在地	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
URL	https://platform.ncgg.go.jp/
紹介動画	https://youtu.be/bkJf8WxGfMU
コンセプト・特徴	<p>ナショナルセンターとして高齢者医療・介護・生活にロボットを適合</p> <p>国立長寿医療研究センターは日本にある 6 つの国立高度専門医療研究センターの一つ。健康長寿支援ロボットセンターはそのセンター内センターとして、高齢者の生活や活動を支えるロボットを医療・介護・生活の場に普及するための拠点として、開発者のシーズを生活の場に適合させるための評価研究を実施している。</p> <p>動線解析による介護効率の分析・腰部への負担軽減計測等</p> <p>現在 20 以上のプロジェクトが同時進行。最近では介護ロボットの評価方法の標準化事業(AMED)に採択され、動線解析による介護効率の分析、介護ロボットの腰部への負担軽減を深部筋の活動を計測できる特殊な電極と三次元動作分析で実施するなどの活動に注力している。</p>
可能な支援内容	<p>製品の長所を活かした利用方法と検証方法を検討</p> <p>年間 7,200 人超の患者に対するリハビリ(理学療法・作業療法・言語聴覚療法を含む)と、これまでの製品開発支援のノウハウを生かし、シーズの長所を活かした利用シーンを提案</p> <p>長所の分析を踏まえた実証方法/実証場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回復期リハビリテーション病棟 ・ 模擬生活環境(日常生活動作訓練室) ・ 在宅(訪問リハビリ、認知症リハビリ参加者) <p>専門家および実際に支援を必要とする方の意見を反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療従事者 ・ 入院・通院・訪問の患者とその家族

(7) ロボット活動支援機器実証センター（吉備高原医療リハビリテーションセンター）

所在地	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511
URL	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_roboto.html (独)労働者健康安全機構 ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 内のページ
紹介動画	https://www.youtube.com/watch?v=9ZoT_toIWY
コンセプト・特徴	リハビリテーション専門職員によるロボットの臨床効果の検証 ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)は、回復期リハビリテーション後の社会復帰までの医療を担当するリハビリテーション専門病院で、社会復帰に必要な生活環境の整備や福祉機器の開発、脊髄再生医療を視野に入れたロボティクスを用いたリハビリテーション治療を行っている。 脊髄損傷のリハビリテーション科専門医、理学療法士、作業療法士、医用工学研究員による、様々な福祉機器の臨床的評価が可能。
可能な支援内容	実際の生活場面・リハビリ医療現場での臨床評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬生活環境(トイレ、お風呂など)において、機器の整合性の評価、工学的な技術を用いた定量的評価 ・ 脊髄損傷者のリハビリテーション科専門医師、理学療法士、作業療法士による、製品化や安全性に関する評価と助言 ・ 安全性が担保された機器について、リハビリテーション臨床現場で実際に使用することによる臨床評価

(8) スマートライフケア共創工房 ((大) 九州工業大学)

所在地	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-5 情報技術高度化センター
URL	https://slc3lab.jp/
紹介動画	https://youtu.be/enZUh8XEHKw
コンセプト・特徴	<p>当事者参加型のアイデア出し、評価実験、プロトタイピングを実施可能</p> <p>被介護者(高齢者や障がい者)や介護者(介護福祉士、理学療法士、作業療法士、介護施設経営者)など当事者の協力をアイデア段階から得ることが可能。また、模擬環境で介護者・被介護者同時にモーション、筋電位、足裏圧力分布などの計測が可能で、更に筋骨格モデルを用いた筋活動推定やウェアラブル脳活動計測装置活用のご相談にのることも可能。また、大型の光造形式 3D プリンタや、大型のレーザーカッター、またトルク制御可能なロボットモジュールなど、プロトタイピング環境も備える。</p> <p>介護施設での大規模実証も相談可能</p> <p>実験は共創工房内の基礎的かつ精密なものだけでなく、北九州市内の介護施設における製品の大規模実証実験の相談も可能。</p>
可能な支援内容	<p>複数の大学院教員や、北九州市と連携した幅広い支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロボティクス、脳科学、福祉工学、AI などを専門とする大学院教員への相談 ・ 九州工業大学や北九州市介護ロボットコンソーシアムの倫理委員会に対する倫理申請に関する助言 ・ 共創工房の機器を用いた計測解析やプロトタイピングに関する助言 ・ 実証時に取得が必要なデータとその科学的分析方法に関する助言 <p>具体的な社会実装の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンを用いた行動認識アプリの紹介 ・ 実証や販促に向けた介護 IT インストラクタ制度の紹介

なお、上記8つのリビングラボを本事業では、「基幹型」リビングラボと呼んでいる。他方、リビングラボネットワーク定例会議にのみ参加する組織として、「支援型」リビングラボも存在する。以下の7つの組織が「支援型」として参画している。

- 社会福祉法人 孝徳会
- 社会福祉法人 こうほうえん
- 全国老人保健施設協会

- 東北福祉大学・社会福祉法人東北福祉会
- 徳島文理大学
- 北陸大学
- 株式会社 ベネッセスタイルケア

第4節 各取組について

第1項 相談対応

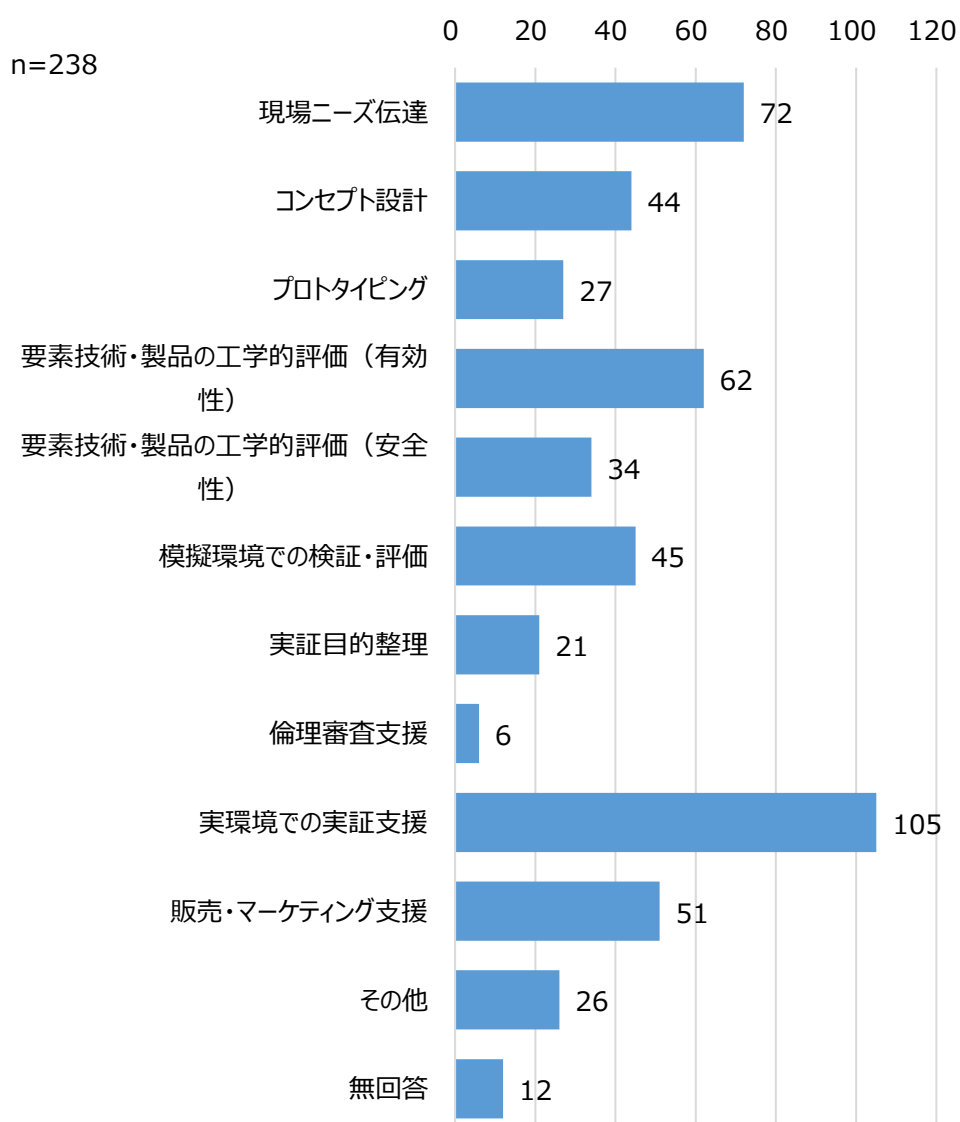
8つのリビングラボの月平均の相談対応数は20.7件であり、11.5か月では延べ238件(3月20日時点)となった。115企業の相談に対応し、そのうち50企業に対して、リビングラボは複数回の相談対応を行った。

図表 3-3 リビングラボにおける11.5か月間の相談対応実績



相談目的としては、「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「要素技術・製品の工学的評価(有効性)」が特に多かった。

図表 3-4 ラボへの相談目的



企業の相談内容等(抜粋・一部加工)

【現場ニーズ伝達】

- ・ 既存技術を利用したシステムの開発アイデアに対して、現場目線でのニーズの有無について意見が欲しい。
- ・ 既存の商品を介護施設に展開したいが、ニーズが有るのか分からないので、意見が欲しい。
- ・ 児童向けに開発した製品を高齢者向けに転用できるかどうか、ニーズ・有効性を探りたい。

【要素技術・製品の工学的評価(有効性)】

- ・ 弊社開発の製品の介助作業におけるアシスト効果を定量的に評価したい。

【要素技術・製品の工学的評価(安全性)】

- ・ 開発中の製品にて守られなければならない法規制・ガイドラインを把握したい。

【実環境での実証支援】

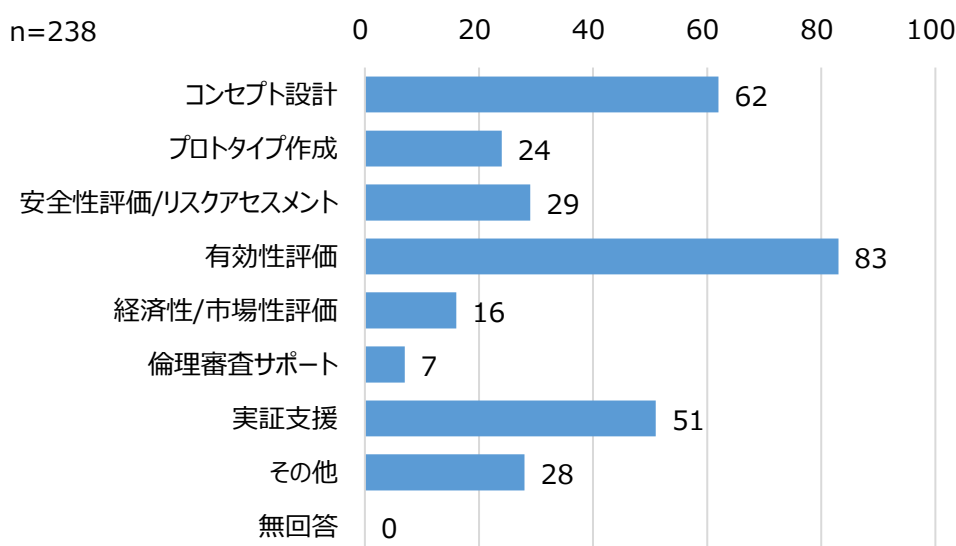
- ・ 海外開発企業の製品を、日本の介護施設で実証したい。
- ・ 医療機関では有用性に対する論文が発表されており普及しているが、介護分野ではこれからである。介護分野での実証、評価手法について助言が欲しい。

【販売・マーケティング支援】

- ・ 開発は完了しているが、販売・マーケティングに悩んでいる。無料貸出も行っているがなかなか進まない。提携先や公的手続き等も含めて助言が欲しい。

リビングラボの対応内容は、「有効性評価」「コンセプト設計」「実証支援」が特に多かった。

図表 3-5 リビングラボの対応内容



対応内容詳細(抜粋・一部加工)

【コンセプト設計】

- ・ 対象者によってセンサーの閾値を変える必要があること、センサーを取り付ける位置は、皮膚の保護が必要となること等を助言した。
- ・ 先方の想定を聞きながら介護におけるユースケースの案出しを実施した。

【安全性評価/リスクアセスメント】

- ・ 開発中のロボットについて、必要な公的規格、法規制等に関する助言を実施した。
- ・ 医療機器への該当有無について事前に確認するよう助言した。

【有効性評価】

- ・ 3名の被験者を対象に、介助動作をロボット有り、無しで2条件で実験を行い、計測された表面筋電位データから分析を実施した。
- ・ iPhoneを使用し、ロボットを3Dスキャンしたモデルを取り込み、仮想空間上に実寸大のロボ

ットを投影させた。

【実証支援】

- ・ 計画中的実証実験について、2つの目的が混在しており、またそれぞれ比較的容易な実証と大掛かりな実証が想定された。このことから、同時に実証を行うことは現実的ではないこと、分離した上で各々の評価計画の見直しを行うことを助言した。

第2項 ラボ検証

ラボ検証については、8つのリビングラボの月平均の案件数は1.6件、対応件数は1.5件であり、11.5か月ではそれぞれ延べ17件、18件(3月20日時点)となった。企業数は17企業であった。

図表 3-6 リビングラボにおける11.5か月間のラボ検証対応実績



検証内容詳細(抜粋・一部加工)

【有効性評価・安全性評価】

- ・ ラボ内の模擬環境において、実際の介護動作について理学療法士の指導を受けながら、有効と思われる動作について意見を出した。
- ・ 他社製の装置に、一部改造した製品を組み合わせ、現場を想定して使用感の検証を行った。
- ・ 試作機と市販品に対して同一の動作を行い、それぞれの変位を比較することで試作機の安全性を評価した。

第3項 実証支援

8つのリビングラボの月平均の実証に関連する相談対応の件数は10.4件であり、11.5か月では延べ120件(3月20日時点)となった。これらの支援は、延べ57企業に対して行った。実際に実証を実施したのは16企業、今後実証を予定している企業は9企業であった。

図表 3-7 リビングラボにおける 11.5 か月間の実証支援実績



実証支援内容(抜粋・一部加工)

- ・ 試作機を利用者に試用してもらい、感想や改善点をインタビュー形式で取得した。
- ・ 実証に協力してもらった施設において、利用者 3-4 名を 1 グループとした 3 グループに試作機を体験してもらった。その後、担当の介護職員から意見を収集した。
- ・ 試作機を介護職員に試用してもらい、意見を収集した。それにより、装置の制御方法や機能性に関する改善アイデアを得た。

第 4 項 リビングラボネットワーク定例会議

今年度のリビングラボネットワーク定例会議では、ALL JAPAN での介護ロボット開発の加速を目指して、経済産業省にオブザーバーとして参加いただき、介護ロボットに関連する政策動向や各リビングラボの介護ロボットの開発に関する知見を共有した。また、第 3 回リビングラボネットワーク定例会議では、ロボット介護機器の開発重点分野の改訂に関する意見を収集した。各回の開催概要を以下に示す。

(1) 第 1 回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2022 年 6 月 16 日(木) 10:05-11:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席組織	<p>< 基幹型リビングラボ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学法人東北大学 3 名 ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 9 名 ・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 5 名 ・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 8 名 ・ 藤田医科大学 ・ ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 3 名 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 4 名 ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援

	<p>機器実証センター 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学法人九州工業大学 6名 <p><支援型リビングラボ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司 2名 ・ 社会福祉法人こうほうえん 4名 ・ 公益社団法人全国老人保健施設協会 4名 ・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 3名 ・ 株式会社ベネッセスタイルケア 4名 <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省老健局 参与 諏訪 基 ・ 厚生労働省老健局 参与 本田 幸夫 ・ 厚生労働省老健局 課長補佐 東 好宣 ・ 厚生労働省老健局 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太 ・ 厚生労働省老健局 主査 須賀 祐太 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
--	--

第 1 回リビングラボネットワーク定例会議では、今年度リビングラボが注力する活動の方向性を共有すること、および介護ロボットに関する知見・情報を共有することで、介護ロボット開発を加速することを目的に実施した。

会議の結果、令和 4 年度介護ロボットのプラットフォーム事業の取組内容を共有した。また、介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業(令和 3 年度老健事業)、ロボット介護機器の国内展開企業向け臨床評価ガイダンス(AMED ロボット介護機器開発等推進事業)、在宅での使用を前提としたロボット介護機器等の開発・改良促進基盤調査(AMED 調査事業)の事業進捗を共有した。

(2)第 2 回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2022 年 10 月 12 日(水) 10:05-11:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席組織	<基幹型リビングラボ>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学法人東北大学 2名 ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 7名 ・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 5名 ・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 10名 ・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 3名 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 3名 ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援 機器実証センター 4名 ・ 国立大学法人九州工業大学 4名 <p><支援型リビングラボ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人こうほうえん 5名 ・ 公益社団法人全国老人保健施設協会 2名 ・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 3名 ・ 株式会社ベネッセスタイルケア 3名 ・ 徳島文理大学 1名 ・ 北陸大学 1名 <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省老健局 参与 諏訪 基 ・ 厚生労働省老健局 課長補佐 東 好宣 ・ 厚生労働省老健局 介護ロボット政策調査官 佐々木 憲太 ・ 厚生労働省老健局 主査 須賀 祐太 ・ 経済産業省 室長補佐 南須賀 美恵 ・ 経済産業省 係長 田中 真輝 ・ 経済産業省 係長 安川 一代 ・ 経済産業省 係員 宇垣 佑貴子 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
--	--

第2回リビングラボネットワーク定例会議では、リビングラボに関連する取組の状況を共有すること、および介護ロボットに関する知見・情報を共有することで、介護ロボット開発を加速することを目的に実施した。

会議の結果、令和4年度介護ロボットプラットフォーム事業の進捗を共有した。また、安全な介護ロボットの開発に関する調査研究事業(令和3年度老健事業)や活力ある社会を創る適応自在 AIロボット群(ムーンショット型研究開発事業)における事業成果を共有した。

(3)第3回リビングラボネットワーク定例会議 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年2月27日(月)14:05-15:55 WEB 会議
会議議長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席組織	<p>< 基幹型リビングラボ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学法人東北大学 2名 ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 9名 ・ SOMPO ホールディングス株式会社、SOMPO ケア株式会社 6名 ・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 10名 ・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター 3名 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 3名 ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター 7名 ・ 国立大学法人九州工業大学 6名 <p>< 支援型リビングラボ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司 2名 ・ 社会福祉法人こうほうえん 5名 ・ 公益社団法人全国老人保健施設協会 1名 ・ 東北福祉大学/社会福祉法人東北福祉会せんだんの杜 3名 ・ 株式会社ベネッセスタイルケア 4名 ・ 徳島文理大学 1名 ・ 北陸大学 1名 <p>< オブザーバー ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京大学 1名 ・ 公益財団法人テクノエイド協会 1名 ・ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 2名

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社日本総合研究所 6名 ・ 厚生労働省老健局 課長補佐 東 好宣 ・ 厚生労働省老健局 介護ロボット政策調査官 佐々木 憲太 ・ 厚生労働省老健局 主査 須賀 祐太 ・ 経済産業省 室長補佐 南須賀 美恵 ・ 経済産業省 係長 田中 真輝 ・ 経済産業省 係長 安川 一代 ・ 経済産業省 係員 宇垣 佑貴子 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
--	---

第3回リビングラボネットワーク定例会議では、本年度のプラットフォーム事業におけるリビングラボに関連する事業成果を共有すること、ロボット介護機器の開発重点分野の改訂に関する意見を収集することを目的に実施した。

会議の結果、事業成果として、リビングラボより開発企業を伴走的に支援した事例を共有した。また、ロボット介護機器の開発重点分野の改訂に関する意見として、現行の「介護業務支援」分野の細分化に関する意見や、ICT系の機器・インフラに関する意見、分野横断的な項目に関する意見等を収集した。

第5項 リビングラボでの支援事例

以下にリビングラボでの支援事例を示す。

(1) Care Tech ZENKOUKAI Lab (社会福祉法人 善光会)での支援事例

介護ロボットの概要	コミュニケーション支援	介護ロボットの利用者	介護施設及び地域コミュニティの高齢者	問合せの経緯	直接問合せ
問合せ概要	<p>けあばーす株式会社より、地域コミュニティ活性化のためのメタバース活用について、高齢者による利用のフィジビリティの確認に加え、今後実証を実施するための高齢者を含む地域コミュニティの紹介と、地域への導入戦略立案の支援について依頼された。</p>				
リビングラボでの対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 善光会デイサービス利用者に対して、プロトタイプのコミュニケーション機能およびゲーム機能の試用を実施した。 ● ビジネスプランニングにおいて、ターゲットとなる顧客の確認と、ターゲットに対してどのように導入促進をしていくか、その導入促進に向けどのような実証結果の導出を目指すべきかディスカッションを行った。 ● コミュニティ内での実証の候補として、一般社団法人えんがお様をご紹介するとともに、同法人と三者で実証に向けた調整およびコミュニティにおけるペインやニーズの深掘りとサービスの方向性に関するプレストを実施した。 ● 実証に向けてのえんがお社の訪問視察後に、実証の目的や設計について詰めの議論を実施した。 ● 今後、他の地域や自治体などが導入に前向きとなるようなデータを出せるように設計の議論を続ける予定。 ● また、テレビの報道で善光会が取材を受けた際に、リビングラボでの支援の例として試用の状況を撮影した。 				
工夫した点・苦労した点	<p>実証の希望に対して、単純に実施をするのではなく、社会変革の目指すべき姿、ターゲットとなる顧客像、課題として解消すべきペインを念頭におき、今後様々な現場で導入を進めたいようなプロダクトの開発ベクトルを定めるべく、実証や議論のゴールを常に意識・共有しながら支援を進めている。</p>				
開発企業からの声	<p>ヒアリングを通して、開発製品のユーザー像および特性に関して、より深い理解が得られた。また、自社で想定していたよりも幅広い活用方法や導入先を提示いただけたことで、自社のビジネスモデルを見直すことができた。</p>				
相談対応後の流れ	<p>実証設計とプロトタイプの改修を同時並行で実施。春夏頃を目途に本格的に実証を開始予定。</p>				

(2) 藤田医科大学 ロボティックスマートホーム・活動支援機器研究実証センターでの支援事例

介護ロボットの概要	コミュニケーション支援	介護ロボットの利用者	介護職員	問合せの経緯	事務局経由
問合せ概要	すでに医療分野で上市している遠隔診療システムを、 介護・リハビリ分野に応用 ができないか、応用するために必要な改良について ニーズの確認と、類似環境での検証 の希望相談を受けた。				
リビングラボでの対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ● リハビリテーション科専門医、理学療法士、作業療法士、看護師等で介護・リハビリ分野での活用方法を検討、提案した。 ● 介護施設に近い環境である病院内のリハビリテーション病棟において、システムの確認と実証を行なった。 <p><実証を通じた伴奏型支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当該機器は個室・对个人使用の場面でのコミュニケーションを想定したものであり、実証を行った際、広い空間・对多数数使用の場面では円滑なコミュニケーションが困難であった。 ● 企業側でシステムの改良および付属機器の変更を行い、コミュニケーション手段の改善をした上で、改めて実証を行なった。 ● 実証の中で、全体とのコミュニケーション、個人との選択的なコミュニケーションのニーズが生じ、それを元に更なる改良を検討した。 ● 上記のような実証と改良を繰り返しながら、現場のニーズに合わせた機器の改良支援を実施中である。 				
工夫した点・苦労した点	使用環境や使用するユーザによってニーズが異なるため、複数の環境やユーザに対して実証を行い、実証場面に企業スタッフも臨席しながら、共通して改良が必要な事項を確認しながら検証を行なった。				
開発企業からの声	当初想定していた環境と異なり、実際に現地で試してみないとわからないことが多かった。何度も改良に対する実証に対応いただくことができ、改良の可否を具体的に検討することができた。				
相談対応後の流れ	今回検証したシステムの改良を、今後のモデルへの折り込むかの可否を引き続き検討していく予定である。				

(3) スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学)での支援事例

介護ロボットの概要	移乗支援 (装着型)	介護ロボットの利用者	介護者	問合せの経緯	直接問合せ
問合せ概要	<p>弊社 (株式会社ジェイテクト) が開発したパワーアシストスーツ J-PAS fleairy (ジェイパス フレアリー) について、介護現場で介護者が終日装着し、通常の介護業務を実施した場合の疲労感を把握したい。</p>				
リビングラボでの対応内容	<p>【介護ロボットの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● J-PAS fleairy (https://active-life.jp/jpasfleairy/)。動きを検知してモーターでアシスト力の調整を行う。フレーム構造を持たない、ベルト巻き上げ式により本体重量1.6kgと大幅な軽量化を実現したロボット。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別養護老人ホームや有料老人ホームにおいて、3人の介護者を対象に実証を行った。 ● 介護者に機器を1日装着した場合と装着しなかった場合、それぞれで通常の業務を実施してもらい、主観による疲労度評価及び機器に対するアンケートを行った。 <p>【結果】</p> <p><疲労度評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 腰部については、2人の疲労度が低い数値となった。一方で、肩部については、2人の疲労度が高い数値となり、膝部では、1人の疲労度が高い数値となった。 <p><機器に対するアンケート></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中腰姿勢での作業が楽になった等の好意的な感想があった一方、しゃがみにくさ等のアシスト機能がうまく動作に追従できないといった感想も得られた。 				
開発企業からの声	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の実証を行った際、使用方法の説明が不十分で、機器を装着した介護者の疲労感が増してしまうことがあったため、使用前における研修の重要性を感じた。 				

第6項 実証フィールドに対する取組

実証フィールドの活用時、円滑に実証実施施設を選定し、実証につなげられるように、実証フィールド登録施設に対して事業説明動画の配信とアンケートを実施した。

(1) 事業説明動画の配信

実証フィールド登録施設が、実証の相談があった際に確認することができるよう、事業説明動画を配信した。動画のアジェンダは以下のとおりである。

1. 事業内容

- ① 事業の背景「介護現場における生産性向上について」
- ② 事業の全体像
- ③ 相談窓口
- ④ リビングラボ
- ⑤ ニーズ・シーズマッチング支援事業

2. 本事業の活用方法

(2) アンケートの実施

リビングラボが、実証実施施設を選定する際に参考となる情報を取得するため、実証フィールド登録施設に対してアンケートを実施した。主なアンケートの調査項目は以下のとおりである。

- ・ 現在、活用している介護ロボット・ICT 機器の分野・項目
- ・ 今後、活用してみたい介護ロボット・ICT 機器の分野・項目
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発について、ご協力が可能な内容
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発へのご協力について、興味・関心がある分野
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発へのご協力について、今後、特定の開発企業と継続的な協力関係を結ぶことに対する興味・関心
- ・ 介護ロボット・ICT 機器開発に協力した経験がある内容

第5節 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に係る実証支援

本事業では、厚生労働省が必要と認める、介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に係る実証として、北九州市が行う実証の支援を行った。

(1) 支援を行った実証の概要

1) 実施主体

北九州市

2) 目的

施設において「寝たきり防止・重度化防止」の取組として行われている歩行訓練に対して移動支

援機器を活用することで、機能訓練指導員以外の職員による生活場面での歩行訓練機会の創出、機能訓練の質の向上、訓練時の安心感や効果的なフィードバックの提供を実現する「歩行訓練での介護ロボットの導入モデル」の確立を目的とする。

また、コロナ禍の介護保険施設においては、感染経路遮断のため、ご家族との面会や外部支援者によるレクリエーション等の制限、起立訓練等の集団でのリハビリテーションを控えるなど、入居者の運動機会が大きく減っている現状がある。本実証がこうした状況の改善策としての寄与も狙う。

3) 実証方法

ユニット型指定介護老人福祉施設と多床室型指定介護老人福祉施設の2施設において、歩行能力に合わせた2機種の移動支援機器を導入し、生活場面の移手段(手引き歩行や車椅子)を介護ロボット(移動支援機器)へ置き換えるとともに、機能訓練への介護ロボット(移動支援機器、ICT<歩行分析アプリ>)の導入を行った。

(2) 本事業での支援体制・内容

本事業では、相談者である北九州市に対して、リビングラボの社会福祉法人善光会及び相談窓口の九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターが支援を実施する体制とした。具体的な支援内容は下記のとおりである。

		相談者	PF事業		
		北九州市	相談窓口 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	リビングラボ 善光会	事務局 NTTデータ経営研究所
(共通)		<ul style="list-style-type: none"> 実証のとりまとめ 開発企業、施設との連絡 機器の設置、操作研修等 	<ul style="list-style-type: none"> 業務オペレーション、導入プロセスに関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実証方法に関する助言 実証結果の分析、報告・通知 	<ul style="list-style-type: none"> ラボ、窓口との連絡、広報 施設、企業等への経費支払
	実証前	<ul style="list-style-type: none"> 計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> 業務オペレーションの整理 	<ul style="list-style-type: none"> 指標に関する助言 測定方法に関する助言 実証結果の集計、分析に関する助言 	<ul style="list-style-type: none"> ラボ選定支援 ラボ、窓口との連絡
	実証準備	<ul style="list-style-type: none"> 施設への支援(実証の目的説明、対象家族等への説明会) 機器調達(経費の支払いは事務局) 機器の指導研修 倫理審査委員会の対応 機器の設置、機器の操作研修 	<ul style="list-style-type: none"> 業務オペレーションに関する説明 		<ul style="list-style-type: none"> 機器調達に係るレンタル費の支払い(メーカーへ) 実証実施に係る損害賠償保険料の支払い(保険会社へ)
	実証中		<ul style="list-style-type: none"> 活用状況を踏まえ適宜支援(業務オペレーションの実行に関わる助言等) 		
実証後	実証結果の集計、分析	<ul style="list-style-type: none"> 機器の回収 		<ul style="list-style-type: none"> 実証結果の分析(介護ロボットの活用効果) 	
	実施結果まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 実証結果の全体とりまとめ(実証概要、実証概要等) 	<ul style="list-style-type: none"> 導入プロセスに関する実施結果の取りまとめ支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実施結果(実証方法、実証結果、介護ロボット活用の効果・課題)まとめの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 実施結果まとめの支援

(3) 支援結果

実証前から実証後において、九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターでは、実証内容の見直しや実証中の施設へのフォローアップ、実証結果のとりまとめ等について支援を行った。また、社会福祉法人善光会では、実証前においては、実証の仮説や方法等に関する助言を行い、実証後においては、実証結果のとりまとめ方法に関する助言を行った。主な内容は下記のとおりである。

1)実証前

➤ 社会福祉法人善光会による支援

実証計画に対して助言を行った。主な内容は下記のとおりである。

- 実証計画の立案
 - ・ 機器が効果的に活用されるための実証計画の立案体制
 - ・ 利用者の特性を考慮した実証計画の立案方法
- 実証目的・内容
 - ・ 実証における仮説の重要性及び具体的な仮説内容の例示
 - ・ 実証における対象者の明確化
 - ・ 機器が使用される条件の整理を行う必要性
 - ・ 実証目的に対する実験内容・方法の確立及び使用場面・状況の想定

➤ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターによる支援

実証前に必要となる準備・調整等を行った。主な内容は下記のとおりである。

- ・ 実証の仮説見直し
- ・ 倫理審査申請書・実証施設向け説明書の修正
- ・ 実証施設向け説明会等のスケジュール調整
- ・ 実証施設に対する実証スケジュール・内容の説明
- ・ 実証機器手配に係る調整
- ・ 実証機器の操作指導

2)実証中

➤ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターによる支援

実証が滞りなく実施できるよう実証施設に対する支援を行った。主な内容は下記のとおりである。

- ・ 事前アンケート調査の実施・回収
- ・ 実証機器の操作方法に関するフォローアップ
- ・ 実証進捗状況の確認
- ・ 実証終了時に実証施設から提出が必要となる書類の確認と説明

3)実証後

➤ 社会福祉法人善光会による支援

実証結果のとりまとめに対して助言を行った。主な内容は下記のとおりである。

- ・ 実証目的・方法の更なる具現化の必要性
- ・ 本実証で捉える目的を実現するため、今後新たに必要となる検証の内容
- ・ 実証目的に即した考察の整理

➤ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センターによる支援

実証結果のとりまとめ等に向けた支援を行った。主な内容は下記のとおりである。

- ・ 実証に使用した端末等の回収
- ・ 事後アンケート調査の実施・回収

- ・ 北九州市とヒアリング項目に関する打合せ
- ・ 実証施設へのヒアリング調査
- ・ 実証結果のとりまとめ(報告書作成)

第4章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について

第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容

(1) 背景と目的

本事業では、令和3年度に実施した取組内容を踏まえ、引き続き介護現場における課題(ニーズ)と、介護ロボット開発に携わる企業等が保有する製品や初期段階の試作機、要素技術等(シーズ)のマッチング、シーズ同士のマッチングを支援し、開発企業等自身への気づきを与え、介護現場の真のニーズを汲み取った介護ロボットの開発やその利活用方法に結びつけることを目的に、ニーズ・シーズマッチング支援事業を実施した。

(2) 支援内容

本事業では、介護現場の課題を開発企業が理解しやすいように整理、リスト化した上で一般公開を行った。その上で、企業がマーケット情報を収集するためのフィールド等を紹介することで、企業の参入検討・開発・製品の普及を支援した。特に本年度は、介護ロボットの上市を目指している、または上市済の製品を持つ開発企業に対して、介護ロボットの販売・アフターサービス等を行っている事業者の紹介・取次を新たに実施した。

(3) マッチング支援

マッチング支援は以下の3つを行った。

- ① ニーズリストを介したニーズの紹介、取次
- ② 実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介
- ③ 製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

(4) 実施体制

本事業の目的を達成するために、以下の実施体制を構築した。

- ① ニーズ・シーズマッチング委員会(以下、「マッチング委員会」という。)
- ② マッチングサポーター(以下、「サポーター」という。)
- ③ ①、②を取りまとめる事務局

① マッチング委員会

マッチング委員会は、介護業務の実情を十分に理解している、または介護ロボットや介護現場で使用されるICT等の製品知識が豊富な有識者を委員として選定し、設置した。

図表 4-1 マッチング委員一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
◎諏訪 基	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問

井堀 幹夫	国立大学法人東京大学 高齢社会総合研究機構
小野 栄一	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問
久留 善武	一般社団法人シルバーサービス振興会 事務局長
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長
近藤 和泉	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 病院長 健康長寿支援ロボットセンター センター長
柴田 智広	国立大学法人九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授
清水 壮一	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会 専務理事
鈴木 健太	社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム 施設長
中村 春基	一般社団法人日本作業療法士協会 会長
中山 辰巳	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT 推進委員会 委員長
本田 幸夫	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任研究員
宮本 隆史	社会福祉法人善光会 理事、最高執行責任者、統括施設局局长

◎:委員長

②マッチングサポーター

介護現場や介護ロボット等の製品知識や経験を有している有識者をマッチングサポーター(以下、サポーター)として配置した。

図表 4-2 マッチングサポーター（ニーズ側）一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
青田 俊枝	社会福祉法人青森県社会福祉協議会福祉人材課 課長
泉 博之	日本製鋼所 M&E 株式会社 事業推進室 事業企画グループ 担当部長
伊藤 勝規	NPO 法人とちぎノーマライゼーション研究会 理事長
大内 英之	社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 介護ロボットアドバイザー
逢坂 大輔	株式会社シーエフロボタス 代表取締役
川上 理子	高知県立大学看護学部 准教授
砂 亮介	株式会社介祉塾 代表取締役
関川 伸哉	東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授
高橋 真	広島大学大学院医系科学研究科 教授
田中 勇次郎	一般社団法人 東京都作業療法士会 会長
樽本 洋平	麻生教育サービス株式会社 係長
寺田 佳世	石川県リハビリテーションセンター支援課 次長

時本 ゆかり	大阪人間科学大学 人間科学部社会福祉学科 准教授
長尾 哲男	長崎北病院 非常勤作業療法士
中林 美奈子	富山大学芸術文化学部 客員准教授
福元 正伸	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
藤田 賢太郎	鹿児島医療技術専門学校 副学科長
古川 和稔	東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 教授
宮永 敬市	北九州市 地域リハビリテーション推進課 課長
山田 太一	介護老人保健施設アイリス リハビリ科長
湯本 晶代	千葉大学大学院看護学研究院 地域創成看護学講座 助教
吉満 孝二	鹿児島大学医学部保健学科 助教

図表 4-3 マッチングサポーター（シーズ側）一覧

（敬称略、50音順）

氏名	ご所属・役職
梶谷 勇	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター生活機能ロボティクス研究チーム 主任研究員
琴坂 信哉	埼玉大学大学院理工学研究科人間支援・生産科学部門 准教授
三枝 亮	神奈川工科大学創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授
相良 二郎	神戸芸術工科大学 芸術工学部 学部長 教授
鈴木 光久	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 企画研究局企画研究部（ロボット等開発・普及） 主幹
関根 正樹	つくば国際大学医療保健学部医療技術学科 教授
高橋 芳弘	千葉工業大学工学部機械工学科 教授
田實 佳郎	関西大学システム理工学部 教授
中後 大輔	関西学院大学 工学部 知能・機械工学課程 教授
中川 昭夫	大阪人間科学大学保健医療学部作業療法学科 特任教授
浜田 利満	筑波学院大学 名誉教授
平田 泰久	東北大学大学院工学研究科 教授
廣富 哲也	島根大学学術研究院理工学系 教授
藤澤 正一郎	徳島文理大学理工学部 教授
坊岡 正之	特定非営利活動法人 結人の袖 理事長
松本 吉央	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 上級主任研究員
米田 郁夫	特定非営利活動法人 結人の袖 副理事長
渡辺 崇史	日本福祉大学健康科学部福祉工学科 教授

第2節 ニーズリストの公開

本事業においては、企業が介護現場のニーズを簡易的に把握することを可能とするために、昨年度事業に引き続き公式ホームページ上にニーズリストを公開した (<https://www.kaigo-ns-plat.com/needs/>)。掲載されたニーズは「ニーズがある現場(施設/在宅)」、「ニーズが発生する生活場面(睡眠/覚醒・起居/排泄/見守り 等)」、「課題の持ち主(被介護者/介護者(介護職、専門職)/家族/地域)」の観点からカテゴリズ・タブ付けし、介護現場における多種多様のニーズの中から、閲覧者が求めるニーズを容易に検索できるように整理した上で公開した。

(1) ニーズリストのアップデート

当該ニーズリストを昨年度に引き続いて掲載した。昨年度の掲載分に加えて下記の手段を以てニーズリストをアップデートすることで、更なる充実化を図った。

1) 相談窓口、業務アドバイザー、リビングラボと連携

相談窓口、業務アドバイザー、リビングラボと連携することで、それぞれのもとに寄せられたニーズをニーズリストに反映した。

2) 過去の調査からニーズを引用

国立研究開発法人日本医療研究開発機構が令和3年度に実施した「在宅での使用を前提としたロボット介護機器等の開発・改良促進基盤調査」の調査報告書「在宅介護の課題と解決に向けて開発されている機器群等」等から介護現場におけるニーズを引用して掲載した。

(2) ニーズリスト

ニーズリストは、「施設」と「在宅」のニーズの現場それぞれにおいて、「ニーズが発生する生活場面」と「課題主」ごとに整理した上で掲載した。下記は掲載されたリストのイメージ図である。

図表 4-4 ニーズリスト：施設における生活場面ごとのニーズ一覧（イメージ図）

	課題の持ち主			
	被介護者	介護者	家族	地域
睡眠	<ul style="list-style-type: none"> 排泄確認による睡眠障害と業務の効率化 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 	<ul style="list-style-type: none"> 排泄確認による睡眠障害と業務の効率化 利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 		
覚醒・起居	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の体調変化や事故に対する適切な判断・対応の標準化と職員支援 デイルーム・トイレ・居室における見守り・声掛け 夜間の見守り業務における精神的・身体的負担 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	
離床				
移乗	<ul style="list-style-type: none"> 吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介護 排泄時の移乗介助（車いす⇄便座）・立位保持における介護者の身体的負担 トイレへの歩行車での安全な移動 	<ul style="list-style-type: none"> 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 大柄な利用者を移乗する際、複数人での介助が必要となる 移乗リフト操作技術の習得 吊り上げないベッド・車椅子間の移乗介護 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助（車いす⇄便座）・立位保持における介護者の身体的負担 トイレへの歩行車での安全な移動 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 デイルーム・トイレ・居室における見守り・声掛け トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助（車いす⇄便座）・立位保持における介護者の身体的負担 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	

図表 4-5 ニーズリスト：在宅における生活場面ごとのニーズ一覧（イメージ図）

	課題の持ち主			
	被介護者	介護者	家族	地域
睡眠	<ul style="list-style-type: none"> 不眠 褥瘡の発生 		<ul style="list-style-type: none"> 夜間覚醒の対応等による睡眠不足 体位交換の負担 	
覚醒・起居	<ul style="list-style-type: none"> 寝たきり等による廃用症候群 ベッドから起き上がる際の転倒 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間排泄介助の負担 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	
離床			<ul style="list-style-type: none"> 重度の方（障害を有する方を含む）の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担 	
移乗	<ul style="list-style-type: none"> 無理な体制での移乗による痛みや不安 移乗時の床への転落 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 	<ul style="list-style-type: none"> 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 腰部等への身体的負担 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 介護用ベッドではない就寝環境からの移乗 重度の方（障害を有する方を含む）の離床・移乗を家族が一人で介助する身体の負担 老老介護のために被介護者をベッドから移乗させることができない 腰部等への身体的負担 狭小スペースにおける排泄介助 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 立ち上がり介助におけるタイミングの計り方 トイレ・ベッドでの移乗介助時の腰部の負担軽減 	
移動（屋内）	<ul style="list-style-type: none"> 被介護者の下肢筋力の低下により床からの立ち座りができない 移動時の転倒、転落 身体機能の低下による活動と意欲の低下 癱瘓による日常生活における突然の脱力によって起こる転倒時の頭部保護 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 認知症周辺症状の回避・対応 	<ul style="list-style-type: none"> 癱瘓による日常生活における突然の脱力によって起こる転倒時の頭部保護 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 認知症周辺症状の回避・対応 	<ul style="list-style-type: none"> 階段昇降介助時の転落 癱瘓による日常生活における突然の脱力によって起こる転倒時の頭部保護 排泄時の移乗介助（車いす⇔便座）・立位保持における介護者の身体的負担 認知症周辺症状の回避・対応 	

(3) ニーズの事例

ニーズリストに掲載したニーズは、各々の詳細ページにて具体的な内容を説明した。掲載事例として下記に2例を記載する。

1) 事例1 トイレへの歩行車での安全な移動（施設のニーズ）

- 場面: 移乗、移動(屋内)

【場面の詳細】

支援の種類: 移動

支援場所: 病院、施設などの建物内

支援内容: 歩行車歩行による移動動作の支援。日中、夜間の院内・施設内移動時に使用

- 課題の持ち主: 被介護者、介護者(介護職、専門職)

【課題の持ち主の詳細】

歩行車歩行でトイレに行くことに見守りや軽介助が必要な入院患者や施設入所者

- 課題の具体的内容

入院患者や施設入所者が歩行車歩行でトイレに行く時に介助が必要になっている。それにより被介護者は自己価値が低下し、介護者は他の生活動作の自立支援の時間をとることができない状態にあると考えられる。

ニーズ調査の結果より、自立に至ることで自己価値が向上すること、介護者が他の生活動作の自立支援の時間を確保できることが示されており、波及効果の得られる重要な課題である。

2) 事例2 引きこもりの方の社会参加（在宅のニーズ）

- 場面: コミュニケーション、その他

【場面の詳細】

いつ: 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに6か月以上。

どこで: 自宅に引きこもっている状態想定する。

どのように: 「引きこもり」は、単一の疾患や障害の概念ではなく、さまざまな要因が背景になって生じる。

- 課題の持ち主: 被介護者、介護者(家族)、地域

【課題の持ち主の詳細】

引きこもり当事者の課題でもあるが、同居家族の生活負担も課題と考える。

- 課題の具体的内容

引きこもり当事者が社会との交流をもてずに、社会不参加な状態であることが課題。

第3節 マッチング支援の実績

総エントリー団体数は73団体であった。

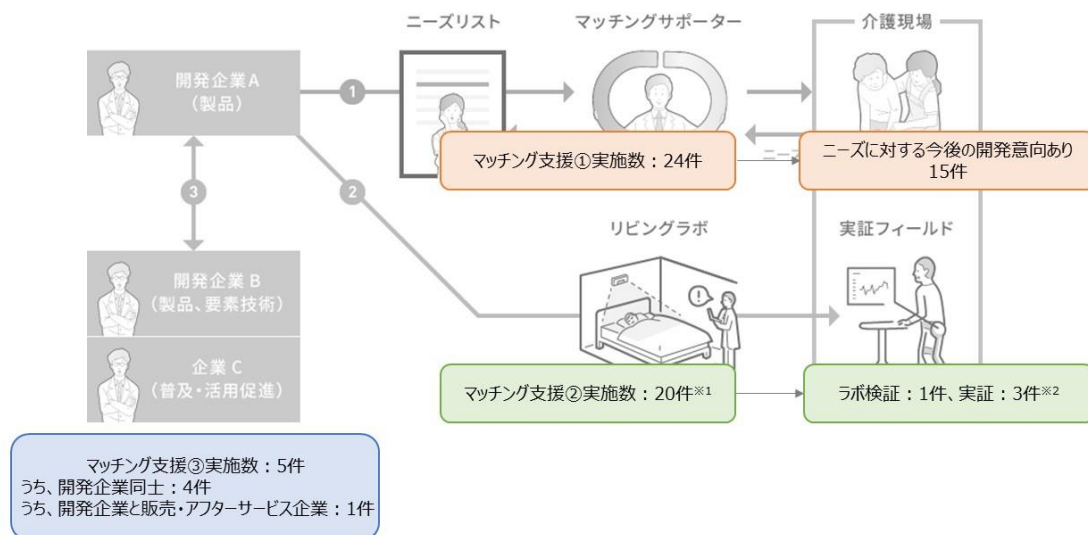
マッチング支援①は24件を実施し、うちニーズに対する今後の開発意向があると回答されたものは15件であった。

マッチング支援②は20件を実施し、うちラボ検証1件、実証3件につながった。

マッチング支援③は5件を実施し、開発企業同士のものは4件、開発企業と販売・アフターサービス企業とのものは1件であった。

図表 4-6 マッチング支援の実績一覧

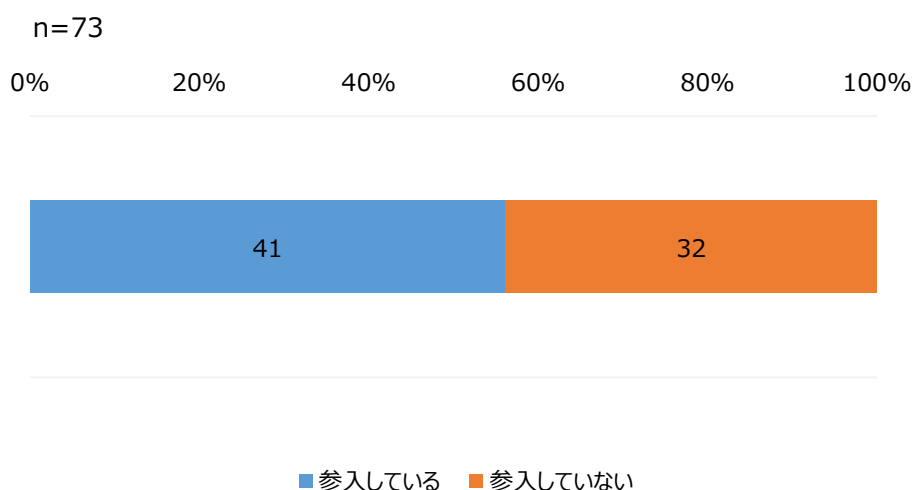
総エントリー団体数：73団体



第1項 エントリー

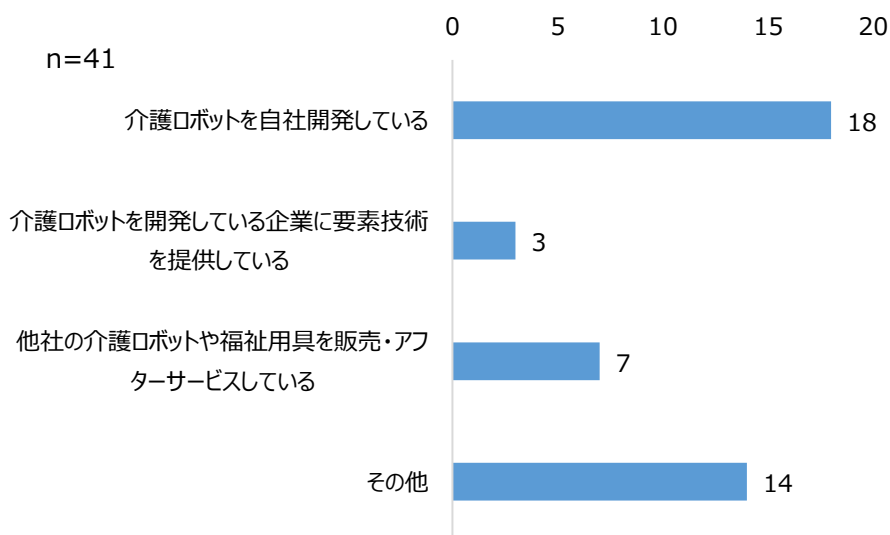
エントリー団体の内、介護分野へ参入済みの団体は40団体であり、未参入は31団体であった。

図表 4-7 エントリー企業の介護分野への参入有無



介護分野へ参入済みの団体のうち、介護ロボット開発企業は 18 団体、要素技術を提供している企業は 3 団体、販売・アフターサービス企業は 7 団体であった。

図表 4-8 エントリー企業の介護分野への参入状況（参入済み団体）

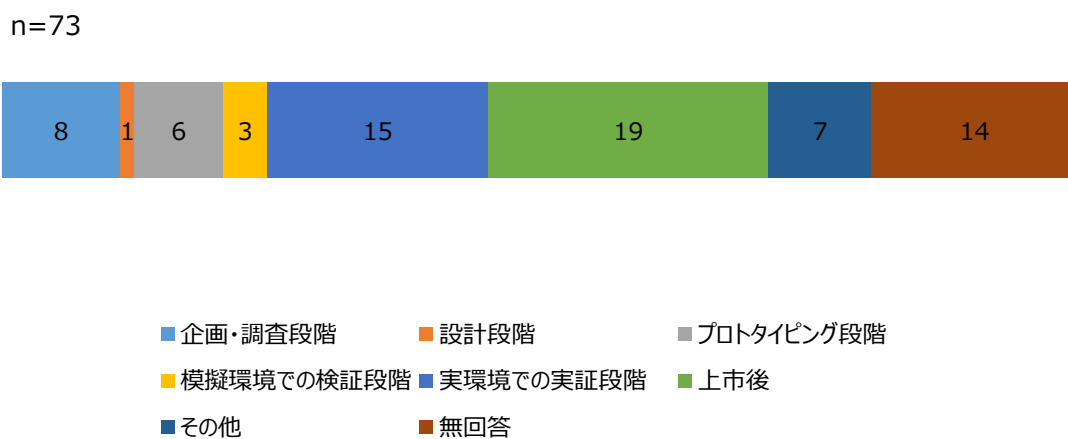


<その他の内容>

- ・ 要素技術を有する企業と共同開発をしている
- ・ 福祉用具を自社開発している
- ・ ADL・認知機能改善プログラム・キットを提供している
- ・ サービス提供の人材育成を行っている 等

エントリーした企業の開発フェーズは、上市後が最も多く、次いで実環境での実証段階が多かった。また、企画・調査段階や、プロトタイピング段階にある企業もエントリーした。

図表 4-9 エントリー企業の開発フェーズ



<その他の内容>

- ・ 簡易実証終了、本格的な試験に向けて準備中 等

第2項 マッチング支援①

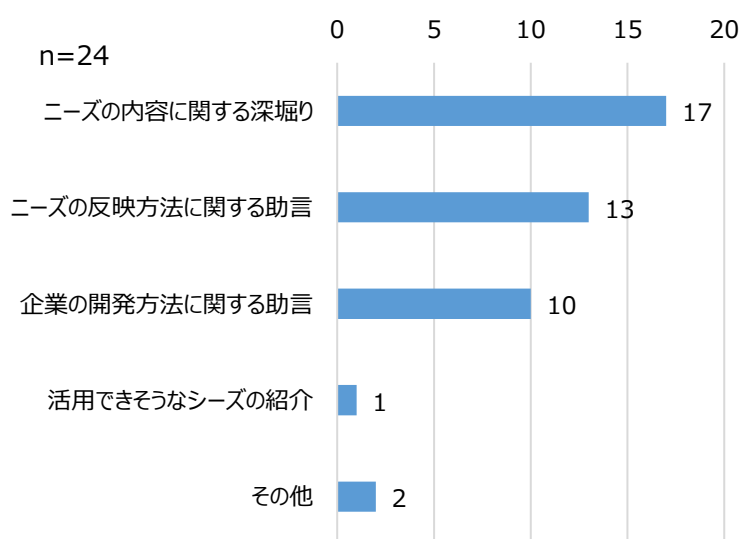
(1)実施件数

16 団体に対して、マッチングサポーターとの相談対応を 24 件実施した。

(2)相談内容と対応内容

マッチングサポーターへの相談内容は、ニーズの内容に関する深掘りが最も多かった。ニーズの反映方法に関する助言や、企業の開発方法に関する助言を求める相談も一定数あった。

図表 4-10 マッチングサポーターへの相談内容



対応内容の詳細(抜粋・一部加工)

【ニーズの内容に関する深掘り】

- ・ 服薬管理における介護現場のニーズとして、作業時間の短縮と、ヒヤリ・ハットにつながるエラーの減少に対する期待が高いことを説明した。また、現在の企業の開発目標に加えて、将来的に求められるであろう機能についても説明した。

【ニーズの反映方法に関する助言】

- ・ 開発された AI コミュニケーションツールについて、方言への対応が必要と考えられること、メンテナンス方法やシステムが停止した際の通知方法について検討が必要であること、将来的に追加が期待される機能について助言を行った。

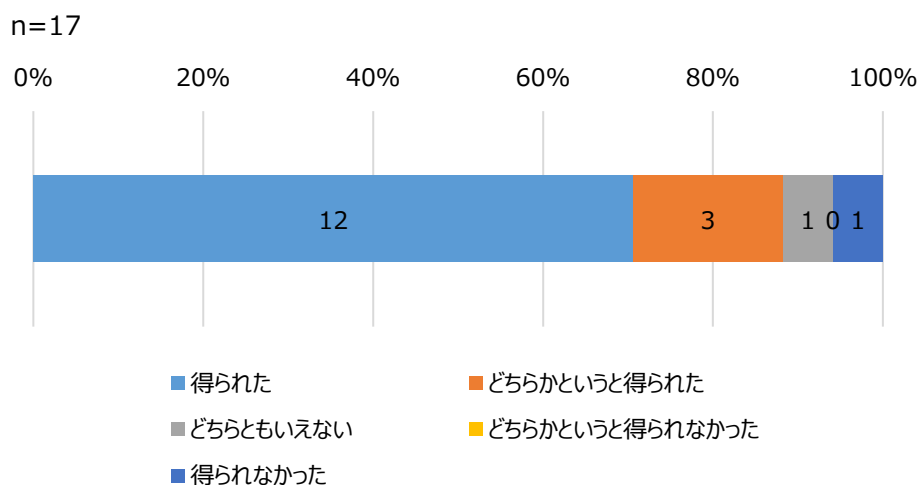
【企業の開発方法に関する助言】

- ・ 現状の試作機では一定の安全性が担保されていたことが明らかとなったため、次のステップとして、実証に協力してくれる介護施設を探すことを提案した。実証にて、使いやすさ等の改良点を介護現場のスタッフから意見収集することを提案した。

(3) アンケート結果

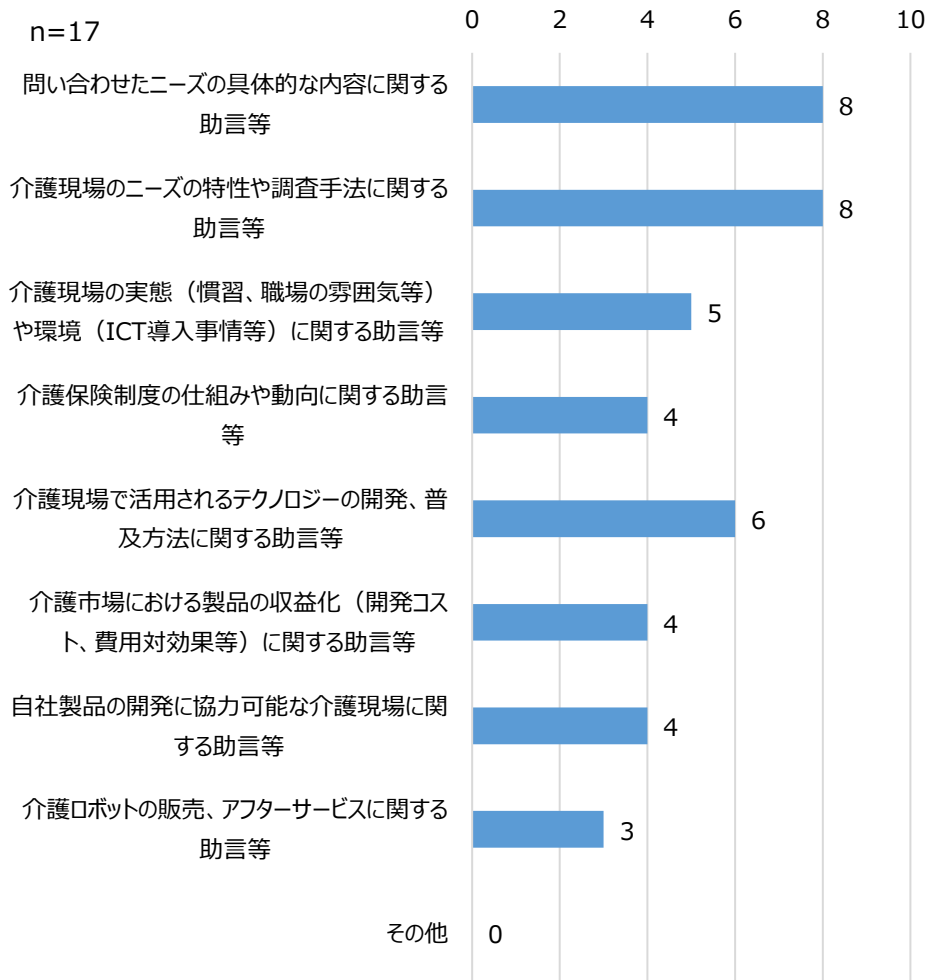
マッチング支援①を行った団体から回収したアンケートにおいて、参入検討および開発加速に寄与する助言等が「得られた」との回答が 12 件、「どちらかというと得られた」との回答が3件、「どちらともいえない」「得られなかった」との回答がそれぞれ 1 件であった。

図表 4-1 1 参入検討および開発加速に寄与する助言等が得られたか



有益であった助言としては、「問い合わせたニーズの具体的な内容に関する助言等」「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」が最も多く、それぞれ 8 件であった。

図表 4-1 2 どのような助言が有益であったか



有益であった助言内容(抜粋・一部加工)

【問い合わせたニーズの具体的な内容に関する助言等】

- ・ 実際に、過去のニーズ調査結果を共有してもらい、自社が調査した情報と一致していることが確認できた。それにより、製品コンセプトが間違っていないことを確認することができた。

【介護保険制度の仕組みや動向に関する助言等】

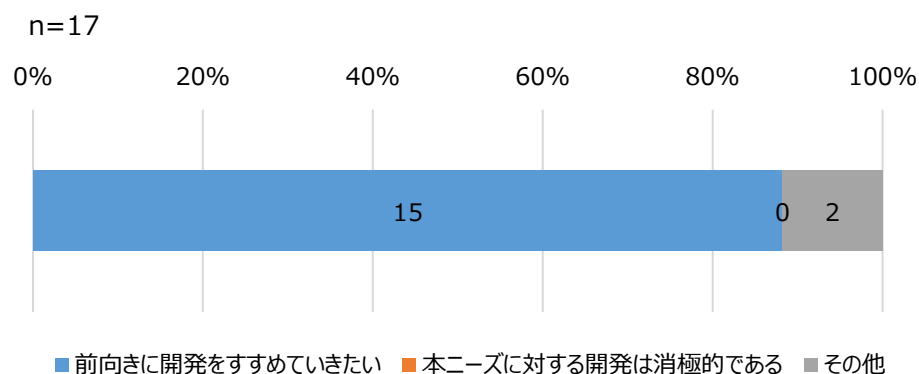
- ・ 介護保険に関する自社の認識違いを訂正してもらった。そのうえで、現在の価格に商品価値を近づけるためのアイデアを打診してもらった。

【介護現場で活用されるテクノロジーの開発、普及方法に関する助言等】

- ・ サービス設計のヒントとなる助言をもらった。また、今後設計にも協力が可能とのこと、大変ありがたい。

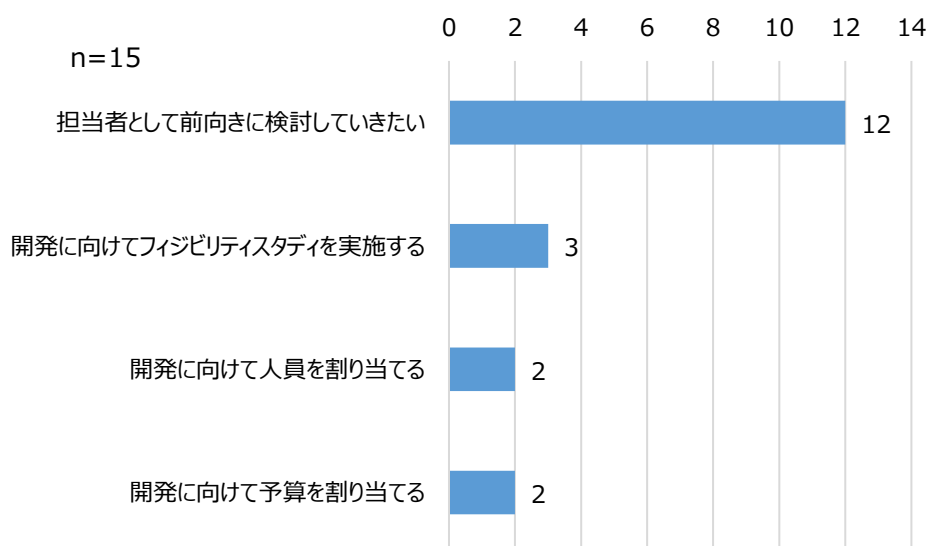
問い合わせたニーズに対する今後の開発意向については、「前向きに開発に向けて進めていきたい」が最も多かった。「本ニーズに対する開発には消極的である」という回答は無かった。

図表 4-13 問い合わせたニーズに対する今後の介護ロボットの開発意向



開発意向の詳細については、「担当者として前向きに検討していきたい」が最も多かった。「開発に向けてフィジビリティスタディを実施する」「開発に向けて人員を割り当てる」「開発に向けて予算を割り当てる」とした回答も若干得られた。

図表 4-14 今後の開発意向の詳細



(4) 事例

図表 4-15 マッチング支援①の事例

企業情報	情報通信・ソフトウェア業/大企業 開発状況:上市済
製品 イメージ	介護記録ソフトに入力する文章を、マウスやタッチパネルで選択することで適切な文例が表示、作成できる AI 入力予測ツールを開発・販売している。
マッチング 希望内容	AI 入力予測ツールのアップデートを検討している。介護現場からの意見を踏まえた改善に向けて、ツールに搭載されている介護記録の文例や使い勝手について現場目線のご意見・ご助言を頂きたい。
面談内容	<p>事務局より企業側のニーズについて聞き取りを行った上で、介護現場での記録に知見を持つサポーターに繋ぎ初回のマッチング面談を実施した。</p> <p>①サポーター面談</p> <p>現在の製品には、記録文例のカテゴリに利用者の様子や事故報告がないが、一般的な介護記録ソフトには入力項目があることが多く、現場のニーズもあるため、追加したほうが良い等の助言を行った。</p> <p>②介護施設での試用と意見収集</p> <p>企業側から実際の介護現場からも意見を伺いたい意向から、サポーターの仲介で埼玉県内の特別養護老人ホームにご協力頂き機器の試用を実施した。1か月の試用の後、企業・サポーター・事務局同席のもと下記の点について管理者・介護職へヒアリングを実施し、施設側から下記の回答を得た。</p> <p>①ツールに搭載されている文例や言葉の言い回しについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 多職種の観点から、利用者の状態を具体的に示す文言の追加 <ul style="list-style-type: none"> 文例「歯の痛みの訴えあり」は、歯の場所(奥歯等)も入力できると良い 文例「むせこみあり」は、むせこみの程度を入力できると良い 等 介護士が行ったことだけでなく、利用者の気持ちも記録できると良い その行動に至った要因を記録できると良い。文例では「入浴を中止した」があるが、利用者の拒否によることも多い。 介護現場に受け入れられやすい表現への修正 <ul style="list-style-type: none"> 文例に姿勢を「調整する」という表現があるが、人を部品のように扱うように感じられる 文例の意味が分からないものがある(他施設で使用していた表現を文例

	<p>に採用していたが、その施設特有のものだったため)</p> <p>②ツールの使い勝手について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の文言・内容が統一され、管理しやすく、単語を覚える事で職員の教育になる点は良かった。 ・文章の充実度よりも、操作面の分かりづらさに対して、デメリットを大きく感じる。 <p>(例)介護予測ツールと介護記録ソフトの切り替えがスムーズに行えず、誤操作に繋がる場面がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻出な文例は上位に出るように、もしくは強調表示がされると選択がしやすくなる。
<p>企業の反応</p>	<p>文例だけでなく、使い勝手の面でこれまで把握していない改善点に気づくことができた。想定していたよりも、ユーザビリティの充実に課題感が強いことがわかった。</p>
<p>今後の対応</p>	<p>記録支援ソフトのユーザビリティの改良を目指すとともに、次のステップとして、介護記録をAI分析(テキストマイニング)することで、利用者の状態を可視化し、LIFEの提出データへの活用等に繋げられるAI分析ソフトを開発中である。</p>

第3項 マッチング支援②

(1) 実施件数

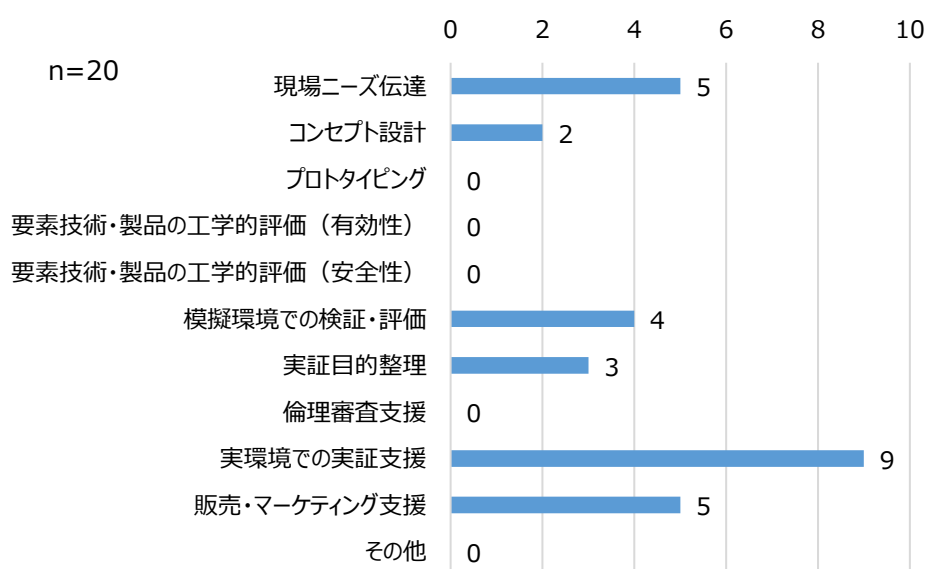
17 団体に対して、リビングラボへの取次を 20 件*実施した。

※1 団体を 2 つのリビングラボに取り次いだ場合には、取次を 2 件とカウントした。

(2) 企業の相談目的・相談内容

マッチング支援②を実施した団体の相談目的は「実環境での実証支援」が最も多く 9 件であった。

図表 4-16 企業の相談目的



企業の相談内容(抜粋・一部加工)

【現場ニーズ伝達】

- ・ 既存の商品を介護施設に展開したいが、ニーズが有るのか分からないのでリビングラボの意見が欲しい。
- ・ 開発構想中の製品について、製品の対象者やどのような場面で使用する製品とすべきか助言が欲しい。

【模擬環境での検証・評価】

- ・ 上市済の製品の有効性を評価してほしい。

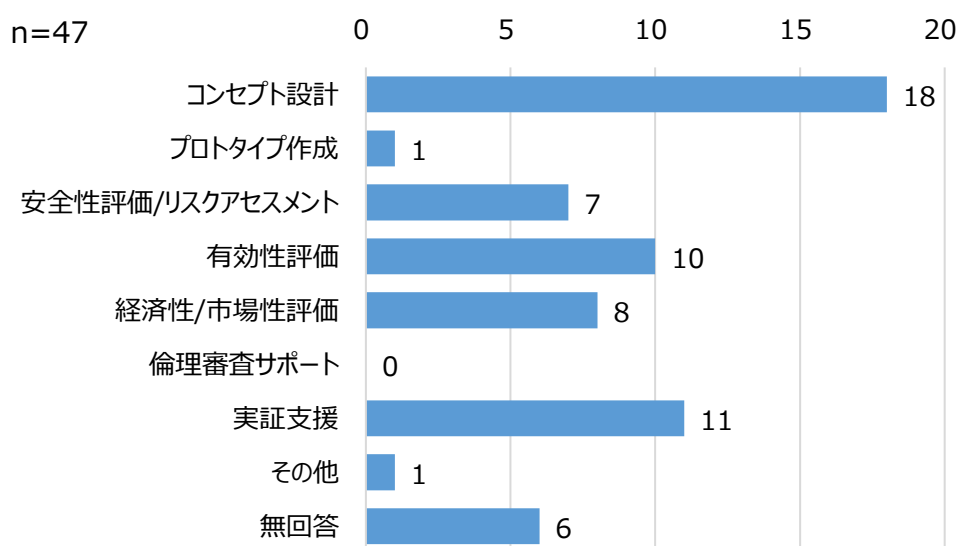
【実環境での実証支援】

- ・ 製品の使い勝手について、介護現場で実証するために実証フィールドを紹介してほしい。

(3)リビングラボの対応内容・対応結果

マッチング支援②を実施した団体に対するリビングラボの対応内容は「コンセプト設計」が最も多く18件であった。

図表 4-17 ラボの対応内容



対応内容詳細(抜粋・一部加工)

【コンセプト設計】

- ・ 開発中のコンセプトでは、特養ではなく、住宅型老人ホームや在宅が対象となることを助言した。また、対象者の ADL の状態によっては、介護職員の負担軽減につながらないことを指摘した。

【有効性評価】

- ・ 開発した製品について、介護現場におけるニーズが解決されるか否かや、使用に当たっての課題について助言を行った。

【実証支援】

- ・ 企業が実証を希望していたため、実証の目的や取得したいデータの確認、データ収集方法等について助言を行い、後日、ラボ検証を行うこととした。

また、マッチング支援②を実施した団体に対するラボ検証、実証の件数はそれぞれ 1 件、3 件(計画中を含む)であった。

第4項 マッチング支援③

(1) マッチング支援③-1

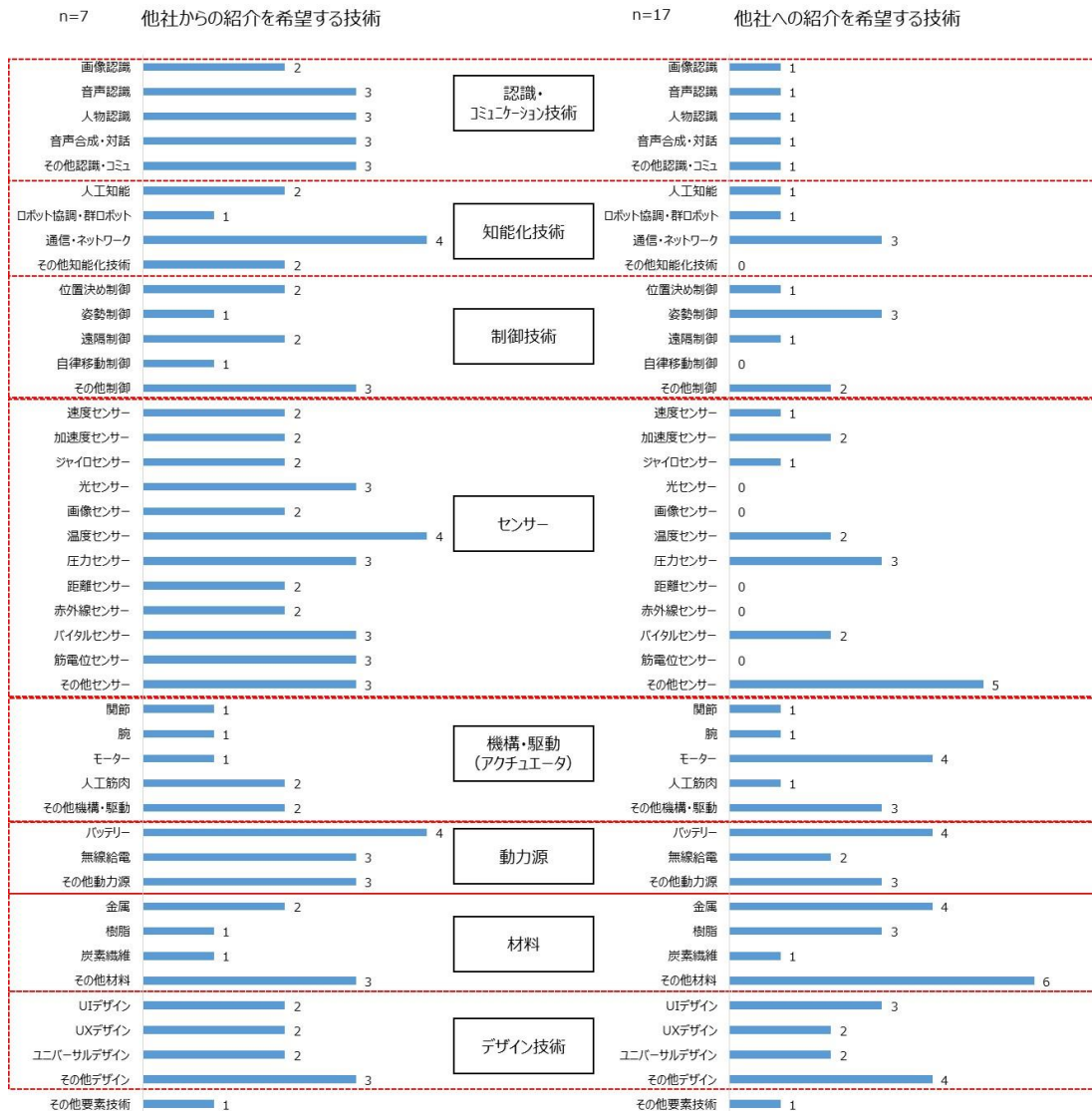
1) 実施件数

マッチング支援③-1(要素技術を探している企業と、要素技術を有する企業とのマッチング支援)においては、4回のマッチング支援を行った。なお、登録数は延べ24団体であり、他社から技術を紹介して欲しい団体は7団体、他社に自社の技術を紹介したい団体は17団体であった。

2) 他社からの紹介を希望する技術と他社への紹介を希望する技術

様々な要素技術を有する、もしくは求める企業からの登録があった。他社からの紹介を希望する技術の種類と他社へ紹介を希望する要素技術の種類毎の登録数を以下に示す。

図表 4-18 マッチング支援③-1 登録団体が他社から紹介を希望する要素技術と
他社へ紹介を希望する要素技術



3) 事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。下記事例でマッチング支援を行った企業からは、要素技術に関する有益な情報交換ができたという声を得られた。

図表 4-19 マッチング支援③-1 の事例

	メーカー A 社	要素技術 B 社
企業情報	リハビリシューズ等の開発・販売を行う開発企業(中小企業)	GPS・LTE 等の IoT 技術を有する、生活支援ロボット等を開発・製造・販売を行うメーカー(中小企業)

製品 イメージ	認知症等による徘徊行動を見守る為の GPS やビーコン機器を安全・確実に保持できるよう、靴底部分に専用スペースを設けたリハビリシューズ(介護靴)を開発、販売している。	自社で有する GPS・LTE やクラウド技術を活用した製品の受託開発を行うほか、見守りサービスを自社で製造・開発するロボットアシストウォーカーに搭載している。
マッチング 希望内容	搭載可能な GPS 機器を増やせないかを模索している。既製の GPS 機器はサイズや形状、耐久性等の問題から靴への内蔵が困難な場合が多いため、要件について相談したい。	自社の有する要素技術をメーカーに紹介したい。
面談内容	メーカーA 社から求める要素技術について説明を行ったのち、要素技術 B 社から自社で有する通信技術について説明を行った。 その後、メーカーA 社が開発するリハビリシューズへの活用の可能性を含め新たな GPS 機器開発の可能性について意見交換を行った。	
感想・反応	薄型バッテリーの活用等、新しい要素技術を知る機会があつてよかった。今後も引き続き情報交換ができればと思う。	内蔵可能な GPS 機器について、自社や他企業含め内蔵可能な GPS 機器について、自社や他企業含めて量産化を見込めるなら製品化に加速がつくため、ニーズ・シーズマッチング支援事業を通じて、要素技術の要望がある他の企業とも接点を設けられればと思う。て量産化を見込めるなら製品化に加速がつくため、本事業を通じて、要素技術の要望がある他の企業とも接点を設けられればと思う。

(2) マッチング支援③-2

1) 実施件数

マッチング支援③-2 においては、開発企業 1 社、および販売・アフターサービス企業 1 社に対して企業同士の面談 1 回を行った。なお、登録数は延べ 24 団体であり、開発企業は 9 団体(10 製品)、販売・アフターサービス企業は 8 団体であった。

2) 事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。下記事例では、マッチング支援を行った企業同士で継

続的に検討を行うために、製品の試用貸出を行うこととなった。

図表 4-20 マッチング支援③-2 の事例

	メーカー A 社	販売会社 B 社
企業情報	介護事業所向けに排泄センサー等を開発している企業(中小企業)	福祉用具の販売・レンタルを行う技術商社(大企業)
製品イメージ	<p>電子機器の開発・設計についての要素技術を有しており、現在は排便と排尿を通知する排泄センサー(ニオイ、湿度、温度)やLiDAR スキャナを活用した離床・転倒センサーを開発している。</p> 	<p>電子、電機、機械を扱う技術商社であり、医療・介護機器の取り扱いについては3年前に開始したばかりである。現在は介護事業所向けに移乗ロボットの貸出し・販売を行っている。</p> 
マッチング希望内容	自社では介護事業所への販路を持っておらず、販売協力していただける販売事業者を探している。	自社で取り扱う介護ロボットの商品ラインナップを充実させるために取り扱いが可能な製品を探している。
面談内容	メーカーA社より、開発している排泄検知センサーについての説明と他機器と比較して電波の強度やイニシャルコストで優位性があることを紹介頂いた。その後販売会社B社からメーカーA社へ商品の取り扱い方法やサポート体制について質疑を行った。	
感想・反応	メーカーA社より販売会社B社へ試用貸し出しを行い、B社内で販売に向け検討して頂くよう調整を行った。	

第4節 マッチング委員会

第1項 開催概要

事業期間中、マッチング委員会を3回実施した。開催概要は以下のとおりである。

(1) 第1回マッチング委員会 開催概要

図表 4-2 1 第1回マッチング委員会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2022年7月8日(金) 13:05-14:55 Web 会議
委員長	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基
出席者	・ マッチング委員 ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	・ 介護現場における生産性向上について ・ ロボット介護機器の開発等の方向性 ・ 令和4年度ニーズ・シーズマッチング支援事業の事業設計・取組内容について

第1回マッチング委員会では、令和4年度ニーズ・シーズマッチング支援事業の取組内容について、事務局案を基に推進することを決定した。本事業の設計と取組内容について挙げた主な意見は以下の通りである。

- 本事業の設計・取組について
 - 地方自治体が本事業との関わりを深め、核となって進めていけるように、地域で自立的に普及が進んでいくようなサポートが必要である。
 - 介護ロボットの購入は、介護事業者にとってコストが大きいので、販売ベースで考えるだけでなく、リースやレンタルという観点からの支援も検討するといいいのではないかと。

- 開発企業に対する取組について
 - 開発企業に対して、ニーズをいかに分かりやすく伝えることができるか考える必要がある。
 - ニーズ調査の段階で、「あったらいいね」のアイデアで止まってしまっている企業がいるが、事業性まで見据えた議論を行った上で、開発を進める必要がある。

- 開発企業の成功事例を、他企業にもしっかり伝えていくことが重要である。
- 介護事業者に対する取組について
 - 企業が開発技術を保有していても、導入する側の介護事業者では Wi-Fi 未設置である等、介護ロボットを受け入れることが出来る環境では無いことがある。受け入れ側となる介護事業者の状況も視野に入れたアプローチが必要なのではないか。

(2)第2回マッチング委員会 開催概要

図表 4-22 第2回マッチング委員会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2022年11月18日(金) 13:05-15:00 Web 会議
委員長	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッチング委員 ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットに関連する政策動向 ・ 介護ロボットのプラットフォーム事業及びニーズ・シーズマッチング支援事業 事業成果報告 ・ マッチング支援事例の共有 ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業において次年度に捉える業界課題、注力取組の方向性に関する意見交換

第2回マッチング委員会では、今後のマッチング支援の在り方を検討するために、業界の課題や注力取り組みの方向性について意見交換を行った。主な意見は以下のとおりである。

- 業界課題について
 - 介護現場に介護ロボットを普及するためには、介護現場が買いたいと思う製品を生み出すことが重要である。このために、個々の機器の有効性を示すエビデンスを示すことが必要となる。
 - 開発上の課題として、介護施設からの実証協力の獲得は依然として残っている。
 - 介護ロボットに関連する情報を、広く介護現場に届けることが難しい。
- 取り組みの方向性について

- AMED の事業では、エビデンスを構築するための評価のポイントを整理している。本事業外のノウハウや知見を開発企業に広く共有することが今後も重要ではないか。
- 介護現場からのニーズ調査や実証協力にあたっては、地域単位での取組が今後重要となる。まずは、プラットフォーム事業の相談窓口やリビングラボとの連携しつつ、今後は地域の自治体や業界団体と連携していけると良い。介護現場への介護ロボットに関する情報発信も同様である。
- 継続的にニーズを収集・企業に周知するとともに、介護現場と企業が継続的に接点を持てるようにすることが重要である。
- シーズ同士の開発連携を加速する取組が今後も必要ではないか。

(3)第3回マッチング委員会 開催概要

図表 4-23 第3回マッチング委員会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年2月20日(月) 15:05-16:55 Web 会議
委員長	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問 諏訪 基
出席者	・ マッチング委員 ・ マッチングサポーター ＜オブザーバー＞ ・ 厚生労働省 ＜事務局＞ ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	・ 介護ロボットのプラットフォーム事業及びニーズ・シーズマッチング支援事業進捗状況報告 ・ マッチング支援の事例検討 ・ 事務連絡

第3回マッチング委員会では、多様な分野に知見を有するマッチングサポーターのネットワークを活かして、開発企業の課題解決を支援するために、本事業でマッチングサポーターが支援を行った事例について、意見収集を行った。主な内容は以下のとおりである。

- 製品機能を活かせる現場ニーズ(ニーズの強さ、ターゲット等)について
- 製品から提供する情報を充実させるために考えられる、連携先の他社製品について
- 企業が想定しているニーズと開発コンセプトが合致し得るか否かについて
- 機器のターゲットの見直しについて
- 開発企業が現場のニーズを把握するための体制について 等

第5節 介護分野の歩き方

新しく介護分野に参入を検討する企業向けに、介護分野を解説するビデオコンテンツ「介護分野の歩き方」シリーズを制作し、ホームページ上で公開した。コンテンツ一覧は以下のとおりである。

図表 4-24 介護分野の歩き方シリーズ コンテンツ一覧

#	分類	タイトル	講師所属・役職 (公開時点)	講師 (敬称略)	
1		介護現場の動画(施設介護・在宅介護)	撮影協力: 社会福祉法人善光会 社会福祉法人福寿会		
2	介護分野の動向	介護業界のDX、テクノロジー活用ニーズの高まり	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局 局長	宮本 隆史	
3		介護現場における生産性向上について	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官	佐々木 憲太	
4		経済産業省におけるロボット介護機器産業の政策について	経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室	安川 一代	
5		介護保険制度、介護業界、介護現場(介護行為)の特性を理解する	一般社団法人 シルバーサービス振興会 事務局長	久留 善武	
6		在宅介護の特徴的な課題と機器開発の動向	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝	
7		機器開発	介護分野への企業の参入動向と開発の課題について	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝

8		介護ロボットの開発動向と ニーズ把握の重要性	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 教授・専攻長	柴田 智広
9		ロボット介護機器の開発プロセス～ 開発のV字モデル～	AMED ロボット介護機器開 発等推進事業(環境整備) プロジェクトリーダー 国研)産総研 インダストリア ル CPS 研究センター ディ ペンダブルシステム研究チ ーム長	中坊 嘉宏
10		介護ロボットの開発から利活用 に向けた倫理的配慮ポイントと倫理審査	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター	梶谷 勇
11	事業化	ニーズを反映した製品開発・事業展開	TANOTECH 株式会社 代表取締役	三田村 勉
12		介護現場に寄り添った販売、アフター フォローについて	株式会社マルベリー 在宅事業部	谷 勇司

第5章 相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議について

第1節 目的

相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議は、相談窓口とリビングラボネットワークの連携を強化し、その取組をより効果的なものとするを目的として開催した。

第2節 実施内容

第1項 第1回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議(以降、第1回連絡会議)

(1) 会議の開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2022年9月8日(木) 14:05-15:55 WEB 会議
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊 慎一
出席組織	<相談窓口> ・ 北海道介護ロボット普及推進センター ・ 青森県介護啓発・福祉機器普及センター ・ いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター ・ 新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口 ・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター ・ 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 ・ 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 ・ 富山県介護実習・普及センター ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口 ・ 兵庫県福祉のまちづくり研究所 ・ 徳島県介護実習・普及センター ・ 愛媛県介護実習・普及センター ・ 日本福祉用具供給協会広島県ブロック ・ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター ・ 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター ・ 鹿児島県介護実習・普及センター

	<p><リビングラボ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東北大学 青葉山リビングラボ ・ 産業技術総合研究所 柏リビングラボ ・ SOMPO Future Care Lab in Japan ・ Care Tech ZENKOUKAI Lab 善光会 サンタフェ総合研究所 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター ・ 九州工業大学 スマートライフケア共創工房 <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口・リビングラボ・事務局が交流することで、互いの理解を深め、関係性を構築すること ・ 各拠点・事務局が有する特徴・取組・担当者の情報・知見を共有することで、年度後半の取組に活かすこと
<p>アジェンダ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の挨拶 2. 令和4年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組、事業進捗のご報告 ・ニーズ・シーズマッチング支援事業の取組 ・広報の取組 3. 令和4年度新規拠点の紹介 4. 介護現場における生産性向上について 5. 事例紹介 6. グループディスカッション 7. 閉会の挨拶

(2)実施結果

1)令和4年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

事務局より、①令和4年度の取組、事業進捗、②ニーズ・シーズマッチング支援事業の取組、③広報の取組について説明した。

①令和4年度の取組、事業進捗

事業全体としては、他関連事業と連携し、介護ロボットの開発・実証・普及を進めていくことを説明した。

相談窓口では、各地域における介護現場の課題やニーズに応じた柔軟な取組を企画・実施すること、相談窓口を核として、地域の課題の解決に向けて協力いただけるサポーターとのネットワーク化を進めていくこと、業務アドバイザーが伴走支援をして、プロセスと成果を体系的に整理し、地域の他施設へ横展開することを説明した。

リビングラボでは、開発企業に対して伴走的な支援を行うこと、各リビングラボの知見を事業・関係省庁を超えて共有しネットワークを強化することを説明した。

②ニーズ・シーズマッチング支援事業の取組

ニーズ・シーズマッチング支援事業では、今年度3種類のマッチング支援を行っていることを説明した。また、相談窓口・リビングラボに協力をいただいている事項として、ニーズリストの更新について説明を行った。

③広報の取組

広報の取組として、H.C.R.2022への出展、第33回全国介護老人保健施設大会へのバナー・パンフレット広告の掲載、月間老協4月号への記事掲載、高齢者住宅新聞8月号への記事掲載、事業ホームページの更新について説明した。

2)令和4年度新規拠点の紹介

本年度より新たに参画いただいた相談窓口である、とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター、愛媛県介護実習・普及センター、大分県介護ロボット普及推進センターより自己紹介をいただいた。

3)介護現場における生産性向上について

厚生労働省老健局高齢者支援課 佐々木調整官より、介護現場における生産性向上についてご説明いただいた。

4)事例紹介

相談窓口・リビングラボの拠点間の連携事例として、東北 Kaigo-Tech 実践研究会の設立、拠点

間の相互視察について紹介を行った。

5) グループディスカッション

相談窓口・リビングラボの交流を深め、日頃から気軽に相談できる関係性を作ること、及び各拠点の年度後半の取組の検討に活かすことを目的として、各拠点を3グループに分け、グループディスカッションを行った。グループディスカッションのテーマは以下とした。

- 拠点の取組みについて
 - ◇ 令和4年度の注力取組と取組にあたっての課題
 - ◇ 他の拠点の取組で気になっていること
 - ◇ 介護ロボットの開発・実証・普及のために、他の拠点と連携して実施したい取組
- 介護現場への接する上での留意点について
 - ◇ 伴走支援や実証における、介護現場への支援方法・介護現場と接する上での留意点

第2項 第2回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議(以降、第2回連絡会議)

(1) 会議の開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	2023年3月2日(木) 15:05-16:55 対面とWEBを併用したハイブリッド会議 対面会場:TKP 東京駅カンファレンスセンター12A
会議議長	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 副センター長 渡邊 慎一
出席組織	<p><相談窓口></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター ・ 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター ・ 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター ・ 新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口 ・ とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター ・ 社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 ・ 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 ・ 社会福祉法人富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 富山県介護実習・普及センター ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口 ・ ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・開発・導入支援窓口 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所 ・ 社会福祉法人健祥会 徳島県介護実習・普及センター ・ 社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会 愛媛県介護実習・普及センター ・ 一般社団法人日本福祉用具供給協会 広島県ブロック ・ 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター ・ 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人鹿児島県社会福協議会 鹿児島県介護実習・普及センター <p><リビングラボ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学法人東北大学 青葉山リビングラボ ・ 国立研究開発法人産業技術総合研究所 柏リビングラボ ・ SOMPO ホールディングス株式会社 SOMPO ケア株式会社 ・ 社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究所 ・ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター ・ 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター ・ 吉備高原医療リハビリテーションセンター ロボット活動支援機器実証センター ・ 国立大学法人九州工業大学 スマートライフケア共創工房 <p><オブザーバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
<p>目的</p>	<p>介護現場の生産性向上、および介護ロボットの開発・実証・普及の促進に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各拠点での今後の取組の検討材料にするために、相談窓口・リビングラボ・事務局の取組の成果や事例を共有すること ・ 令和 5 年度事業の効果的な実施のために、疑問点を解消し必要な取組について検討すること ・ 拠点間での横断的支援の実現を目指し、関係性を強化すること
<p>アジェンダ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の挨拶 2. 令和 4 年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の成果報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口 成果報告 ・ リビングラボ 成果報告 ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業 成果報告 3. 拠点の事例紹介 4. 介護現場における生産性向上推進について

	5. 令和4年度生産性向上事業について 6. グループディスカッション 7. 閉会
--	---

(2)実施結果

1)令和4年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の成果報告
事務局より、相談窓口における相談対応数が令和2年度から右肩上がりに増加していることや、リビングラボへの企業の相談目的・相談内容、対応内容等について共有した。また、ニーズ・シーズマッチング支援事業における取組として、介護分野を解説するビデオコンテンツの制作・公開について紹介した。

2)拠点の事例紹介

相談窓口・リビングラボより、特徴的な事例として以下の事例を紹介いただいた。

図表 5-1 第2回連絡会議で紹介した取組

#	拠点	取組内容
1	相談窓口	伴走支援の事例
2	相談窓口	協議会の事例
3	リビングラボ	開発企業を、ニーズ・シーズマッチング支援事業からリビングラボまで伴走的に支援を行い、実証に至った事例
4	リビングラボ	リビングラボ・開発企業と相談窓口等、拠点間での連携の事例

3) 介護現場における生産性向上の推進について

厚生労働省老健局高齢者支援課 佐々木調整官より、介護現場における生産性向上の推進についてご説明いただいた。

図表 5-2 介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ

第6回全世代型社会保障構築本部決定(R4.12.23)	
介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージについて	
令和4年12月23日 厚生労働省	
<p>○ 持続的な介護職員の待遇改善を実現するためには、個々の事業者における経営改善やそれに伴う生産性の向上が必要であり、具体的には、取組の横展開や働きかけの強化等、総合的に取り組むことが重要。</p> <p>○ 中小事業者も多い、介護事業者の職場環境づくりを全政府的な取組と位置づけ、自治体や事業者も巻き込んで推進し、その成果を、従業員の賃金に適切に還元していただくことについて期待。</p>	
(1) 総合的・横断的な支援の実施	
<p>① 介護現場革新のワンストップ窓口の設置</p> <p>事業者への様々な支援メニューを一括し、適切な支援につなぐワンストップ窓口を各都道府県に設置。中小企業庁の補助金の活用促進。</p>	<p>② 介護ロボット・ICT機器の導入支援</p> <p>課題に対応した代表的な導入モデルを紹介するとともに、①のワンストップ窓口と連携して、相談対応、職員向け研修など伴走支援を進める。</p>
(2) 事業者の意識改革	
<p>③ 優良事業者・職員の表彰等を通じた好事例の普及促進</p> <p>職員の待遇改善・人材育成・生産性の向上などに取り組む事業者・職員を総理大臣が表彰する仕組みを早期に導入し、優良事例の横展開を図る。</p>	<p>④ 介護サービス事業者の経営の見える化</p> <p>介護サービス事業者の財務状況や処遇改善状況の見える化を進め、経営改善に向けた動機付けを進める。</p>
(3) テクノロジーの導入促進と業務効率化	
<p>⑤ 福祉用具、在宅介護におけるテクノロジーの導入・活用促進</p> <p>在宅介護の情報共有や記録の円滑化などについて、調査研究を進め、活用を促進する。また、福祉用具貸与等の対象種目の追加について、評価検討を進める。</p>	<p>⑦ 職員配置基準の柔軟化の検討</p> <p>実証事業などでのエビデンス等を踏まえつつ、テクノロジー導入に先進的に取り組む介護施設における職員配置基準（3:1）の柔軟な取扱い等を検討。</p>
<p>⑥ 生産性向上に向けた処遇改善加算の見直し</p> <p>未取得事業者の取得促進を図るとともに、加算手続の簡素化や制度の一本化について検討。</p>	<p>⑧ 介護行政手続の原則デジタル化</p> <p>今年10月から運用開始した電子申請・届出システムの利用原則化に取り組む。</p>

15

(出典:第6回全世代型社会保障構築本部決定(R4.12.23))

4) 令和4年度生産性向上事業について

事務局より、令和4年度に実施した生産性向上に関する事業の全体像と、それぞれの成果物について紹介を行った。

5) グループディスカッション

令和4年度の振り返り及び生産性向上事業の紹介、令和5年度事業の方針を踏まえ、令和5年度の事業実施に向け疑問点を解消すること、及び令和5年度事業に必要な取組について検討することを目的として、各拠点を3グループに分け、グループディスカッションを行った。グループディスカッションのテーマは以下とした。

- 令和4年度の振り返り(事業実施にあたっての課題や工夫等)
 - ◇ 他の拠点の取組で気になっていること
 - ◇ 今年度課題に感じたこと、解決するために工夫したこと

- 2. 令和5年度の取組に向けて
 - ◇ 令和5年度事業における疑問点
 - ◇ 令和5年度事業において必要と考える取組
 - ◇ 厚生労働省や事務局に望むこと

第6章 周知活動

第1節 ホームページの設置・運用

全国の介護サービス事業所や開発企業等の介護ロボットの関係者に向けて相談窓口及びリビングラボの取組や支援内容を周知するため、当事業に関するホームページを設置し、運用を行った。本事業のホームページのアクセス数は2022年4月1日から2023年3月時点までで、43,390件(2023年3月11日時点)であり、昨年度比160%であった。

また、ニーズ・シーズマッチング支援事業においては、今年度は開発企業向けのコンテンツの充実を図り、介護ロボット業界への参入に向けて知っておきたい介護業界の特徴や動向、製品開発から事業化に向けたポイント、国内外の開発事例など、介護現場やテクノロジーに詳しい専門家による解説動画のページを新しく解説した。ニーズ・シーズマッチング支援事業のホームページのアクセス数は2022年4月1日から2023年3月までで、8,847件(2023年3月11日時点)であり、前年比187%となった。今年度において本事業に対して、73団体からのエントリーがあり、前年比104%となっており、今年度も継続して企業が介護ロボットを開発する際の本事業利用促進につながっていることが伺える。

第1項 ホームページの概要

図表 6-1 ホームページの概要

URL	https://www.kaigo-pf.com/
閲覧ターゲット	1. 介護サービス事業所全般 (特に介護ロボットの導入に関心のある介護サービス事業所) 2. 介護ロボットの開発・普及に関心のある企業
開設日	2022年4月1日
掲載情報	<ul style="list-style-type: none">・ 事業概要・ 介護サービス事業所向けの情報<ul style="list-style-type: none">▶ 【相談窓口】介護ロボットの導入や活用の相談について▶ 介護ロボットに関する研修会について▶ 相談事例について・ 開発企業向けの情報<ul style="list-style-type: none">▶ 【リビングラボ】介護ロボットの製品評価・効果検証の相談について▶ 【相談窓口】研究開発や製品PRの相談について▶ 相談・支援事例について・ ニーズ・シーズマッチング支援事業について<ul style="list-style-type: none">▶ 介護現場のニーズについて

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 開発企業の紹介について ➤ 販売・アフターサービス事業者の紹介について <p>・ お役立ち情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 助成金・補助金等について ➤ <分野別>介護ロボットの活用事例について ➤ セミナーに関する情報について ➤ 本事業に関連した取組やコラムについて ➤ その他、関連情報のリンク
--	---

第2項 ホームページの詳細

(1) トップページ

図表 6-2 事業全体のトップページ（一部、1月29日現在）

The image shows two parts of the project's website. The left part is the main top page, and the right part is a 'Project Summary' (事業概要) page.

Main Page Content:

- Header: 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム
- Navigation: 事業概要, 開発企業に絞る, 販売企業に絞る, リビングラボに絞る, 開発企業に絞る
- Menu: 事業概要, 施設の方はこちら, 開発企業の方はこちら, ニーズ・シーズマッチング支援事業, お知らせ情報
- Main Text:
 - 介護ロボットを使って 暮らしを便利にしたい
 - 最新介護ロボットの実証・実証企業に絞る
 - そんな全国の介護施設・開発企業の皆様へ
 - 介護ロボットの開発から普及までを支援するプラットフォーム構築事業のご案内
- Section: お知らせ
 - 「介護施設の導入に係る物成制度」最新情報は こちら
 - 「介護施設の導入に係る物成制度」最新情報は こちら
 - 2023.01.18 **更新情報** 資料室に1冊「介護現場の可能性を引き出すテクノロジー」導入の取組に込
 - 2023.01.18 **更新情報** 生活性向上フォーラムのご案内
 - 2022.11.18 **更新情報** 研究会についてのページを更新しました。
 - 新取組11号「令和4年度介護ロボット活用セミナー」
 - 新取組12号「【第5回】介護ロボット・福祉用具展示会」
 - 新取組13号「【第5回】介護ロボット・福祉用具展示会」
 - 2022.11.18 **更新情報** 令和4年度 高齢者の介護ロボットフォーラム「認知症高齢者等」(11/29開催)にて本事業の紹介を行います
 - 2022.11.18 **更新情報** 施設長自衛事業支援をテーマにした介護ロボットの活用による生活性向上と取り組み事例の紹介オンラインセミナー(12/7開催)にて本事業の紹介を行います

Summary Page Content (事業概要):

- Text: 本事業は、地域における施設窓口の改善、介護ロボットの評価・実証検証を実施するリビングラボ（開発の促進機能）を含む関係者のネットワークの形成、実証フィールドの整備などを行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の進捗を加速化することを目的としています。(参考) 事業概要紹介動画: https://www.youtube.com/watch?v=9a1u_RJL8Nc
- Diagram: A circular flow diagram showing the process from '介護現場' (Nursing Site) to '実証フィールド' (Real-world Field) and 'リビングラボ' (Living Lab), involving '開発企業' (Development Company) and '販売企業' (Sales Company). The '実証フィールド' is supported by '介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム'.

(2) 各相談窓口のホームページ

図表 6-3 各相談窓口のホームページの URL

窓口名	URL
(福)北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	http://www.dosyakyo.or.jp/carerobot/index.html
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	http://robot-pf.aosyakyo.or.jp/
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	http://www.silverz.or.jp/ikrobo/
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	https://carerobo-pf.jp/
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	https://robot.normalization.jp/
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/care-smile/about_5.html
(福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	https://www.yrc-pf.com/
(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター	https://www.toyama-shakyo.or.jp/hukyu/products-2020-01/#subtop
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	https://platform.ncgg.go.jp/
J.ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口	https://www.ageless.gr.jp/robot
ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口	http://www.kobe-reha-robot.jp/support/
(福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	https://www.kenshokai.group/jisshu-fukyu-center/carerobot/
(一社)日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	https://care-robot.org/
愛媛県介護実習・普及センター	https://www.ehime-shakyo.or.jp/
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	http://aes-medicalwelfare.com/krobot/
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	https://www.oita-kaigorobot.com/

窓口名	URL
鹿児島県介護実習普及センター	http://www.kaken-shakyo.jp/kaigo/robot/robot.html

(3)各リビングラボのホームページ

図表 6-4 各リビングラボのホームページの URL

リビングラボ名	URL
東北大学青葉山リビングラボ	https://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/
Care Tech ZENKOUKAI Lab((福)善光会 サンタフェ総合研究所)	https://caretechlab.sfri.jp/
Future Care Lab in Japan(SOMPO ホール ディングス(株)、SOMPO ケア(株))	https://futurecarelab.com/
柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究 所)	https://unit.aist.go.jp/harc/arrt/ARRT.html
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・ 活動支援機器研究実証センター	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/
(国研)国立長寿医療研究センター 健康 長寿支援ロボットセンター	https://platform.ncgg.go.jp/
ロボット活動支援機器実証センター(吉備 高原医療リハビリテーションセンター)	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_robo.html
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業 大学)	https://slc3lab.jp/

(4) ホームページの更新内容

令和4年度におけるホームページの更新内容は次のとおりである。

図表 6-5 ホームページの更新日と更新内容

更新日	更新内容(概要)	
2022年	4月1日	ホームページ開設
	5月26日	東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 関川伸哉 教授 の取組が東北放送で紹介された旨を周知
	6月1日	栃木福祉プラザモデルルーム福祉用具・介護ロボット相談・活用センター開所式を開催する旨を周知
	6月1日	2022 年度新規開設の相談窓口とリビングラボがオープンした旨を周知
	6月1日	第28回バリアフリー展にて本事業の講演を開催する旨を周知
	6月1日	月間老施協4月号にて本事業が紹介された旨を周知
	6月2日	大分県介護ロボット普及推進センターの開所式が実施された旨を周知
	6月15日	介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業における企業エントリー開始の周知
	6月15日	第28回バリアフリー展における講演のご報告
	6月15日	栃木窓口の開所式実施のご報告
	6月17日	福祉新聞にて、大分県介護ロボット普及推進センターの開所式の様子が紹介された旨を周知
	7月4日	(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センターの研修会情報を公開
	7月4日	令和4年度 ひょうご KOBE 福祉用具・介護ロボットフェスティバルが開催される旨を周知
	7月4日	介護機器の開発に係る助成制度一覧、介護機器の導入に係る助成制度 一覧を掲載、エイジフレンドリー補助金の申請受付開始を周知
	7月13日	ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口、九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター、愛媛県介護実習・普及センター、社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センターの研修会情報を公開
	7月13日	リビングラボの「Future Care Lab in Japan」協力のもとモーショントレーニングツール TANO の体力測定メニュー「TANOCHECK」が開発されたことを周知
8月2日	令和4年度介護ロボットの試用貸出リスト【概要版】を公開	

更新日	更新内容(概要)
8月2日	愛媛県介護実習・普及センターの開所式実施のご報告、開所式の様子が南海放送と愛媛新聞で紹介された旨を周知
8月2日	(福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口、新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口、(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター、鹿児島県介護実習普及センター、ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口の研修会情報を公開
8月17日	厚生労働省主催「生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナー／フォローアップセミナー」の情報を公開
8月17日	「第49回 国際福祉機器展 H.C.R.2022」国際福祉機器展へ、令和4年度「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」(厚生労働省委託事業)が出展する旨を周知
8月17日	(福)健祥会 徳島県介護実習・普及センターの研修会情報を公開
9月6日	ニーズ×シーズ マッチングセミナー2022 ～介護分野のイノベーションは、企業と介護現場が共に生み出す～ の情報を公開
9月6日	令和4年度介護ロボットの試用貸出リスト【概要版】を更新した旨を周知
9月6日	高齢者住宅新聞社に「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」の紹介記事が掲載された旨を周知
9月6日	(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター、とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センターの研修会情報を公開
9月16日	(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター、(一社)日本福祉用具供給協会 広島県ブロック、(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館の研修会情報を公開
10月3日	介護現場やテクノロジーに詳しい専門家による解説動画「介護分野の歩き方」を公開した旨を周知
10月3日	国際福祉機器展(HCR)2022 出展の詳細情報を周知
10月18日	介護現場やテクノロジーに詳しい専門家による解説動画「介護分野の歩き方」にて、追加コンテンツを公開した旨を周知
11月4日	(福)北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター、ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口の研修会情報を公開
11月18日	新潟県介護事業者連盟主催「介護ロボットの活用による生産性向上

更新日		更新内容(概要)
		と取り組み事例の紹介オンラインセミナー」(2022年12月7日開催)にて、本事業の紹介を行う旨を周知
	11月18日	令和4年度 長野県介護ロボットフォーラム【厚生労働省事業】(2022年11月25日開催)にて、本事業の紹介を行う旨を周知
2023年	1月18日	介護現場における産性向上推進フォーラムの開催情報を公開
	1月18日	(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンターの研修会情報を公開
	2月3日	第2回東北 Kaigo-Tech 実践研究会(2023年3月7日開催)の参加者募集開始を周知
	2月3日	新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口、社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 介護ロボット相談窓口の研修会情報を公開

(5) ニーズ・シーズマッチング支援事業のホームページの作成

図表 6-6 HPの概要(ニーズ・シーズマッチング支援事業)

URL	https://www.kaigo-ns-plat.com/
閲覧ターゲット	介護ロボットの開発に興味がある企業(メーカー企業、要素技術を持つ企業など)
開設日	2022年4月1日
掲載情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業概要 <ul style="list-style-type: none"> ➢ マッチング支援とは ➢ 事業背景 ・ マッチング支援 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場のニーズを知りたい ➢ 実証・検証に関わる相談及びフィールドを探したい ➢ 企業間連携したい ・ ニーズリスト <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場のニーズリスト ・ サポーター・リビングラボ <ul style="list-style-type: none"> ➢ マッチングサポーターを探す ➢ リビングラボ・実証フィールドについて ・ 介護分野の歩き方 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場の動画

- 介護業界の動向
- テクノロジー開発
- 事業化

図表 6-7 事業全体のトップページ（一部、3月21日現在）

NS MATCHING 2022

お知らせ 関連リンク集 企業エントリー

事業概要 マッチング支援 ニーズリスト サポーター・リビングラボ 介護分野の歩き方

テクノロジーを活用して解決したい課題がある…

NEEDS SEEDS

全国の開発企業の皆様へ
ニーズ×シーズ
新しい介護イノベーションはここから生まれる

自社の持つ技術を生かせる介護現場のニーズが知りたい…

詳細はこちら（エントリー無料）

ニーズ×シーズマッチング支援事業は、全国の介護現場が抱えている課題（ニーズ）と、開発企業が保有する製品や要素技術等とのマッチングの支援を行っています。
※本事業では、ロボット技術の介護利用における単点分野（5分野/3項目）に限定せず、介護現場で必要となるテクノロジーを広く対象としています。

PICK UP 2023.02 2023年2月17日（金）をもって、2022年度のニーズ×シーズマッチング支援事業におけるエントリー募集は終了致します。

介護現場の新しいニーズ

<p>課題：業務効率、生産性向上、コスト削減 成果：業務効率向上のためのソリューション</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：コスト削減 成果：業務効率化による業務負担の軽減</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>
<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>
<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>	<p>課題：介護・高齢者サービス 成果：高齢者サービスへの最適化による業務効率化</p> <p>詳細はこちら</p>

01 マッチング支援とは

02 介護現場のニーズリスト

03 マッチングサポーター・ラボ

04 介護分野の歩き方

第2節 事業パンフレットの作成・配布

各相談窓口やリビングラボをはじめ、イベント等での配布や関係団体等への周知を目的に、事業パンフレットを作製した。各相談窓口やリビングラボには、各拠点で自由に増刷できるように、紙媒体に加えデータ版のパンフレットも併せて配布した。

パンフレットの構成は以下の通りである。

図表 6-8 事業パンフレットの構成

ページ	掲載内容(概要)
表紙	<ul style="list-style-type: none">・ 本事業の概要
中面	<ul style="list-style-type: none">・ 相談窓口の取組について<ul style="list-style-type: none">➤ 相談窓口とは➤ 相談窓口の取組➤ リビングラボの取組・ リビングラボとは<ul style="list-style-type: none">➤ リビングラボの取組➤ 相談窓口とリビングラボの活用の流れ・ その他の取組について<ul style="list-style-type: none">➤ 介護ロボットのニーズ・シーズマッチング支援事業
裏表紙	<ul style="list-style-type: none">・ 相談窓口 17 拠点、リビングラボ 8 拠点の名称、住所、電話番号、メールアドレス

図表 6-9 事業パンフレットのデザイン

相談窓口・リビングラボへのアクセスについて

相談窓口

<p>1. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>2. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>3. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>4. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>5. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>6. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>7. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>8. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>9. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>10. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>11. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>12. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>13. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>14. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>15. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>16. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>17. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>18. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>
<p>19. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>	<p>20. 北海道 札幌市東区南一条1丁目1番1号 TEL: 011-836-1111 FAX: 011-836-1112 URL: https://www.kaijo-pf.com</p>

活用にあたっての留意点

相談窓口への申し込みの際は、電話番号等で事前予約を済ませた上で申し込みをいただきます。事前予約がなく、直接お申し込みいただく場合は、申し込みの受付が可能な限り対応させていただきます。また、申し込みの受付が可能な限り対応させていただきます。また、申し込みの受付が可能な限り対応させていただきます。

令和4年度 介護ロボットの開発・実証・普及の プラットフォーム

介護ロボットの現場への導入相談や体験・試用をしたい

介護ロボットの開発や実証に関する助言が欲しい

**全国の介護現場、介護ロボットの開発企業の皆様
介護ロボットの検証開発普及を支援する
プラットフォーム^(※)を運営しております。**

※ 厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及プラットフォーム事業」(出典: 本事業)

介護人材の不足が深刻な社会的課題となる中、その解決策の一つとして、高齢者の自立支援の促進、質の高い介護を実現するためのICTや介護ロボット等のテクノロジーの活用が期待されています。一方で、介護現場では、「どの種類の介護ロボットを導入すべきかわからない」、「設備が長く業務改善に取り組めない」といった声も少なくありません。また、開発企業は、より介護現場のニーズに合った製品開発を進めていくことが求められています。

プラットフォーム事業とは?

本事業は、各地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ(開発の促進拠点)を含む関係機関のネットワークの形成、実証フィールドの整備等を行うことで、全国でプラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の進捗を加速化することを目的としています。

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health Labour and Welfare
NTT DATA 株式会社NTTデータ経営研究所
株式会社NTTデータ経営研究所

相談窓口の取組について

相談窓口とは

各地域において、介護ロボットに関する介護現場(ニーズ)と開発企業(ニーズ)双方からの相談の受付等を行う一元の窓口です。現在、全国で17箇所を設置しています。

相談窓口の取組

▶▶▶ 介護現場への支援

- 各種相談への対応**
介護ロボットの導入方法や活用方法に関する、介護現場からの相談に対応します。具体的には、介護ロボットを活用した介護現場の業務改善方法の紹介、導入事例、介護ロボットの製品情報や補助金・基金の紹介等を行います。
- 介護ロボットの試用貸出**
介護ロボットを試してみたいという介護現場から、介護ロボットの試用貸出依頼を受け付け、試用貸出企業へ取り次ぎを行います。
- 体験展示**
現場での活用をイメージできる場として、介護ロボットに触れ、体験することが出来る展示場を用意しています。中には、各種相談への対応と体験展示を兼ねる場所で実施している相談窓口もあるため、個別にお問合せ下さい。

▶▶▶ 開発企業への支援

- 各種相談への対応**
介護ロボットの研究開発や製品のPR等に関する相談に対し、介護ロボットの開発にあたっての補助金の紹介や出展可能なイベントの紹介等を行います。また、開発企業より製品評価や効果検証に関する要望があった場合は、リビングラボネットワークへ取り次ぐことが可能です。

その他の取組について

▶▶▶ 介護ロボットのニーズ・シーズ マッチング支援事業

連年東に厚生労働省が実施した「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会」事業において抽出された介護現場の課題(ニーズ)と、介護ロボット開発に関与する企業等が保有する製品や初期段階の試作品、実業技術等(シーズ)のマッチングを支援します。

リビングラボの取組について

リビングラボとは

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。「開発中の介護ロボットの製品評価をしたい」「開発中の介護現場で使えぬロボットが検証したい」といった開発企業の皆様を支援します。

本事業に参画するリビングラボは現在全国で8施設です。これらのリビングラボは本事業を通じてネットワークを構築し、それぞれの強みを生かしながら開発企業の皆様をサポートしていきます。

リビングラボの取組

▶▶▶ 開発企業への支援

- 介護ロボットの製品評価・効果検証**
開発企業からの要望に応じて、製品化にあたって開発中のロボットの安全性や使用効果の評価・検証を実施します。
- 効果検証に係る助言**
開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証に当たり、実証時の評価・データ分析方法への専門的・技術的助言を実施します。

▶▶▶ 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応

介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた介護現場での大規模実証等を支援します。

相談窓口とリビングラボ活用の流れ

▶▶▶ 相談窓口・リビングラボ活用の流れ

- お住まいの地域の相談窓口へアクセス(電話・メール等での予約受付は、随時可能)※事前予約を行ったくともスムーズにご案内できます
- 相談窓口にて各種サービスの概要及び必要な手続きを案内①相談内容に応じて介護ロボットに関する各サービス(相談対応、試用貸出、体験展示)を利用
- 開発企業の方は相談窓口より取次ぎを受け、リビングラボの各サービス(製品評価・効果検証、効果検証に係る助言)を利用

本プラットフォームを利用した試用貸出や実証において発生する事故トラブル等に備えて、民間の賠償責任保険への加入や使用状況の記録等について介護現場等と開発企業等で直接取り決めていただきますようお願いいたします。

154

パンフレットの配布先は次のとおりである。

図表 6-10 事業パンフレットの配布先

配布先	部数 (枚)
(福)北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター	1600
(福)青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター	200
(公財)いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター	320
新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口	250
とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター	1500
(福)埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館	200
(福)横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口	500
(福)富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター	250
(国研)国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	330
ATC エイジレスセンター 介護ロボット相談窓口	600
ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口	500
(福)健祥会 徳島県介護実習・普及センター	1300
(一社)日本福祉用具供給協会 広島県ブロック	800
愛媛県介護実習・普及センター	500
九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター	600
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター	500
鹿児島県介護実習普及センター	250
東北大学青葉山リビングラボ	350
Care Tech ZENKOUKAI Lab((福)善光会 サンタフェ総合研究所)	90
Future Care Lab in Japan(SOMPO ホールディングス(株)、SOMPO ケア(株))	200
柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)	100
藤田医科大学 ロボティックスマートホーム・活動支援機器研究実証センター	100
ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)	100
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)	200

第3節 国際福祉機器展への出展

介護サービス事業所及び開発企業等に向けて本事業の周知を図るため、国際福祉機器展(以下、H.C.R.)に出展した。H.C.R.の出展概要は次のとおりである。リアルブース出展、ウェブ出展に加え、開発企業を対象にパネルディスカッション型のプレゼンテーションを対面形式で行い、リビングラボによる開発企業への支援事例の紹介を行った。H.C.R.では、ブース出展以外にも、出展社に対するパンフレットの配布やニーズ・シーズマッチング支援事業の紹介を行った。

図表 6-11 H.C.R.の出展概要

主催者	一般財団法人 保健福祉広報協会 (共済:社会福祉法人 全国社会福祉協議会)
出展場所	1. リアル展示ブース 2. 出展社プレゼンテーション 3. ウェブ展
主な来場者 (見込み)	福祉施設職員、ケアマネジャー、ホームヘルパー、福祉団体・ボランティア関係者、医師、看護師、PT、OT、リハビリに携わる方、保育士、栄養士、建築・設計関係者、製造業、販売業、行政、福祉・介護・医療・工学系学生、エンドユーザー、一般 等 ※H.C.R.のホームページを参照
入場料	無料

(1)リアル展示ブース

今年度は対面形式の出展も行われた。本事業の出展に関する概要は次のとおりである。

図表 6-12 リアル展示ブースの概要

日時	2022年10月5日(水)~7日(金)
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」東3ホール
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 介護ロボットプラットフォーム事業・ ニーズ・シーズマッチング支援の紹介ポスター・ 関連事業のパネル及び報告書展示・ 本事業利用企業におけるロボット展示
来場者数	延べ 115 名 (※ブースにおいて実際に名刺を交換した人数で読み換え)

図表 6-13 リアル出展ブースの様子



(2) 出展社プレゼンテーション

主に介護ロボットの開発に携わる企業に向けて本事業を広く周知することを目的としたプレゼンテーションを対面形式で行い、61名の参加があった。また、本プレゼンテーションやH.C.R.を契機にニーズ・シーズマッチングに繋がった件数が1件あった。出展社プレゼンテーションの概要は次のとおりである。

図表 6-14 出展社プレゼンテーションの概要

日時	2022年10月5日(水)14:30～15:30
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」東1ホール会場A
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボット分野に新規参入しようとしている企業(要素技術を持つ企業を含む) ・ 既に介護ロボットの開発に取り組んでいる企業(企業規模を問わない)
内容	<p>【講演】 本事業の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の紹介 ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業、ニーズリスト、エントリー方法の紹介 <p>【パネルディスカッション】 本事業を活用した製品開発の事例について (リビングラボの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リビングラボを活用した製品開発・改良の事例 ・ 製品開発・改良における現場ニーズの把握、現場検証の重要性 <p>(企業の観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の活用による製品開発の気づき ・ 本事業を活用したニーズの把握、リビングラボとの連携の重要性 ・ 介護以外の市場への横展開について ・ 上市後の販売拡大戦略と課題 <p>(行政の観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボットの開発に向けた企業支援内容について
講演者	<p>【講演】 株式会社 NTT データ経営研究所</p> <p>【パネルディスカッション】 新東工業株式会社、国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター、SOMPO ホールディングス株式会社 Future Care Lab in Japan、TANOTECH 株式会社</p>
来場者数	61名

図表 6-15 出展社プレゼンテーションの様子



(3) ウェブ展

昨年度に引き続き、ウェブ上での出展も行われた。本事業の概要は次のとおりである。

図表 6-16 ウェブ展の概要

日時	2022年9月1日(木)～2023年3月31日(金) ※予定
場所	H.C.R.で用意されたホームページ上
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等 ※リアル展示と同様
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の概要<ul style="list-style-type: none">➤ 相談窓口の概要➤ リビングラボの概要➤ ニーズ・シーズマッチング支援事業の概要➤ 介護ロボットの試用貸出リスト¹の概要➤ 介護現場で活用されるテクノロジー²便覧の概要➤ <分野別>介護ロボットの活用動画集の概要・ 資料<ul style="list-style-type: none">➤ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業のパンフレット➤ ニーズ・シーズマッチング支援事業のパンフレット・ 出展社情報、問い合わせ先
アクセス数	延べ115件 (※2023/2/24時点のホームページの来訪者数で読み換え)

¹ 令和4年度福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式 公益財団法人テクノエイド協会

² 令和3年度厚生労働省 老人健康保健健康増進等事業「介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業」

図表 6-17 ウェブ展のホームページ（トップページ）



国際福祉機器展
Int'l Home Care & Rehabilitation Exhibition





介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

介護ロボットプラットフォーム

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム（厚生労働省委託事業）



介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

本事業では、介護ロボットの開発・実証・普及を支援するプラットフォームを運営しています。具体的には、地域における相談窓口の設置、介護ロボットの評価・効果検証を実施するリビングラボ（開発の促進機関）を含む関係機関のネットワークの形成、実証フィールドの整備などを行うことで、全国版プラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・実証・普及の流れを加速化することを目指しています。

資料ダウンロード

▼

出展社情報・お問い合わせ

▼

製品紹介



相談窓口

介護現場と開発企業からの相談を受け付けます。★介護サービス事業や開発企業からの各種相談等の対応/介護ロボットの試用貸出/介護ロボットの体験展示/研修会の開催/関係機関や団体との協議会の開催/介護ロボット導入の伴走支援



リビングラボ

介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための機関です。★介護ロボットの製品評価・効果検証/効果検証に係る助言/介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応



ニーズ・シーズマッチング支援事業

全国の介護現場が抱えている課題（ニーズ）と、開発企業が保有する製品や要素技術等とのマッチング支援を行っています。★ロボットの安全性・効果の検証や実証に関する相談受付/実証協力施設（実証フィールド）を活用した実証試験の実施



試用貸出リスト

「介護ロボットの試用貸出リスト」（令和4年度 福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式 公益財団法人テクノエイド協会）です。介護ロボットの開発企業等に貸出への参加を募り、同意を得ることができた企業の機器が掲載されています。相談窓口では本リストを中心に、実際の介護ロボットの貸し出しを行っています。



介護現場で活用されるテクノロジー便覧

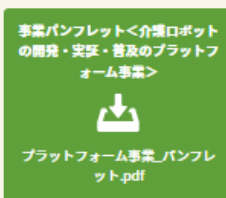
介護テクノロジーを導入しようとする介護事業所等の職員が、その情報を俯瞰的に把握できることを目的として、介護現場で活用されるテクノロジーを製品ベースで紹介しています（令和3年度時点）。本便覧は、令和3年度厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業」において作成されました。



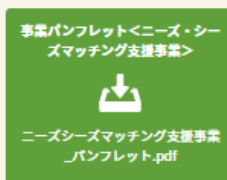
<分野別>介護ロボットの活用動向集

介護ロボットの分野別に、介護ロボットの活用事例を動画形式（YouTube）で紹介しています。詳細は【製品紹介サイト】のリンク先よりご覧ください。

資料ダウンロード



プラットフォーム事業_パンフレット.pdf



ニーズシーズマッチング支援事業_パンフレット.pdf

（出典：H.C.R.ホームページより）

図表 6-18 ウェブ展のホームページ（相談窓口）



国際福祉機器展
International Welfare Robot Exhibition

[ENGLISH](#)

高齢者快脚

製品快脚

国際福祉機器展
公式サイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）

相談窓口の取組について

相談窓口とは
本展覧会において、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）の取組について、介護現場や開発企業からのご相談を受け付けます。また、介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応、介護ロボットの試用貸出、介護ロボットの体験展示、研修会の開催、関係機関や団体との協議会の開催、介護ロボット導入の伴走支援を行います。

介護現場への支援
介護現場において、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）の取組について、介護現場や開発企業からのご相談を受け付けます。また、介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応、介護ロボットの試用貸出、介護ロボットの体験展示、研修会の開催、関係機関や団体との協議会の開催、介護ロボット導入の伴走支援を行います。

開発企業への支援
開発企業において、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）の取組について、開発企業からのご相談を受け付けます。また、介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応、介護ロボットの試用貸出、介護ロボットの体験展示、研修会の開催、関係機関や団体との協議会の開催、介護ロボット導入の伴走支援を行います。

関係機関・団体への支援
関係機関・団体において、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）の取組について、関係機関・団体からのご相談を受け付けます。また、介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応、介護ロボットの試用貸出、介護ロボットの体験展示、研修会の開催、関係機関や団体との協議会の開催、介護ロボット導入の伴走支援を行います。

相談窓口

介護現場と開発企業からの相談を受け付けます。★介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応／介護ロボットの試用貸出／介護ロボットの体験展示／研修会の開催／関係機関や団体との協議会の開催／介護ロボット導入の伴走支援

各地域において、介護ロボットに関する介護現場（ニーズ）・開発企業（シーズ）双方からの相談受付などを行う一元的な窓口です。現在、全国で17箇所を設置されています。

出展、福祉機器情報

[福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連ウェブサイト](#)

機能分類

[サポート充実](#) [試用可能](#)

製品仕様

介護サービス事業者や開発企業からの各種相談等への対応／介護ロボットの試用貸出／介護ロボットの体験展示／研修会の開催／関係機関や団体との協議会／介護ロボット導入の伴走支援

製品PR

【介護サービス事業者向け】
介護ロボットの現場への導入・活用、介護ロボットの体験に関するお悩みにお応えします。

【開発企業向け】
介護ロボットの開発に関する補助金の紹介や出展可能なイベントの紹介等を行います。
製品評価や効果検証に関する要望があった場合はリビングラボネットワークへ取り次ぐことが可能です。

製品紹介サイト

<https://www.kalpo-pf.com/soudan/>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）
住所	東京都千代田区平河町2-7-9JA共済ビル10F
TEL	090-1123-1921
FAX	03-3221-7022
URL	https://www.kalpo-pf.com/

[出展社ページはこちら](#)

[お問い合わせはこちら](#)

プライバシーポリシー | サイトポリシー

© 2022 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

（出典：H.C.R.ホームページより）

図表 6-19 ウェブ展のホームページ（リビングラボ）

(出典:H.C.R.ホームページより)

図表 6-20 ウェブ展のホームページ（ニーズ・シーズマッチング支援事業）

国際福祉機器展
International Welfare Robot Exhibition

ENGLISH

出展社検索

製品検索

国際福祉機器展
公式サイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）

介護現場のニーズを届けたロボット開発に向け、企業のエントリーを募集

NS MATCHING 2022

ニーズ×シーズ
新しい介護イノベーションはここから生まれる

このイベントは、介護現場のニーズを届けたロボット開発に向け、企業のエントリーを募集し、開発企業と介護現場のマッチングを支援する。実証施設や実証フィールド（実証フィールド）を活用した実証試験の実施

ニーズ・シーズマッチング支援事業

全国の介護現場が抱えている課題（ニーズ）と、開発企業が保有する製品や要素技術等とのマッチング支援を行っています。★ロボットの安全性・効果の検証や実証に関する相談受付／実証協力施設（実証フィールド）を活用した実証試験の実施

介護現場からのニーズの紹介や、マッチングに関わる支援を行っています。その他、ロボットの安全性・効果の検証や実証に関する支援を希望する企業は、同事業に参加する全国8か所のリビングラボに相談することができます。更に、同事業に登録している実証協力施設（実証フィールド）を活用し、実証試験を実施することも可能です。

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連Webサイト

機能分類

サポート充実

製品仕様

介護現場のニーズ紹介、マッチングに関わる支援体制：①ニーズリストを介したニーズの紹介、取次 ②実証・検証に関わる相談及びフィールド（介護施設・リビングラボ等）の紹介 ③製品、技術を行う開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

製品PR

ニーズリストには、介護現場における様々な課題が公開されています。これらのニーズは、具体的なかつ最新の情報（対象者、場面、現場の工夫等）が随時更新されています。エントリー企業は、介護現場やロボット技術の専門家から、介護現場のニーズについて詳しく聞いたり、ロボットの開発について助言を得ることができます。ニーズを持つ介護現場への見学及び現場との開発コンセプトに関する意見交換の取次や支援も行っています。

製品紹介サイト

<https://www.kalpo-ns.plat.com/>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）
住所	東京都千代田区平河町2-7-9JA共済ビル10F
TEL	090-1123-1921
FAX	03-3221-7022
URL	https://www.kalpo-pf.com/

出展社ページはこちら

お問い合わせはこちら

プライバシーポリシー | サイトポリシー

© 2022 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

（出典：H.C.R.ホームページより）

図表 6-21 ウェブ展のホームページ（試用貸出リスト）



[ENGLISH](#)

出展社情報

商品情報

国際福祉機器展
公式サイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）



試用貸出リスト

「介護ロボットの試用貸出リスト」（令和4年度 福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式 公益財団法人テクノエイド協会）です。介護ロボットの開発企業等に貸出への参加を募り、同意を得ることができた企業の機器が掲載されています。相談窓口では本リストを中心に、実際の介護ロボットの貸し出しを行っています。

出版・福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉情報提供Webサイト

機能分類

[サポート充実](#)

製品仕様

介護ロボットの分類：移乗支援／移動支援／精神支援／見守り・コミュニケーション／入浴支援／介護業務支援

製品PR

本リストは介護ロボットの開発企業等に貸出への参加を募り、同意を得ることができた企業の機器について情報を盛りまとめたものです。また、リストへの掲載は、業分野に該当する介護ロボットであること、無償貸出を行うことに同意が得られたものについて掲載しております。（テクノエイド協会のHPより）

製品紹介サイト

<http://www.techno-alds.or.jp/robot/18e047022rentallist.pdf>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）
住所	東京都千代田区千代田2-7-9JA共済ビル10F
TEL	090-1123-1921
FAX	03-3221-7022
URL	https://www.kaijo-pf.com/

[出展社ページはこちら](#)

[お問い合わせはこちら](#)

プライバシーポリシー | サイトポリシー

© 2022 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

（出典：H.C.R.ホームページより）

図表 6-22 ウェブ展のホームページ（介護現場で活用されるテクノロジー便覧）



国際福祉機器展
International Care & Welfare Information Exhibition

ENGLISH

出展社情報

製品情報

国際福祉機器展
公式サイトはこちら



介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）



介護現場で活用されるテクノロジー便覧

介護現場で活用されるテクノロジー便覧

介護テクノロジーを導入しようとする介護事業所等の職員が、その情報を俯瞰的に把握できることを目的として、介護現場で活用されるテクノロジーを製品ベースで紹介しています（令和3年度時点）。本便覧は、令和3年度厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業」において作成されました。

令和3年度厚生労働省 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業」において、介護現場で活用されるテクノロジー便覧を作成しました。

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連ウェブサイト

検索分類

サポート充実

製品仕様

口次：移乗介助の負担／移動の自立支援／排泄介助の負担軽減／排泄の自立支援／見守りの効率化・負担軽減／コミュニケーション・レクリエーションの充実／入浴介助の負担軽減／調理的な業務の効率化・負担軽減／その他の業務の効率化・負担軽減

製品PR

便覧に掲載する製品情報は、本事業で行ったアンケート調査の一部の調査対象企業に対して提供依頼を行い、結果的に102製品の情報提供を頂きました。

製品紹介サイト

https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16_02/jyohokokusho.pdf

出展社情報・お問い合わせ

出展社名	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）
住所	東京都千代田区千代田2-7-9JA共済ビル10F
TEL	090-1123-1921
FAX	03-3221-7022
URL	https://www.kajgo.pl.com/

出展社ページはこちら

お問い合わせはこちら

プライバシーポリシー | サイトポリシー

© 2022 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

（出典：H.C.R.ホームページより）

図表 6-23 ウェブ展のホームページ（＜分野別＞介護ロボットの活用動画集）

国際福祉機器展
ENGLISH

高齢社会情報
製品情報
国際福祉機器展
公式サイトはこちら

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム
介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）

＜分野別＞介護ロボットの活用動画集

介護ロボットの分野別に、介護ロボットの活用事例を動画形式（YouTube）で紹介しています。詳細は【製品紹介サイト】のリンク先よりご覧ください。

出版、福祉機器情報
福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送媒体、福祉機器関連
WEBサイト

機能分類
ロボット充実

製品仕様
製品PR

分野：移動支援／移動支援／排泄支援／見守り・コミュニケーション／入浴支援／介護業務支援／その他
メーカー様にご協力いただき、全85本の動画をご利用しております。是非ご覧ください！

製品紹介サイト
<https://www.youtube.com/channel/UCrHljkXSvN2Jr9WwVceUjg/playlists>

出展社情報・お問い合わせ

出展社名	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業（厚生労働省委託事業者：NTTデータ経営研究所）
住所	東京都千代田区千代田2-7-9JA共済ビル10F
TEL	090-1123-1921
FAX	03-3221-7022
URL	https://www.kajpo_pf.com/

出展社ページはこちら
お問い合わせはこちら

プライバシーポリシー | サイトポリシー
© 2022 Health and Welfare Information Association All rights reserved.

（出典：H.C.R.ホームページより）

第4節 ニーズ・シーズマッチング支援セミナーの開催

整理した介護現場のニーズおよびロボット案のリストを介護ロボット開発に携わる企業に周知すること、介護ロボットの市場動向や開発における現場ニーズ反映の重要性を伝えて多様な企業の技術情報を収集すること、および多数の企業のエントリーにつなげることを目的として、キックオフセミナーを実施した。セミナーの概要およびリーフレットを以下に示す。

図表 6-24 ニーズ×シーズ マッチングセミナーの概要

セミナー名	ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2022 ～介護分野のイノベーションは、企業と介護現場が共に生み出す～
開催日時/形式	2022 年 9 月 27 日(火) 13:00～15:00 zoom ウェビナー形式
プログラム	<p>開会(ご挨拶)</p> <p>(講師:厚生労働省老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太 氏)</p> <p>基調講演①</p> <p>介護保険制度、介護業界、介護現場(介護行為)の特性を理解する</p> <p>(講師:一般社団法人 シルバーサービス振興会 事務局長 久留 善武 氏)</p> <p>基調講演②</p> <p>介護ロボットの開発動向とニーズ把握の重要性</p> <p>(講師:九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広 氏)</p> <p>基調講演③</p> <p>ニーズを反映した製品開発・事業展開:ゲーミフィケーション「TANO」～リハビリ,フレイル予防,教育,成長し続けるヘルスケアプラットフォーム～</p> <p>(講師:TANOTECH 株式会社 代表取締役 三田村 勉 氏)</p> <p>基調講演④</p> <p>介護現場に寄り添った販売、アフターフォローについて</p> <p>(講師:株式会社マルベリー 在宅事業部 谷 勇司 氏)</p> <p>【事業概要説明】</p> <p>ニーズ・シーズマッチング支援事業 株式会社 NTT データ経営研究所</p> <p>閉会</p>

図表 6-25 ニーズ×シーズ マッチングセミナーのリーフレット



ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2022

～介護分野のイノベーションは、企業と介護現場が共に生み出す～

参加費
無料

厚生労働省 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

- ▶ **対象**：介護ロボット開発に興味がある/取り組んでいる
企業・団体の皆様
- ▶ **形式**：Zoomウェビナー
- ▶ **定員**：先着400名
- ▶ **日程**：2022年9月27日（火）13:00～15:00（開場 12:45）
- ▶ **プログラム**

定員先着
400名

講師決定!!

13:00-13:05	開会（ご挨拶）	厚生労働省老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護ロボット政策調整官 佐々木 憲太氏
13:05-13:30	講演① 介護保険制度、介護業界、介護現場(介護行為)の特性を理解する	一般社団法人 シルバーサービス振興会 事務局長 久留 善武氏 
13:30-13:55	講演② 介護ロボットの開発動向とニーズ把握の重要性	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広氏 
13:55-14:20	講演③ ニーズを反映した製品開発・事業展開:ゲーミフィケーション「TANO」 ～リハビリ,フレイル予防,教育,成長し続けるヘルスケアプラットフォーム～	TANOTECH株式会社 代表取締役 三田村 勉氏 
14:20-14:45	講演④ 介護現場に寄り添った販売、アフターフォローについて	株式会社マルベリー 在宅事業部 谷 勇司氏 
14:45-14:58	【事業概要説明】 ニーズ×シーズマッチング支援事業	株式会社NTTデータ経営研究所
14:58-15:00	閉会	

申込方法

- 右記のリンクよりお申し込みください。 [参加申し込みフォーム](#)
- 先着順での受付となります。 **参加確定者のみ、メールにて参加リンクのご案内**をいたします。

主催：株式会社NTTデータ経営研究所

本セミナーに関するお問い合わせ：株式会社NTTデータ経営研究所 先端技術戦略ユニット
HealthCareImplementationグループ (ns-plat@nttdata-strategy.com)

セミナーへの申込者数は 220 名、最大参加者数は 147 名であった。また、「介護保険制度、介護業界、介護現場(介護行為)の特性を理解する」、「介護ロボットの開発動向とニーズ把握の重要性」、「ニーズを反映した製品開発・事業展開:ゲーミフィケーション「TANO」〜リハビリ,フレイル予防,教育,成長し続けるヘルスケアプラットフォーム〜」「介護現場に寄り添った販売、アフターフォローについて」については、キックオフセミナー終了後にホームページ上にて公開した。

第5節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績

セミナー、メディア等における当事業の周知実績は次のとおりである。

図表 6-26 セミナー、メディア等における周知実績

周知場所(主催者)	周知内容(概要)
第28回バリアフリー2022 (社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ)	本事業について講演を行った。
月刊老施協4月号 (全国老人福祉施設協議会)	「何が足りない?ニッポンの高齢者福祉」にて、本事業の紹介を行った
高齢者住宅新聞 2022年8月3・10日号 (株式会社高齢者住宅新聞社)	本事業における相談窓口とリビングラボの活用等について取材を受け、記事化された。
北海道内におけるラジオ放送 (北海道介護ロボット普及推進センター)	「介護ロボット普及推進事業」において本事業の概要について説明を行った。
第49回国際福祉機器展 H.C.R.2022 (全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会)	出展社プレゼンテーションにて、本事業の紹介を行った
介護ロボットの活用による生産性向上と取り組み事例の紹介オンラインセミナー (新潟県介護事業者連盟)	本事業について講演を行った。
介護現場の生産性向上に関する政策動向と実際の進め方 (兵庫県シルバーサービス事業者連絡協議会)	介護ロボットやICTの導入活用の解説とともに、本事業の概要について説明を行った。
介護現場における生産性向上推進フォーラム全8回 (厚生労働省)	介護サービスにおける生産性向上に関する講演とともに、本事業の概要について説明を行った。
介護ロボットメーカー連絡会議 (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。詳細な次第は次の図の通りである。

図表 6-27 介護ロボットメーカー連絡会議の次第

【第1部】	
行政報告 10:10～10:50	
① ロボットに係る施策の動向<各20分> 厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護ロボット開発・普及推進室 室長補佐 佐々木 憲太 氏 経済産業省 商務情報政策局ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 補佐 南須原 美恵 氏	 
情報提供 10:50～11:50	
② 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業について<40分> 公益財団法人テクノエイド協会 五島 清国 ・介護現場のニーズをふまえた介護機器の開発に係る取組みについて アドバイス支援及びモニター調査事業等の実施 ・介護ロボット地域フォーラムの開催について ・都道府県における介護ロボットの開発・導入に係る助成事業について ・介護ロボットの試用貸出リスト等について ・福祉用具等の安全利用に関する情報の整理・報告・発信について ・その他、令和4年度の主な事業の予定について	
③ 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業について<20分> 株式会社NTTデータ経営研究所 先端技術戦略ユニット 山内 勇輝 氏	
【第2部】	
取組報告 12:40～13:20	
④ プラットフォーム事業におけるリビングラボの機能について<20分> スマートライフケア共創工房 柴田 智広 氏	
⑤ プラットフォーム事業における相談窓口の役割について<20分> とちぎ福祉プラザモデルルーム 伊藤 勝規 氏	
基調報告 13:20～14:20	
⑥ テクノロジーを活用した介護・高齢者向けサービスの開発と活用について<各20分> ・介護現場におけるICTを活用したケアの実践と開発企業との関わり 社会福祉法人隆生福祉会 加藤 正人 氏 ・骨格認識AIによる見守り支援システムのモニター調査を終えて エコナピスタ株式会社 渡邊 君人 氏 ・高齢者向けサービスの利便性向上に向けたICTの活用について NTTビジネスソリューションズ株式会社 高木 康彦 氏 ハッピーベル株式会社 福森 鉄雄 氏	  
質疑応答 14:20～14:40	
・会場及びWeb参加者<20分>	

(出典:公益財団法人テクノエイド協会 ホームページより)

第7章 まとめ

第1節 事業成果

(1) 介護ロボットの開発と実証

リビングラボネットワークとニーズ・シーズマッチング支援事業の取組によって、介護ロボットの開発・実証の加速が図られた。

1) リビングラボネットワーク

開発企業(115社)に対して、相談対応238件、ラボ検証18件、実証25件の支援を実施した。具体的な支援内容は現場ニーズの伝達やコンセプト設計、要素技術の工学的評価、模擬環境での評価、実証支援、販売・マーケティング等である。なお、実証支援にあたっては、開発企業から希望があった際、リビングラボが実証フィールドに登録している介護施設等へ円滑に取り次ぐことが出来るよう、事務局において事業説明動画を制作するとともに、実証協力内容等を収集するためにアンケートを実施した。

企業が開発している製品の種類や抱える課題が多様であり、個々の企業の支援ニーズによって適したリビングラボが異なることから、リビングラボ間での取次を通じて、リビングラボネットワークとしての強みを生かした支援を実施した。また、本事業に寄せられる企業の相談には、一度の助言では解決が困難な事があったことから、リビングラボにおいて継続的に意見交換や実証を実施する等の伴走的な支援を実施した。

これらの取り組みの結果、リビングラボにおいて実証を支援した結果を反映させた製品を上市する事例が出てきており、介護現場のニーズに沿った製品の創出につながっていることも把握できた。

2) ニーズ・シーズマッチング支援事業

ニーズ・シーズマッチング支援事業では、介護現場や介護ロボット等の製品知識を有するマッチングサポーターを40名配置(ニーズ側サポーター:22名、シーズ側サポーター:18名)した上で、介護現場の課題を一覧化し、ニーズリストとしてホームページ上で一般公開した。マッチングサポーターは、昨年度より8名増員している。ニーズリストは、介護現場や開発企業からの相談対応を行う相談窓口やリビングラボにおける相談情報をもとに更新することで、最新の介護現場のニーズを開発企業が把握できる仕組みを構築した。さらに、介護分野への新規参入を検討する企業が介護分野特有の制度や開発方法を理解できるよう、これらの内容を有識者が解説するビデオコンテンツを制作し、ホームページ上で一般公開した。

本事業にエントリーした73団体に対して、マッチング①「ニーズリストを介したニーズの紹介、取次」24件、マッチング②「実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介」20件、マッチング③「製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次」5件(うち、開発企業同士のマッチング4件、販売事業者とのマッチング1件)を実施した。

マッチング支援の結果、15件のニーズにおいて、開発企業がニーズに対して前向きな意向を確

認でき、介護現場の課題解決につながる製品の開発支援に寄与できたと考えられる。

また、エントリー団体には、介護分野へ未参入の団体が 32 団体含まれており、これらの団体に対するマッチング支援を通じて、介護分野への参入促進にも一定程度寄与したと考えられる。

上記に加え、本年度はリビングラボネットワーク定例会において、他省庁の政策動向やリビングラボの研究内容を共有することで、介護ロボットの開発を加速するための知見の共有を行った。これらの一環として、厚生労働省と経済産業省が定める開発重点分野の取り扱いに対し、各リビングラボから意見収集を行った。このように省庁の垣根を超えた知見を共有する枠組みを構築できたことも、本事業の成果と捉えている。

(2) 介護ロボットの普及

本年度、相談窓口によって各地域における相談窓口の取組の浸透が図られた。具体的には、相談対応件数 1,139 件、体験展示来場者数延べ 28,622 人、試用貸出件数 312 件の対応を行った。また、上記の取組の結果、介護ロボットの導入件数 76 件といった結果も出ており、相談窓口の各取組が導入に繋がっていることも把握できた。これは、各相談窓口において、本事業開始から積み上げてきた相談対応のノウハウの活用並びに本年度より 2 名体制となり、更に充実した業務アドバイザーの専門的な知見による相談対応力の強化が功を奏したものと考えられる。

また、業務アドバイザーの伴走支援により、地域のベンチマークとなる介護サービス事業所の創出が図られた。具体的には、全相談窓口合計 51 件の介護サービス事業所への伴走支援が実施され、事業所の課題やニーズに応じた適切な機器の導入と適切な業務オペレーションの見直しが必要であること等、取組のプロセスにおける気づきを得ていただくとともに、介護ロボット等を導入するにあたってのマネジメントの重要性について理解を深めることができた。

さらに、協議会の実施により、地域の自治体や業界団体などのステークホルダーを巻き込んだネットワークが形成された。協議会では、地域における介護ロボットや ICT 導入に係る課題について、相談窓口を含む各ステークホルダー間で共通認識として捉え、その上で相談窓口が果たす役割や機能を再認識することができた。協議会を通じ、介護ロボットの普及における地域におけるネットワークづくりの重要性を相互に理解し、協力体制の礎を築くことができたと考えられる。

以下に各取組の詳細を記す。

1) 相談業務

全相談窓口において、相談業務に対する相談者の満足度は高い結果となった。相談後アンケートでは、最高 10 点とした評価において、介護現場(ニーズ側)からの相談では、10 点から 6 点とした回答が計 85.7%、5 点から 1 点が 4.5%(無回答 9.9%)で、開発企業(シーズ側)からの相談では、10 点から 6 点とした回答が計 66.4%。5 点から 1 点が 0.8%(無回答 32.8%)で、高い満足度を得ることができた。満足度が高い理由として、「課題解決に繋がる回答が得られたため」及び「対応が親切だったため」との回答が大半を占めており、相談窓口の相談対応が丁寧でかつ相談者の相談ニーズを十分に把握した上で適切な情報提供が行われたことなどが考えられる。

これは各相談窓口において、本事業開始から積み上げてきた相談対応のノウハウの活用並びに本年度より2名体制となり、更に充実した業務アドバイザーの専門的な知見による相談対応力の強化が大きく寄与したものと考えられる。具体的な業務アドバイザーの専門的な相談の事例として、北九州相談窓口の例が挙げられる。この事例では、見守り支援機器の入替において、機器導入の目的の再確認、体験展示を活用した実機体験及び施設の学習的・金銭的なコストを踏まえた導入機器の絞り込みなどを実施している。

2) 体験展示

体験展示後の体験者アンケートの結果、介護ロボットの今後の導入意向は、「ぜひ導入したい」が16.7%、「今後導入を検討してみてもよい」が25.1%と導入に対して前向きな回答が計41.8%で「必要ない」32.4%を上回り、体験展示が介護ロボット導入の意欲の喚起に繋がったと考えられる。これは、これまで介護ロボットを身近に感じていなかった介護現場にとって、相談窓口に整備された体験展示場が、実際に見て触れて使える機会をもたらしたことが要因の一つと考えられる。

なお、相談窓口の立地場所によって、施設の職員が気軽に立ち寄ることができないなど昨年度事業では、体験展示へのアクセスに関する課題が挙げられた。この課題に対応するため、相談窓口内の常設展示だけでなく、ショッピングセンターや包括支援センターへの出張体験展示の実施や体験展示場を相談窓口に置くのではなく、介護職育成の専門学校に設置することで介護関係者の集客を図った事例もあった。

3) 試用貸出

試用貸出後の貸出対象者向けアンケートにおいて、借り受けた介護ロボットについての満足度は、最高10点とした評価において、10点から6点とした回答が55.9%と概ね高い満足度を得た。

また、借り受けた介護ロボットの導入意向は、「ぜひ導入を検討したい」が11.5%、「今後導入を検討してみてもよい」が24.2%で、導入に前向きな回答が計35.7%と一定の導入意欲の喚起に繋がったと考えられる。

なお、本年度は試用貸出件数も前年度と比較して大幅に増加している。これは、地域における相談窓口の取組に対する認知度の向上に加えて、試用貸出の対象となった介護ロボットの種類の増加が寄与しているものと考えられる。

4) 研修会

本年度から研修会は、業務アドバイザーによる「介護ロボット導入のパッケージモデル」の普及を目的として、全相談窓口において実施された。新型コロナウイルス感染症の影響で集客に苦慮する相談窓口も多くあったが、対面形式から対面形式とWebを用いたオンライン形式の併用型に変更するなど各相談窓口において工夫しながら開催することで、一定の集客を得ることができた。なお、研修会の内容は、「介護ロボット導入のパッケージモデル」の説明にとどまらず、導入事例の紹介や課題の見える化のワークショップを実施するなど、受講者が実際に導入するきっかけとなるよう

実践的な内容を実施する相談窓口が多くあった。

5) 伴走支援

本事業が開始された令和2年度から昨年度まで、相談窓口は広く地域に取り組みを周知し、来訪する相談者をいかに増やすかという観点で事業を実施してきた。積極的な周知の結果として、相談窓口に来訪し相談や体験展示を経験する介護サービス事業所数や試用貸出の利用数は増加してきたが、それらの事業所の多くは介護ロボット等の導入に対してもとより興味・関心のある事業所が多く、潜在的なニーズを有していたといえる。言い換えれば業務改善、介護ロボット等の導入について新たなニーズの掘り起こしの観点では不十分であったともいえる。

本年度においては、この課題への対応策として、伴走支援を実施することとした。つまり、介護ロボット等の普及を促進するため、相談窓口は地域に出向き伴走支援によってベンチマークとなる事業所を創出することで、地域の身近な事業所が一步進んでいる姿を見せ、業務改善や介護ロボット等の導入・活用の必要性を感じさせることでニーズの喚起を促す取組である。

伴走支援では、介護ロボット等の導入・活用の手順を体系化した「介護ロボット導入のパッケージモデル」を用い、伴走支援事業所における課題を踏まえた適切な介護ロボット等の選定に関する助言、介護ロボット等の導入にあたっての事業所内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット等の導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等を実施した。

伴走支援の取組開始前、多くの各相談窓口において、伴走支援先となる介護サービス事業所が集まらないなど選定に苦慮する場面もあったが、地域の介護関連団体の協力を得て、全ての相談窓口において、3事業所の伴走支援が実施された。伴走支援の内容は、「介護ロボット導入のパッケージモデル」を基にして、更に業務アドバイザーの持つ専門的な知見を踏まえた上で実施された。

なお、伴走支援の実施期間や内容は伴走支援事業所によって異なるため、いくつかの伴走支援施設では介護ロボット等の導入効果を測定する段階に至らなかった。しかし、導入の過程における業務アドバイザーからの助言やファシリテーション等を通じて、介護ロボット等の導入の効果は、介護ロボット等の導入のみではなく、組織をマネジメントする必要があること、また、マネジメントするためには、組織の心理的安全性を高めモチベーションを維持・向上させることが不可欠であることを学んだ、といった声が聞かれた。この組織のマネジメント、組織のモチベーションこそが介護ロボット等の導入に留まらず事業所の生産性向上を推し進める源泉であると考えられる。

このように、介護ロボット等を含む業務改善の取組は、施設単独で取組を推進するのではなく、業務アドバイザーなどのように外部からの意見・支援が有用であると考えられ、長期的に地域で自立的に取り組むためには、地域において、人材育成やネットワークづくりを活性化することが重要であると考えられる。一方で、本年度の課題として、伴走支援事業所のサービス種別の施設系サービス事業所への偏りや伴走支援を実施できる支援者の存在が限定的である点が挙げられる。次年度以降、これらの課題に対応するため、居宅サービス事業所を含めた伴走支援の実施やパッケ

ージ導入モデルの普及に向けた相談窓口担当者も含む伴走支援者の更なる育成が求められる。

6) 協議会

協議会では、地域の自治体、関連団体、介護ロボットやICT導入において先進的な介護施設を主な構成員として実施された。多くの地域において、介護ロボットやICTに関する公的補助金の執行率や執行額は右肩上がりに推移しているものの、介護ロボットやICTを効果的に活用している介護施設は非常に少ないという現状があることが把握された。また、参加した構成員からは、介護ロボットやICTの導入そのものが目的化してしまい、本来の目的である施設の抱える課題の解決に至っていないといった意見もあった。

このように様々なステークホルダーが集う協議会において、地域における介護ロボットやICT導入に係る課題を共通認識として捉え、その上で相談窓口は果たす役割や機能を再認識できたことで地域のネットワークの礎を築くことができたと考えられる。

また、一部の相談窓口においては、ネットワークの構築に留まらず、地域における介護現場の生産性向上の取組の推進のために、テクノロジーの活用における課題と推進の必要性について合意形成が図られるとともに継続的に議論を進める場として今回設置された協議会を活用することや各ステークホルダーが相互に協力していくことまで取り決めたケースもあった。次年度以降、各都道府県による設置が見込まれる介護現場革新会議においては、継続して生産性向上の推進について議論を進め、地域における具体的な支援を検討していくこととされていることから、先述のケースは先進的な事例として参考とされることが期待される。

第2節 今後必要と考えられる取組

(1) 介護現場を支援する人材・組織のネットワーク構築

本年度、各相談窓口において実施された協議会では、地域の自治体や関連団体等のステークホルダーと介護ロボットやICT導入普及における課題について共通の認識を持つとともにステークホルダーと相談窓口の相互理解を深めることができた。また、生産性向上の取組に対する理解や介護現場での取組を支援する必要性についても合意を図ることができた。これにより、各地域に介護現場を支援する組織のネットワークの足場ができたと考えられる。

しかしながら、このネットワークの中で介護現場に直接的に支援が可能な組織は、相談窓口及び業務アドバイザーに限られている。より多くの介護現場を支援していくためには、生産性向上の取組や介護ロボットやICT導入における支援のノウハウを有する人材や組織についてもネットワークを拡大していき、生産性向上及び介護ロボットやICT導入の取組を地域において加速化していくことが重要である。

(2) 生産性向上施策と本事業の連携

来年度以降、各都道府県において、地域における生産性向上の取組の推進に関する司令塔として、課題や展望を広く議論する介護現場革新会議の開催、生産性向上に取り組む介護現場か

らの相談に対応するワンストップ相談窓口である介護生産性向上総合相談センターの設置が進められることとされている。また、介護生産性向上総合相談センターの設置促進ならびに設置された介護生産性向上総合相談センターの取組を支援する中央管理事業が実施されることとされている。

本事業の相談窓口では、介護生産性向上総合相談センターに先んじて、相談対応や体験展示、試用貸出、伴走支援など介護現場に対する直接的な支援並びに協議会設置による地域でのネットワークの構築を実施しており、既に介護現場への支援における経験やノウハウを蓄積していることから、これらの経験やノウハウを介護生産性向上総合相談センターの取組にも活用されることが望まれる。具体的には、本事業で実施される相談窓口勉強会、相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議への参加や各相談窓口への訪問などで相互に情報が交換できる場の設定などが考えられる。

(3) 省庁・事業を跨いだ情報連携

本年度は、リビングラボネットワーク定例会において政策動向やリビングラボの研究内容について共有を行い、省庁・事業を跨いだ情報連携の枠組みを構築した。介護ロボットに関連する研究開発の支援事業は、今後も各省庁や自治体等においても実施される見込みであり、個々の企業の開発課題に応じた適切な支援を行うためには、本事業以外の取組についても相互に共有する場を提供することが重要と考えられる。

(4) ニーズ・シーズ連携及び他産業からの参入促進

介護分野への参入を検討している企業に対して、企業が有する技術を活用することで、解決し得る介護現場の課題を発信することは、介護分野への参入と開発の加速につながると考えられる。

本事業では、相談窓口やリビングラボと連携することで、介護現場のニーズを継続的に発信する仕組みを構築したが、介護現場のニーズは日々変化しているため、これらの取組を今後も継続することが重要である。

また、ニーズリストを介して介護現場の課題を具体的に把握することを希望する企業に対して、様々な専門性を有するマッチングサポーターのネットワークを活かした助言や介護現場への取次を行うことが重要である。この際、マッチングサポーターが企業の支援ニーズに応じた支援を行うために、企業側から開示される製品情報は重要となる。本年度は、企業が情報を開示してマッチング支援を希望する際、秘密保持契約を締結できるような仕組みを構築したが、企業情報の機密性に配慮したマッチング支援の仕組みを検討することは今後も必要となる。

さらに、介護現場のニーズに合った製品の開発を加速する上では、多方面から優秀な技術を持った企業の介護分野への参入を加速させることが重要である。一方で、介護分野への新規参入を検討している企業からは、介護分野で期待する収益をあげることが難しいイメージがある、といった声が多くあった。このため、開発企業目線で、製品の開発事例や介護ロボットの導入事例を広く発信し、企業の参入意欲を向上することが必要と考えられる。